

福岡市埋蔵文化財調査報告書第1110集

今宿五郎江 10

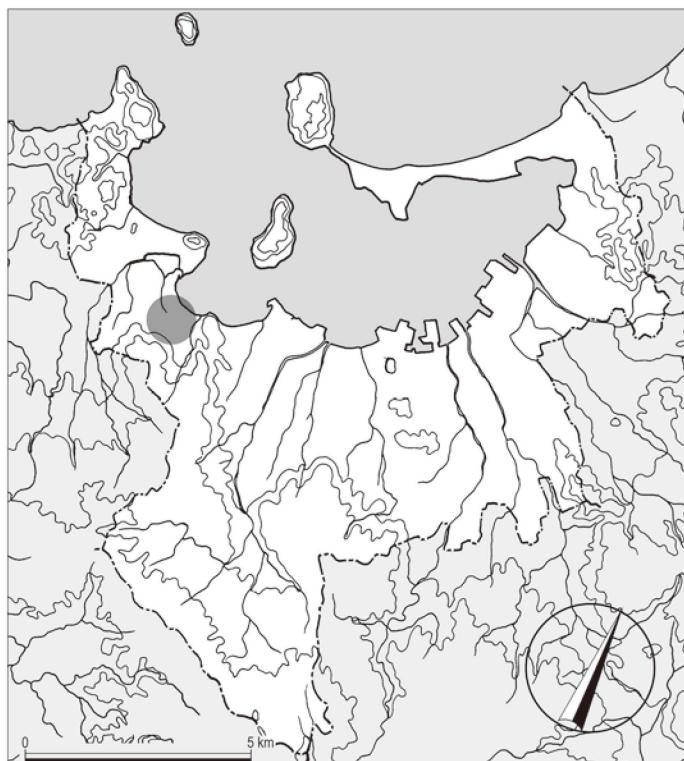
—今宿五郎江遺跡第10次調査報告(2)—

2011

福岡市教育委員会

いま じゅく ご ろう え
今宿五郎江 10

- 今宿五郎江遺跡第10次調査報告(2) -



調査番号 0420
遺跡略号 IZG-10

2011

福岡市教育委員会

序

福岡市の西部に位置する今宿平野は、「伊都国」として中国の史書にその名を残す糸島平野の東を占め、歴史的にみても重要な位置にある地域です。ここではいま、大規模な土地区画整理事業が進行し、田園地帯は日々街へと姿を変えつつあります。福岡市では、工事等により現状での保存が不可能となった埋蔵文化財について、記録による保存を図ることとし、そのための発掘調査を行ってきました。本書は、この目的で伊都土地区画整理事業地内の埋蔵文化財について実施した調査の報告書として刊行するものです。

本報告の刊行は、関係各位の多大なご理解とご協力の結果であるとをここに記し、心からのお礼を申し上げます。また、本書が今宿平野の歴史について、理解を深めるための資料として資するところがあれば幸いです。

平成23年3月18日

福岡市教育委員会
教育長 山田 裕嗣



図1 今宿五郎江第10次調査地点（南から）

はじめに

- 1 本書は、2004（平成16）年から2005（平成17）年度にわたり、福岡市西区今宿町地内伊都土地区画整理事業地で福岡市教育委員会がおこなった、埋蔵文化財発掘調査の報告である。
- 2 報告する調査は、調査番号0420今宿五郎江遺跡第10次調査で、分割して報告するうちの第2である。本書では、溝427遺物出土状況及び出土木製品ならびに包含層及び谷部遺構出土木製品を報告する。
- 3 発掘調査は、文化財保護法57条の3（改正前）に基づく通知を受け、埋蔵文化財保存についての協議を行った結果、福岡市都市整備局伊都区画整理事務所の依頼により、記録保存を目的として、教育委員会埋蔵文化財課（当時）が実施したものである。作業は、関係各位のご理解とご協力のもと、円滑に遂行することができた。この場で深く感謝申し上げる。
- 5 発掘調査は、埋蔵文化財課（現埋蔵文化財第2課） 杉山富雄が担当し、2区および3区の調査では阿部泰之の協力を得た。本書編集は、杉山がおこなった。今回報告の遺物実測は、編者が行ったほかに木下博文の協力を得た。掲載図作成は編者がおこなった。
- 6 出土資料および調査記録は、福岡市埋蔵文化財センターで収蔵管理し、利用に供する予定である。

凡 例

- 1 位置の記録は、伊都土地区画整理事業に伴い設置された基準点（日本測地系）を利用し、その座標値で示した。
- 2 図中に用いる方位は国土座標の座標北であり、真北から $0^{\circ} 19'$ 西偏している。
- 3 遺物実測図について、木製品は縮尺4分の1を標準とし、そのほかの縮尺の場合は、棒尺により示すか、必要に応じて遺物番号に続けて記した。
- 4 報告中では、遺構・遺物に対し、調査中から整理の過程を通じて登録した通し番号で表記した。また、報告後、これを収蔵管理に際しての登録番号とする。このため、報告中の表記が煩雑となるが、調査から収蔵までの過程の情報を一貫して管理し、台帳・図・日誌等関係情報を極力参照、検証できるようなかたちで残してゆきたいとの意図からである。また、番号の種別を明示する必要のあるときは、遺構については区分の記号M、遺物については記号Rを付している。
- 5 調査に際して、位置の表示に座標系の格子を利用した。100m・100m・10m・2mを単位に格子を設定し、それぞれに付した番号を組み合わせて位置表示を用いている。〔例 G26-0112は100m格子26中の10m格子01、その2m格子12。各数字の左は東基準線からの列数、右は南基準線からの段数、26は東から2列目の6段目の格子。 図3参照〕

本文目次

I 溝427遺物出土状況と出土木製品	1
1. 溝427遺物出土状況	1
(1) 今宿五郎江遺跡第10次調査	
出土遺物の構成	1
(2) 溝427 25層遺物出土状況 (図5)	1
(3) 溝427 16層遺物出土状況 (図6~13)	1
(4) 溝427 18層遺物出土状況 (図14~23)	1
(5) 溝427 19層遺物出土状況 (図24)	3
(6) 溝427 22層遺物出土状況 (図25~33)	3
2. 溝427出土木製品	4
(1) 溝427土木製品 (図34~40、表1~4)	4
(2) 溝427-18層出土木製品 (図34~40、表1~4)	4
(3) 溝427-19層出土木製品 (図41、表4)	15
(4) 溝427-22層出土木製品 (図42~50、表5~8)	15
(5) 溝427中検出遺構出土木製品 (図53~62、表8~11)	35
遺構1054 (図51、表8)	35
遺構1061 (図52・53、表8)	36
遺構1062 (図54・55、表9)	36
遺構1070 (図56・57、表10)	38
遺構1071 (図58~62、表10・11)	38
II 包含層及び谷部遺構出土木製品	42
1. 包含層出土木製品	42
5層出土木製品 (図63、表11・12)	42
6層・11層出土木製品 (図63・64、表12・13)	43
12層出土木製品 (図65・66、表13・14)	44
13層出土木製品 (図65・66、表14)	47
2. 谷部遺構出土木製品	48
溝1012出土木製品 (図68、表15)	48
流路1044出土木製品 (図55、表9)	48
流路1089出土木製品 (図68、表15)	48
凹地1113出土木製品 (図49、表15)	49
矢板列 1093・矢板列1095 (図69、表15・16)	49
IIIまとめ	67

図目次

図1 今宿五郎江第10次調査作業風景/遠景	iv
図2 今宿五郎江遺跡調査区地点位置図 (1:2000)	2
図3 今宿五郎江遺跡第10次調査全体遺構図 (1:500)	3
図4 今宿五郎江遺跡第10次調査地点土層模式図	4
図5 溝427遺物出土状況(25層 G26-99区 北から)	5
図6 溝427遺物出土状況(16層 G35-10区 北から)	5
図7 溝427遺物出土状況(16層 G26-01区 北から)	5
図8 溝427遺物出土状況(16層 G26-02区 北から)	6
図9 溝427遺物出土状況(16層 G26-03区 北から)	6
図10 溝427遺物出土状況(16層 G26-04区 北から)	6
図11 溝427遺物出土状況(16層 G26-05区 北から)	7
図12 溝427遺物出土状況(16層 G26-97区 北から)	7
図13 溝427遺物出土状況(16層 G26-98区 北から)	7
図14 溝427遺物出土状況(18層 G35-10区 南から)	8
図15 溝427遺物出土状況(18層 G26-01区 北から)	8
図16 溝427遺物出土状況(18層 G26-02区 南から)	9
図17 溝427遺物出土状況(18層 G26-03区 北から)	9
図18 溝427遺物出土状況(18層 G26-05区 北から)	9
図19 溝427遺物出土状況(18層 G26-06区 北から)	10
図20 溝427遺物出土状況(18層 G26-96区 南から)	10
図21 溝427遺物出土状況(18層 G26-97区 東から)	10
図22 溝427遺物出土状況(18層 G26-98区 北から)	11
図23 溝427遺物出土状況(18層 G26-99区 東から)	11
図24 溝427遺物出土状況(19層 G26-01区 東から)	11
図25 溝427遺物出土状況(22層 G35-10区 北から)	12
図26 溝427遺物出土状況(22層 G26-01区 北から)	12
図27 溝427遺物出土状況(22層 G26-02区 東から)	12
図28 溝427遺物出土状況(22層 G26-03区 北から)	12
図29 溝427遺物出土状況(22層 G26-04区 東から)	13
図30 溝427遺物出土状況(22層 G26-06区 北から)	13
図31 溝427遺物出土状況(22層 G26-90区 北から)	13
図32 溝427遺物出土状況(22層 G26-97区 北から)	14
図33 溝427遺物出土状況(22層 G26-98区 北から)	14
図34 溝427 18層出土木製品(1)	16
図35 溝427 18層出土木製品(2)	17
図36 溝427 18層出土木製品(3)	18
図37 溝427 18層出土木製品(4)	19
図38 溝427 18層出土木製品(5)	20
図39 溝427 18層出土木製品(6)	21
図40 溝427 18層出土木製品(7)	22

表目次

図41 溝427 19層出土木製品	23	表1 溝427 18層出土木製品観察表	50
図42 溝427 22層出土木製品(1)	24	表2 溝427 18層出土木製品観察表	51
図43 溝427 22層出土木製品(2)	25	表3 溝427 18層出土木製品観察表	52
図44 溝427 22層出土木製品(3)	26	表4 溝427 18層・19層・22層出土木製品観察表	53
図45 溝427 22層出土木製品(4)	27	表5 溝427 22層出土木製品観察表	54
図46 溝427 22層出土木製品(5)	28	表6 溝427 22層出土木製品観察表	55
図47 溝427 22層出土木製品(6)	29	表7 溝427 22層出土木製品観察表	56
図48 溝427 22層出土木製品(7)	30	表8 溝427 22層・遺構1054・遺構1061 出土木製品観察表	57
図49 溝427 22層出土木製品(8)	31	表9 遺構1062・遺構1070出土木製品観察表	58
図50 溝427 22層出土木製品(9)	32	表10 遺構1070・1071出土木製品観察表	59
図51 遺構1054出土木製品	33	表11 遺構1071、包含層5・6層出土木製品観察表	60
図52 遺構1061遺物出土状況(1:40)	34	表12 包含層5層・6層・11層出土木製品観察表	61
図53 遺構1061出土木製品	34	表13 包含層11層・12層出土木製品観察表	62
図54 遺構1062遺物出土状況(1:40)	35	表14 包含層12層・13層出土木製品観察表	63
図55 遺構1062出土木製品	35	表15 遺構出土木製品観察表 (遺構1012・1089・1113・1122、矢板列1093・1095)	64
図56 遺構1070遺物出土状況(1:40)	36	表16 矢板列1082出土木製品観察表	65
図57 遺構1070出土木製品	37	表17 報告木製品一覧(索引)	66
図58 遺構1071遺物出土状況(1:30)	38		
図59 遺構1071出土木製品(1)	39		
図60 遺構1071出土木製品(2)	40		
図61 遺構1071出土木製品(3)	41		
図62 遺構1071出土木製品(4)	42		
図63 包含層5層・6層出土木製品	43		
図64 包含層11層出土木製品	44		
図65 包含層12層出土木製品(1)	45		
図66 包含層12層出土木製品(2)	46		
図67 包含層13層出土木製品	47		
図68 遺構1012・1089・1113・1122出土木製品	48		
図69 矢板列1093・1095出土木製品	49		

I 溝427 遺物出土状況と出土木製品

1. 溝427遺物出土状況

(1) 今宿五郎江遺跡第10次調査出土遺物の構成

第10次調査における出土遺物中最も分量の多いのは土器である。それについて整理の過程で秤量した。なお、出土量の多かった5層・5b層とした包含層については、調査現場において分別措置したため、秤量していない。また、石製品等別素材の遺物も含まれていない。結果として秤量した土器の総重量は6,700kg余となった。このうち、谷部包含層出土土器量が、1,200kg余、遺構出土土器量が5,500kg余である。遺構出土土器のうち8割強の4,580kgが溝427出土資料である。^{註1)}

また、多少なりとも人為的な改変が観察された資料を木製品として取り上げ、個体として記録したもののが1,100点余ある。このなかに器具、部材と分類して木器とするもの180点余を含む。木製品のうち溝427出土資料は約373点で、残りは谷部包含層及び別遺構から出土した。

(2) 溝427 25層遺物出土状況（図5）

溝427は、遺跡南縁から回り込み、調査区内でその東縁に沿い北へ向かう溝である。今宿五郎江第10調査では、調査区の南端から北端へ縦断する位置で検出した。溝427を埋める堆積層は調査では大きく4部層に分けて掘り下げ、遺物を取り上げた。以下、上位から各層ごとに遺物出土状況を報告する。

25層とするのは、溝427を埋積する堆積の最上部の層で、団粒状の地山土を含み、生成に人の関わりが疑われる層である。木炭を含む薄層を挟む場所がある。土器類は430kgと溝427出土量の10%ほどの分量が出土している。図5に示すように溝の半ば埋没した窪みの中央に、完形のままの土器を含みまとめて出土する部位がある。26-05区で目立って密に出土している。

(3) 溝427 16層遺物出土状況（図6～13）

16層は、黒褐色泥炭質の粘土層である。土器は西岸側の流入土（23層）を含めて2,240kgと、50%近い量が出土した。26-02区と26-05区（図11）を中心とした範囲ではとくに多量出土した。26-04区（図10）から26-05区にかけて西岸から投棄したような状態が特に顕著に見られた。木質遺物の遺存はまれである。

(4) 溝427 18層遺物出土状況（図14～23）

18層はレンズ状の砂層と泥炭質層とが互層を成しており、流水下での堆積層である。溝427の土器は西岸からの流入層（21層）を含め1,090kg出土した（20%強）。出土量は南半部に偏在し、特に35-10区（図14）を中心とした調査区南端部特に多量の出土があった。2m区で50kg以上出土した区画がある。しかし、25層、16層であったような土器の投棄、流れ込みといったような出土状況は顕著ではなく、洗い出しというような出土状況といえる。

木質の遺物は本層以下出土の資料が大半である。160余点の木製品中に木器35点を含み、断片となつた樹木の中に混じって出土した。場所により特に樹木断片の多いところと比較的少ないところとが見受けられる。木製品の出土量は土器のそれと分布が似ている。とくに木器のみをみると35-10区、

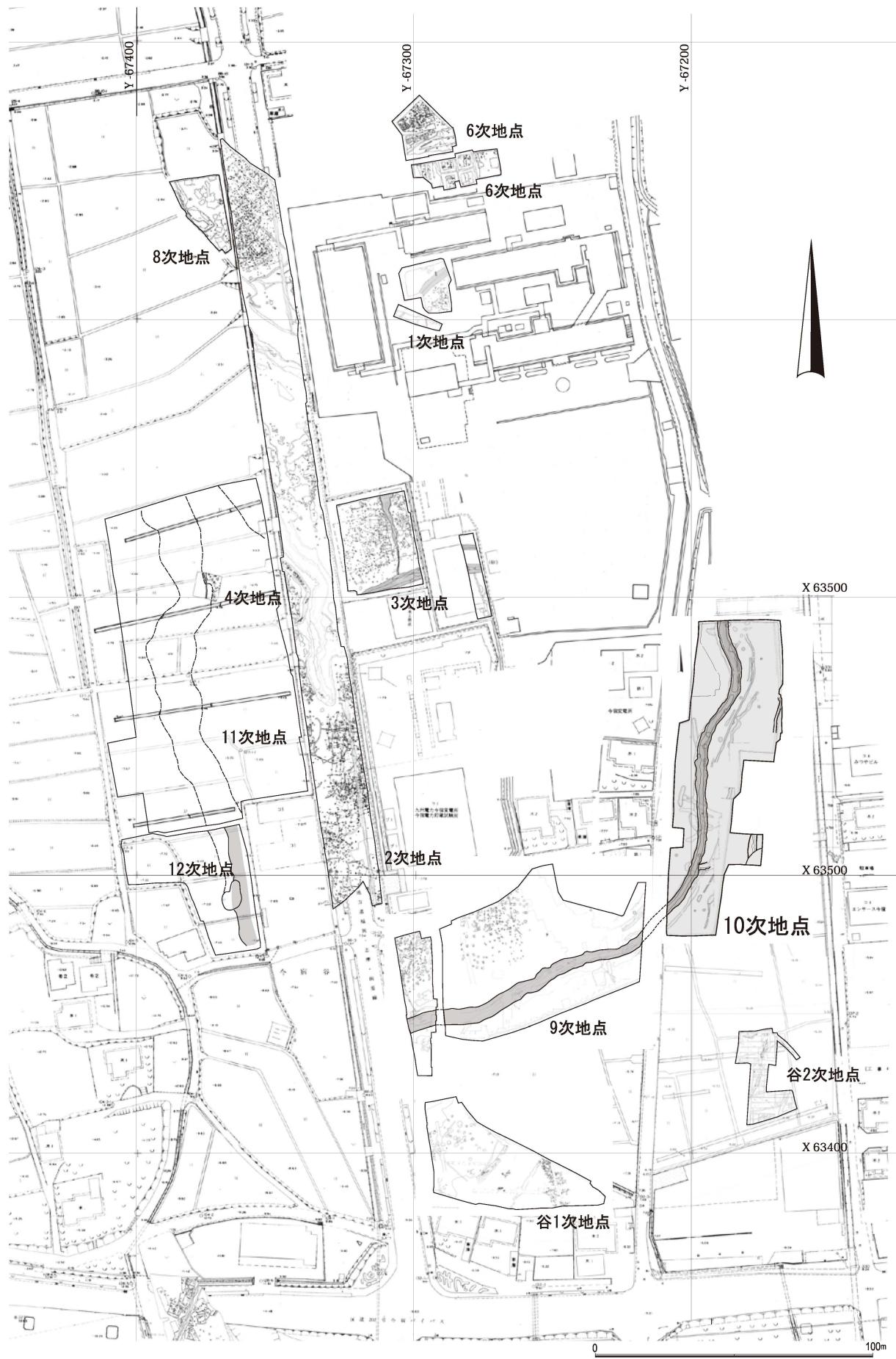


図2 今宿五郎江遺跡調査地点位置図 (1:2,000)

26-03区(図17)、26-05区(図18)、26-97区(図21)に集中している。

(5) 溝427 19層遺物出土状況
(図24)

19層とするのは黒褐色泥炭質の層で、調査区北半部の限られた範囲に分布する。18層の堆積と併行するものかもしれない。

19層とした土器は約60kg、木製品7点、うち2点が木器である。

(6) 溝427 22層遺物出土状況
(図25～33)

22層は、最下層の黒褐色泥炭質粘土層で、溝427の全域に分布する。上位の18層とは矢板列1071の遺存状況から不整合の関係にあると考えられる。

遺物は上半部に多く出土している。土器は190kg余出土した。特に35-10区(図25)、26-03区(図13)に集中する。木製品は190点、うち木器が39点と溝427中では最も多く出土している。

土器について、投棄あるいは流入したような出土状況は確認できなかった。木器は調査区北半部に多く、特に26-01区(図26)、26-02区(図27)、26-03区に多い。

26-03区辺りから下流側(北側)は、木質の遺物は淀みにたまつたような状態を示す。この位置に遺構1071がある。

註)1 土層についての説明は、『今宿五郎江7』福岡市埋蔵文化財調査報告書第1009集 2008

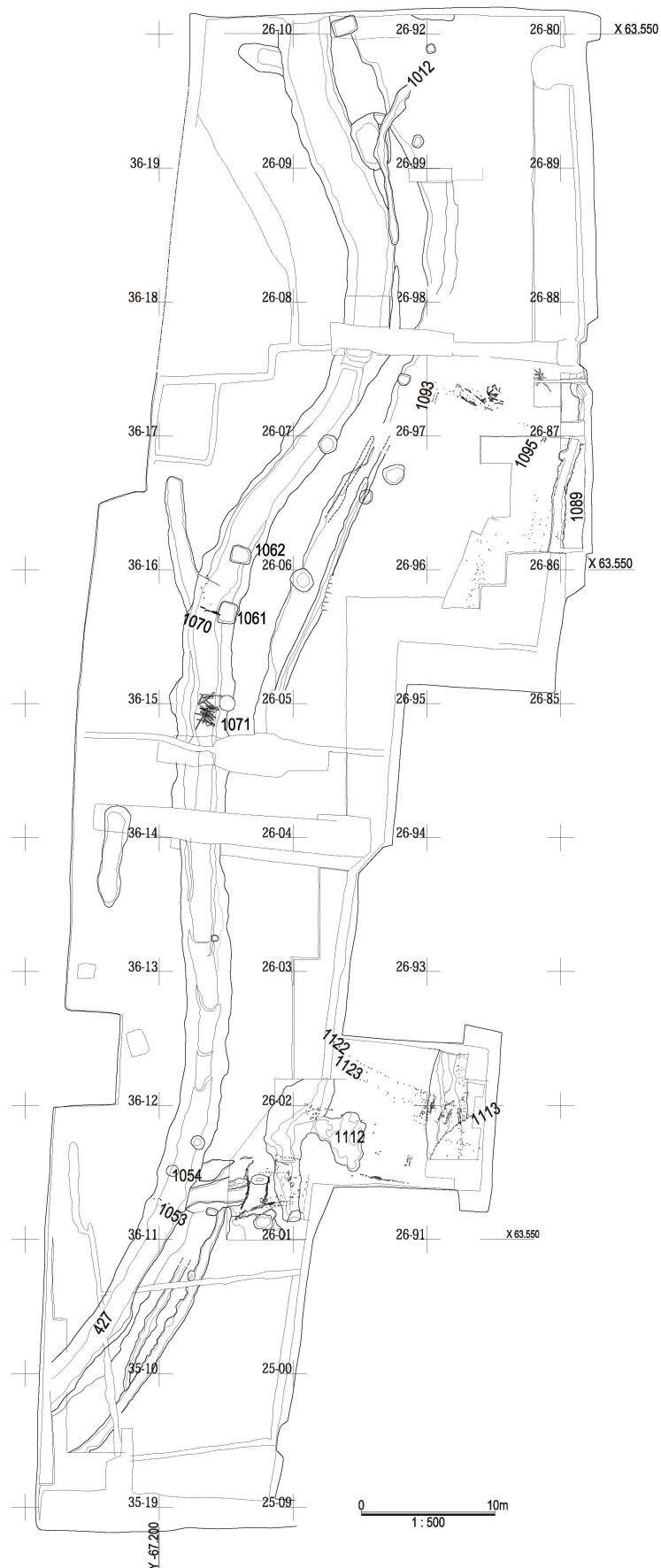


図3 今宿五郎江遺跡第10次調査全体遺構図 (1 : 500)

2. 溝427出土木製品

(1) 溝427土木製品 (図34~40、表1~4)

溝427出土資料のうち、木製品として登録したのは、溝中検出遺構からの出土資料を除き428点である。なかで木器とするものは81点で、残りは少數の杭、矢板のほかは、割材等最低限の手が加わったもので木材と分類した資料である。

10m区ごとの数量を見てみると、調査区の南半部で約6割、南2/3では9割が出土しており、出土数に偏りが見られる。木製品全体の分布を見てみると、それほどの大きな偏りとはならない。

以下、出土層順に木器を報告する。なお、個別資料の計測値など詳細は後掲表に示す。

(2) 溝427-18層出土木製品 (図34~40、表1~4)

18層からは、189点の木製品が出土し、このなかで36点の木器がふくまれる。このなかで最も多く出土したのは箒(やす)で12点、次いで桑の類、横槌、豎杵がある。

鍬 図34・34に示す。1347・1893・2580・7610は叉鍬である。刃部を欠く資料2580は三叉鍬である。他の2点も各部位の形状は、2580によく似ている。資料13 49、1587は、叉鍬とみるが、形状については、疑問が残る。鍬とするならば二叉鍬と考えられる。

えぶり(図36-1417・3278) ともに、柄孔は方形で、体部と柄が直交に近い取り付け角度となる。柄孔の周囲は片面側を島状の高まりに残し、他面を緩くくぼめた様な形状に整形している。刃部とする縁は、急な角度削ぎ落したようになって、厚い刃縁を形成している。但し割れ面と見える部分があり、若干の疑問が残る。

鋤 1531(図37) 刃部が非対称であるが、刃付けが行われている。張出しがない側には肩に対応する部分にその痕跡が残るよう目に観察され、破損したものの再利用とも見える。2460(図39) 枠子とも見えるが、縁部に刃付けがなされているようあり、組合せの鋤の可能性を考える。

鍬柄 1393 完存資料である。着柄部を除き、器表は平滑である。柄取付部の切欠きから、かなり急な角度での着柄が想定できる。

柄 1579 装着部に、平坦面を削りだしているが、幅が狭い。それ以外の造作は見られない。

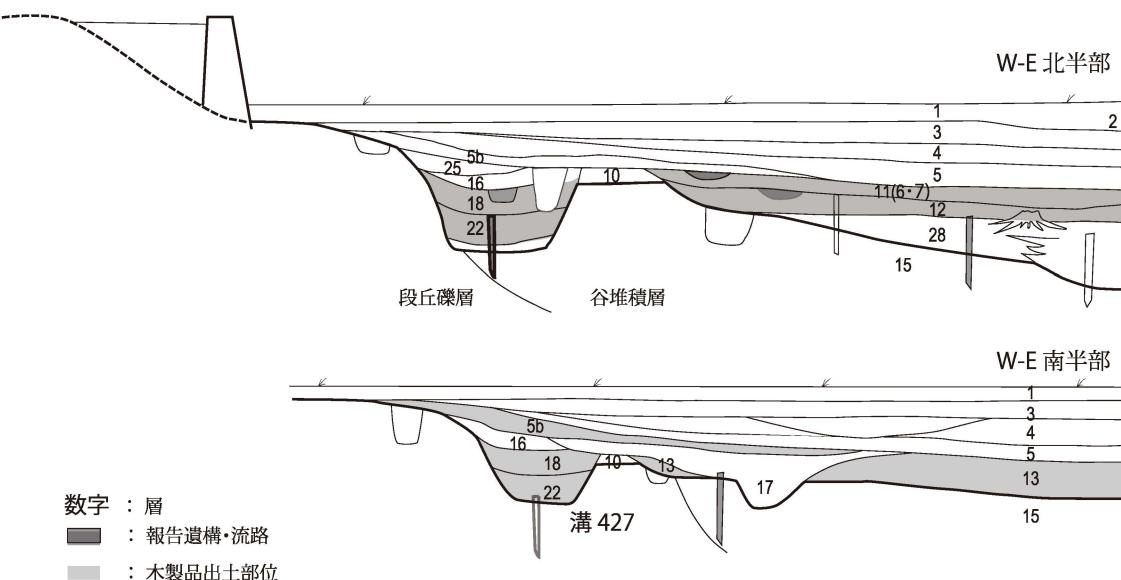


図4 今宿五郎江遺跡第10次調査地点土層模式図



図5 溝427遺物出土状況
(25層 G26-99区 北から)



図6 溝427遺物出土状況
(16層 G35-10区 北から)



図7 溝427遺物出土状況
(16層 G26-01区 北から)

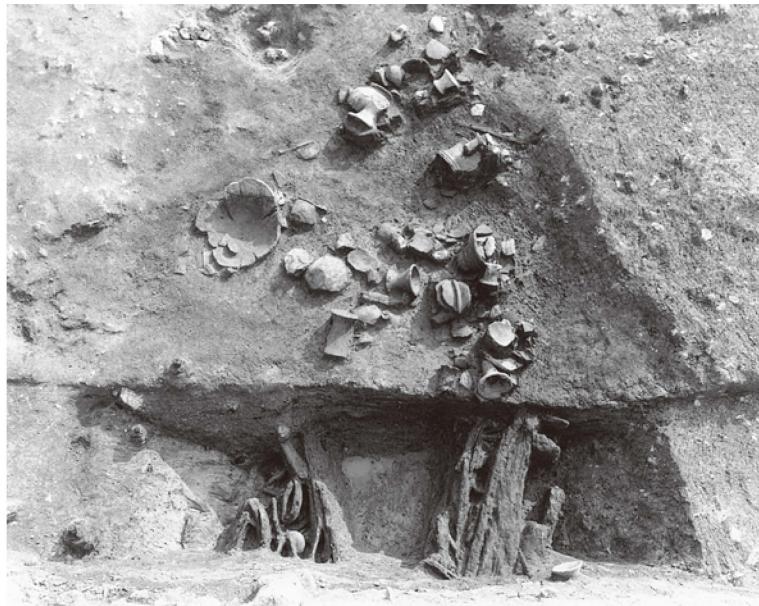


図8 溝427遺物出土状況
(16層 G26-02区 北から)



図9 溝427遺物出土状況
(16層 G26-03区 北から)



図10 溝427遺物出土状況
(16層 G26-04区 北から)



図11 溝427遺物出土状況
(16層 G26-05区 北から)



図12 溝427遺物出土状況
(16層 G26-97区 北から)



図13 溝427遺物出土状況
(16層 G26-98区 北から)



図14 溝427遺物出土状況
(18層 G35-10区 南から)



図15 溝427遺物出土状況
(18層 G26-01区 北から)



図16 溝427遺物出土状況
(18層 G26-02区 南から)



図17 溝427遺物出土状況
(18層 G26-03区 北から)



図18 溝427遺物出土状況
(18層 G26-05区 北から)



図19 溝427遺物出土状況
(18層 G26-06区 北から)



図20 溝427遺物出土状況
(18層 G26-96区 南から)



図21 溝427遺物出土状況
(18層 G26-97区 東から)



図22 溝427遺物出土状況
(18層 G26-98区 北から)



図23 溝427遺物出土状況
(18層 G26-99区 東から)

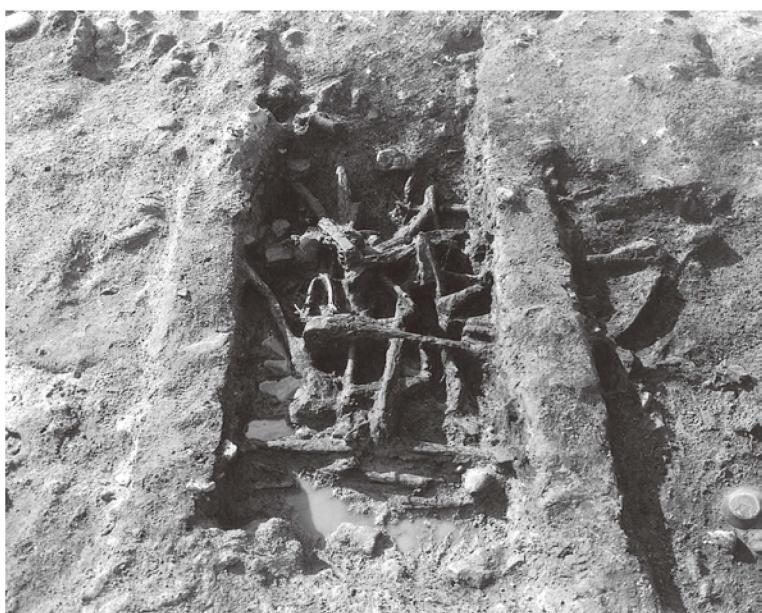


図24 溝427遺物出土状況
(19層 G26-01区 東から)



図25 溝427遺物出土状況 (22層 G35-10区 北から)



図26 溝427遺物出土状況 (22層 G26-01区 北から)



図27 溝427遺物出土状況 (22層 G26-02区 東から)



図28 溝427遺物出土状況 (22層 G26-03区 北から)



図29 溝427遺物出土状況
(22層 G26-04区 東から)



図30 溝427遺物出土状況
(22層 G26-06区 北から)



図31 溝427遺物出土状況
(22層 G26-90区 北から)



図32 溝427遺物出土状況
(22層 G26-97区 北から)



図33 溝427遺物出土状況
(22層 G26-98区 北から)

横槌 図38(1345・1353・1503・1507・1508・2329・2330・2955・7592)を一括して横槌とするが、細身のものには、豎杵かと思われる資料がある。2955以外では柄端の作り出しが不明瞭である。一方、搗面の状態も腐蝕もあって不明瞭である。なお、7592では、体部と柄部の境界稜上に細い圈線が刻まれている。細身の資料は、黒色緻密な木材を利用している点、特徴的である。

箒(やす) 図39(1384・1572・2380・2410・2471・9441)に示す。形状、特に太さについて幅があり、一括分類するには難がある。基部とする側は斜めに削ぎ落して広い平坦面を作り出しており、着柄あるいは組合せのための整形かと思われるが、出土時にそれとわかる状態は観察できなかった。2471は中央に切欠き、9441は先端近くに切欠きを設けている。1384・2380は太く、ともに先端部は相応に鈍い。

尖頭器7567 特段の整形痕は認められないが、籠状の木材の端部が磨いたようになり、尖頭部を形成する。

切欠きのある部材 937 形状に整形した薄い板材の一片に1カ所、対応する辺に2箇所の切欠きを設けている。使用による擦れ等は残らず、各面は新鮮なままである。

2631(図39)は両端部が楔状を呈し、中央部の片側を弧状に削り込み把手状に整形する。

1385(図40) 穿孔がある板状の木器である。平面形は小判形と復原でき、中軸をややその位置に1対の穿孔がある。その向き合った縁部が紐ずれのように窪んでいる。

杭 7613(図40) 頭部まで遺存し全形を知ることのできる資料である。

棒状の加工品 9444は、丸木の一端を断面台形状に整形し、他端を斜めに切断する。杭のようであるが尖頭部を作出しない。

扉板2637(図40) 上下端とも割れ面と見えるが、詳細不明。軸等は観察できない。中央部付近に1箇所、片側に寄って対になる2箇所に長方形の穿孔を行う。中央の欠損部は検出時にはつまみ状の長方形突起が遺存していた。

(3) 溝427-19層出土木製品 (図41、表4)

19層からは、10点の木製品が出土し、このなかで2点を木器と分類し、図示する。19層は限られた範囲で確認し、遺物量も小量となった。

容器1342 細片資料である。口縁の形状から円形の平面形を想定すると、足付きの盤と復原できる。横木取りの材から削り出すもので、口縁部は鋤先状を呈し、その外側に脚が付く。脚の数は不明。脚部のみ遺存状態がよく、螺旋状の細い削り面により整形されたことがわかる。復原する口径は39cm、遺存部の高さ5cmを計る。

豎杵1378は、長軸方向の細い削り面で整形されている。搗面は平滑な平面となり、光沢を生じている。

(4) 溝427-22層出土木製品 (図42~50、表5~8)

22層からは、190点の木製品が出土し、このなかで39点が木器である。このなかで最も多く出土したのは鍬の類で9点、以下は目立って多いものはない。各種の柄とする資料がある。34点を図示する。

図41~44に鍬を示す。

狭鍬2640(図41) 片側1/3を欠く。身部が長く薄い。刃縁の整形は不明であるが、全体に刃に向かい薄くなる。

叉鍬(図42-1755・2439) いずれも破片である。刃部資料2439の器表は風化したようになっている。

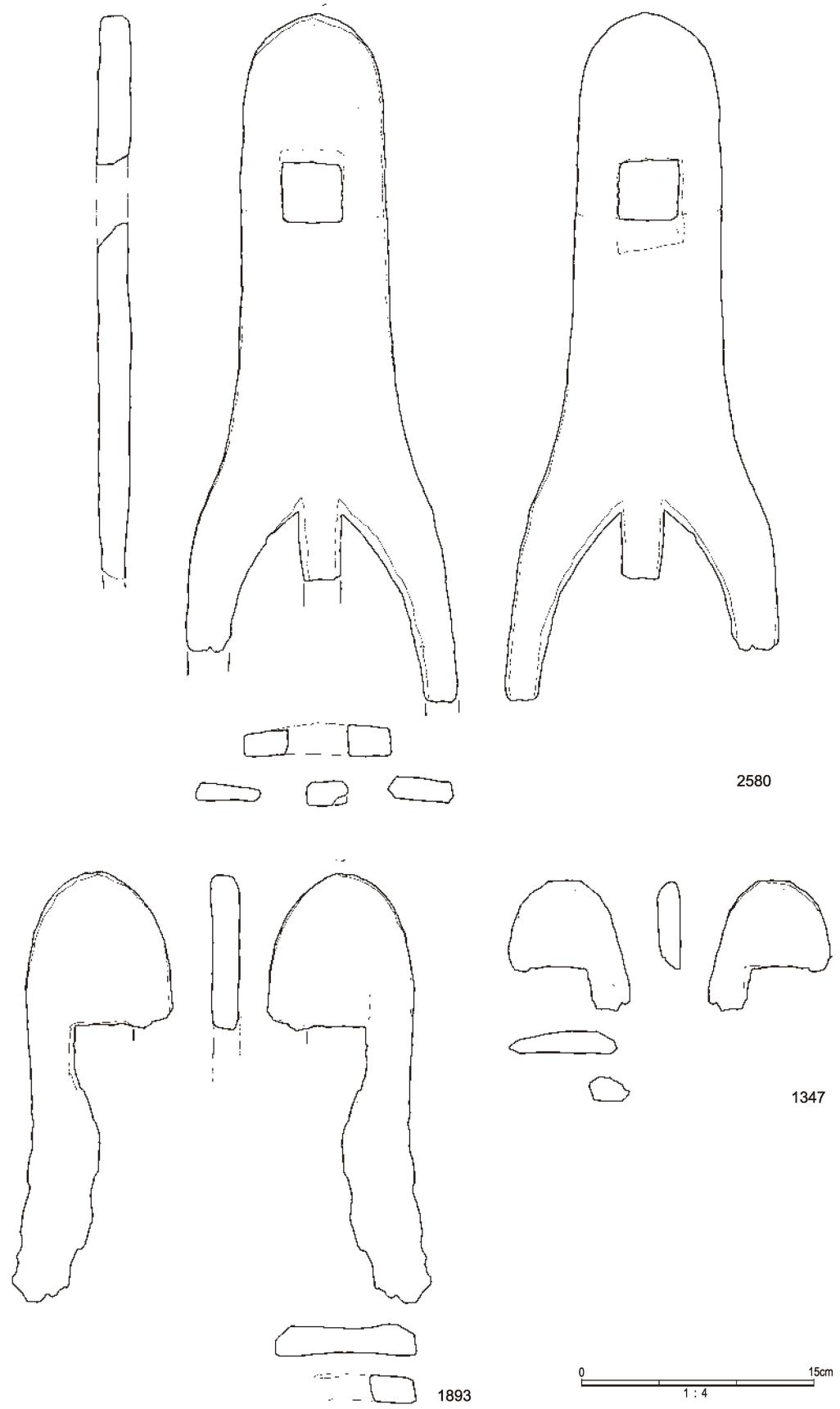


図34 溝427 18層出土木製品(1)

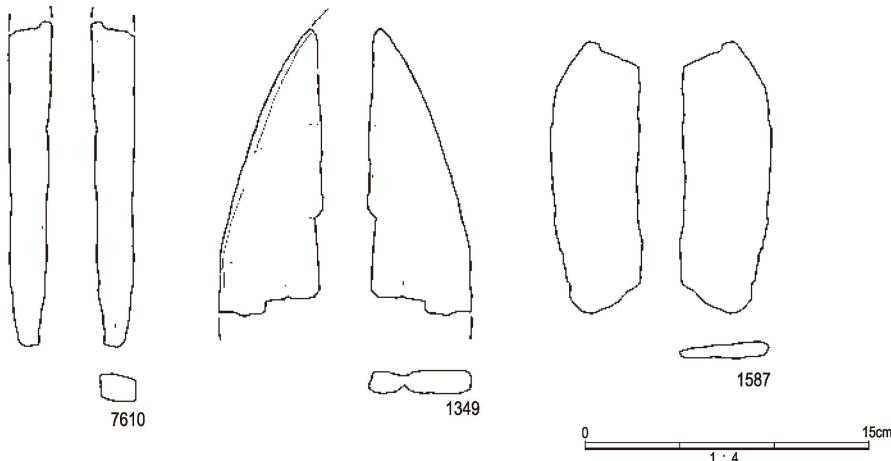


図35 溝427 18層出土木製品(2)

平鉗(図42-2505・7605、図73-1744・1778、図44-2596・2599)のうち多くが後面中位に段を作り出す。鉗2505では、粗い剖面で大きく剥がして段を作り出し、剖面をそのまま残している。刃部は弧状を呈す。木取りによるものかもしれないが、全形のわかる資料では鉗前面は長軸方向、短軸方向ともやや弧状を成す(2596・2599)。

7605・1778は腐蝕が著しく進行し、とくに7605は原形を判別するにも難がある。薄く、やや疑問が残る。

各種の柄を図45、図46、図47(1609・3133・1618)、図48に示す。

柄未成品1649(図45) 細い樹幹と枝の端部を切断したままの資料で台部相当部が細いことあって、柄として加工されるものなのかは疑問が残る。

斧柄とする2602(図45)・1604(図46)は、台部の整形は行うが、斧装着部の加工が明瞭でない。2602では装着部相当部が欠損する。3046(図46)は台部相当部が丸みを持つ上小径であり、斧柄としては疑問である。別部材の可能性もある。1609(図47)は、柄の大半を欠くが、明瞭に台部に装着のための段を作り出している。横斧である。柄3133(図47)の台部各面は平滑で、中央が膨らんだ直方体状に整形されているが、装着のための加工は見て取れない。また、柄端は短い位置で切断され多面体状に整形されている。この形状で完成した器具である可能性も考えられる。

1618(図47)は膝柄台部と見られる断片化した資料である。着柄部は失われ、台部下部に切欠きを持つことになる。1346(図48)は未成品とする。太い樹幹とごく細い枝部を利用した膝柄状の未成品である。台部の全体両側から削り広い平坦面を作り出し、柄以上はさらに曲線状に薄く削り断面譜報形状となる。柄に相当する枝の径はごく細い点疑問が残る。

7590(図46)も柄とするが着柄の状況を想定できない。芯去り材を用い、前端部とする位置にたがのように帯状の高まりを作出する。端面には、柄軸に一致する位置に突起を残す。柄尻側は反りながら細くなっている。1478(図46)はさらに加工が少ない。両端の一部に浅い切欠きがあり、その周辺を長軸方向の細い削り面で調整している。全体に樹皮は残らず節目も残さない。やはり使用状況を想定できず、他部材の可能性がある。

堅杵2700(図47) 長軸方向の細い削り面で整形後、加工若しくは使用により器表が平滑になっている。搗面は半球状、平滑で光沢をもつ。

横槌2966 細身で比較的長軸方向比較的幅広の削り面で整形している。柄端をやや膨らませる。

鑿状の木器7591(図47) 全体を長軸方向の削り面で整形し、断面不整な円形状を呈す。頭部(基部)

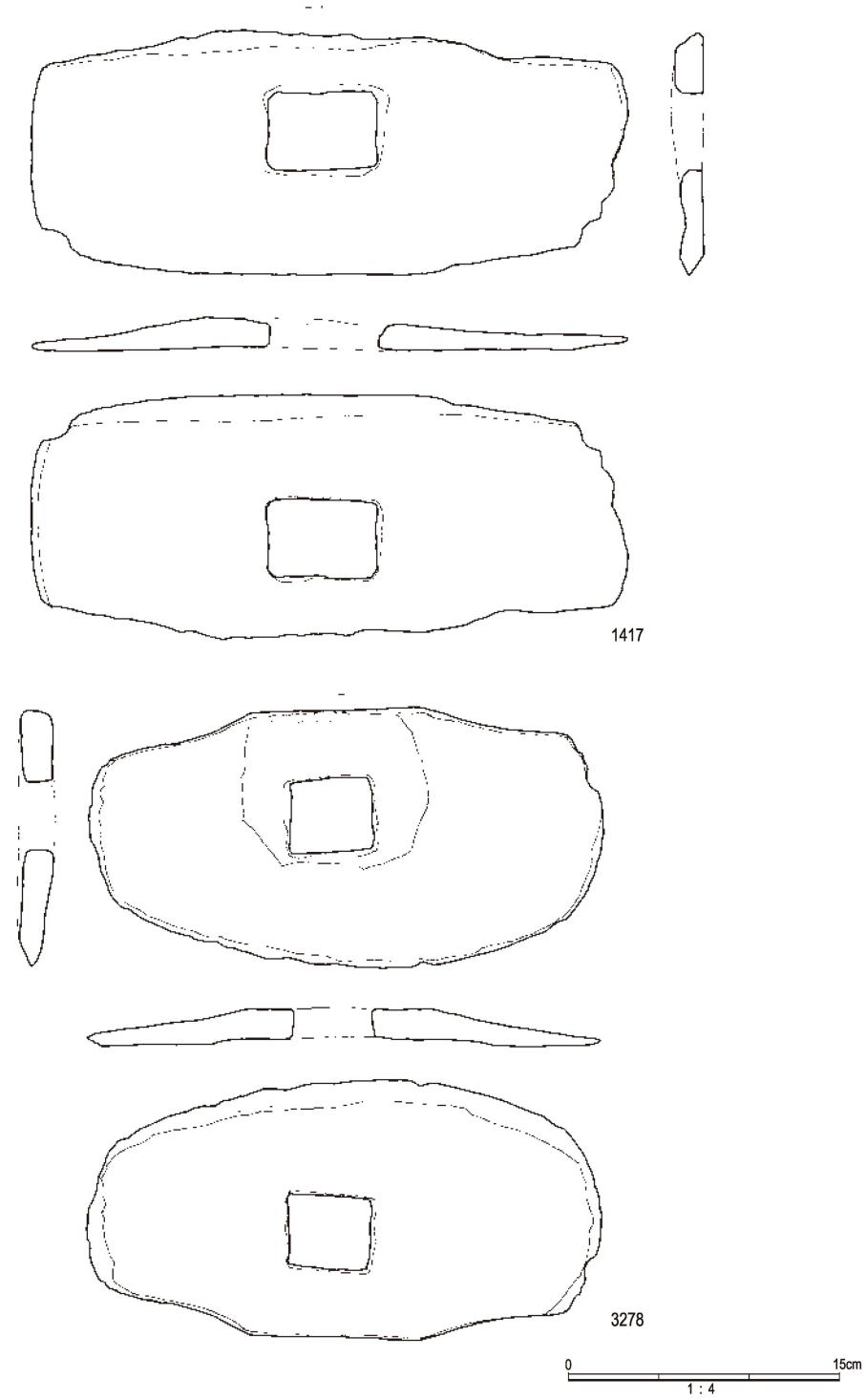


図36 溝427 18層出土木製品(3)

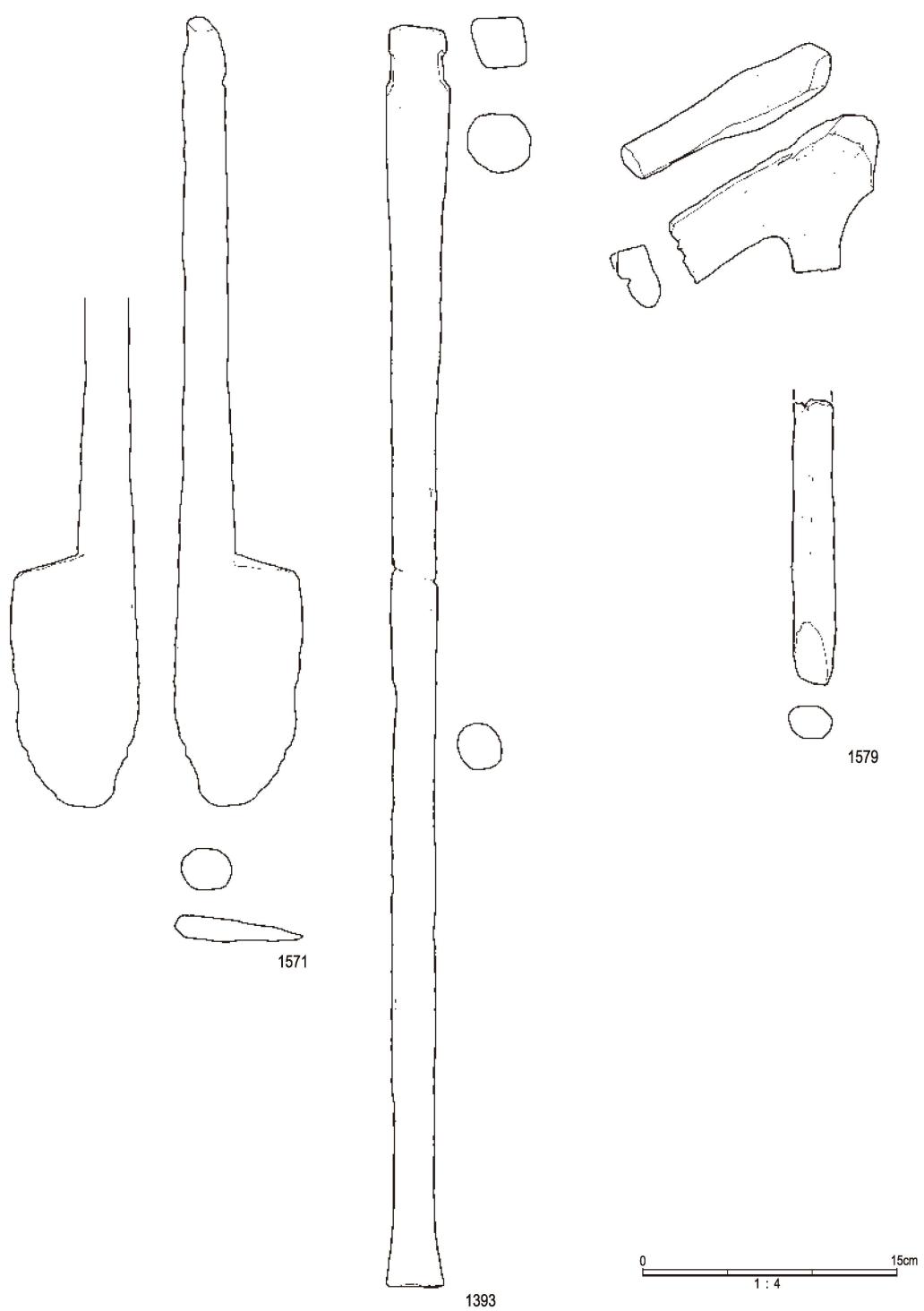


図37 溝427 18層出土木製品(4)

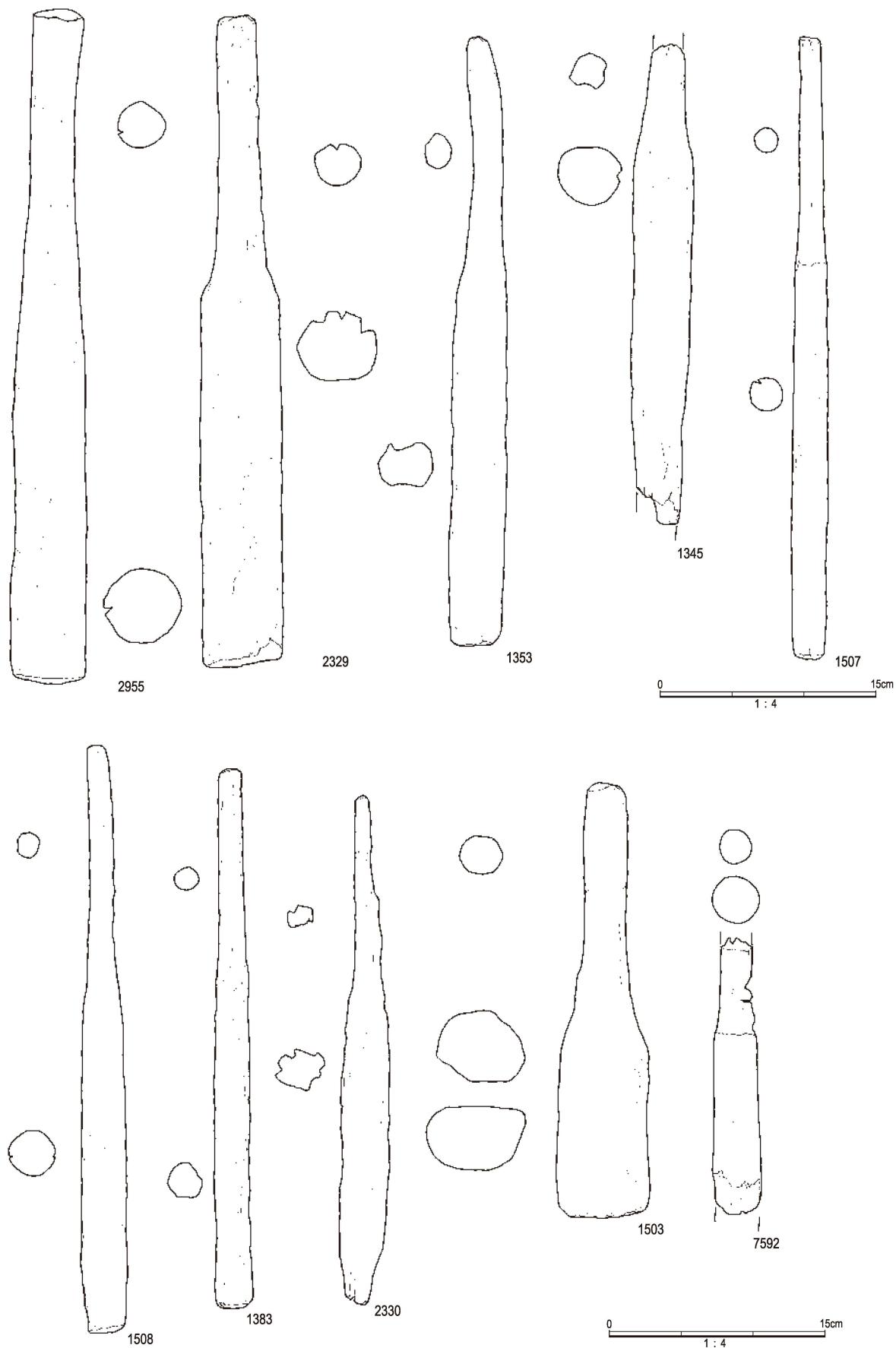


図38 溝427 18層出土木製品(5)

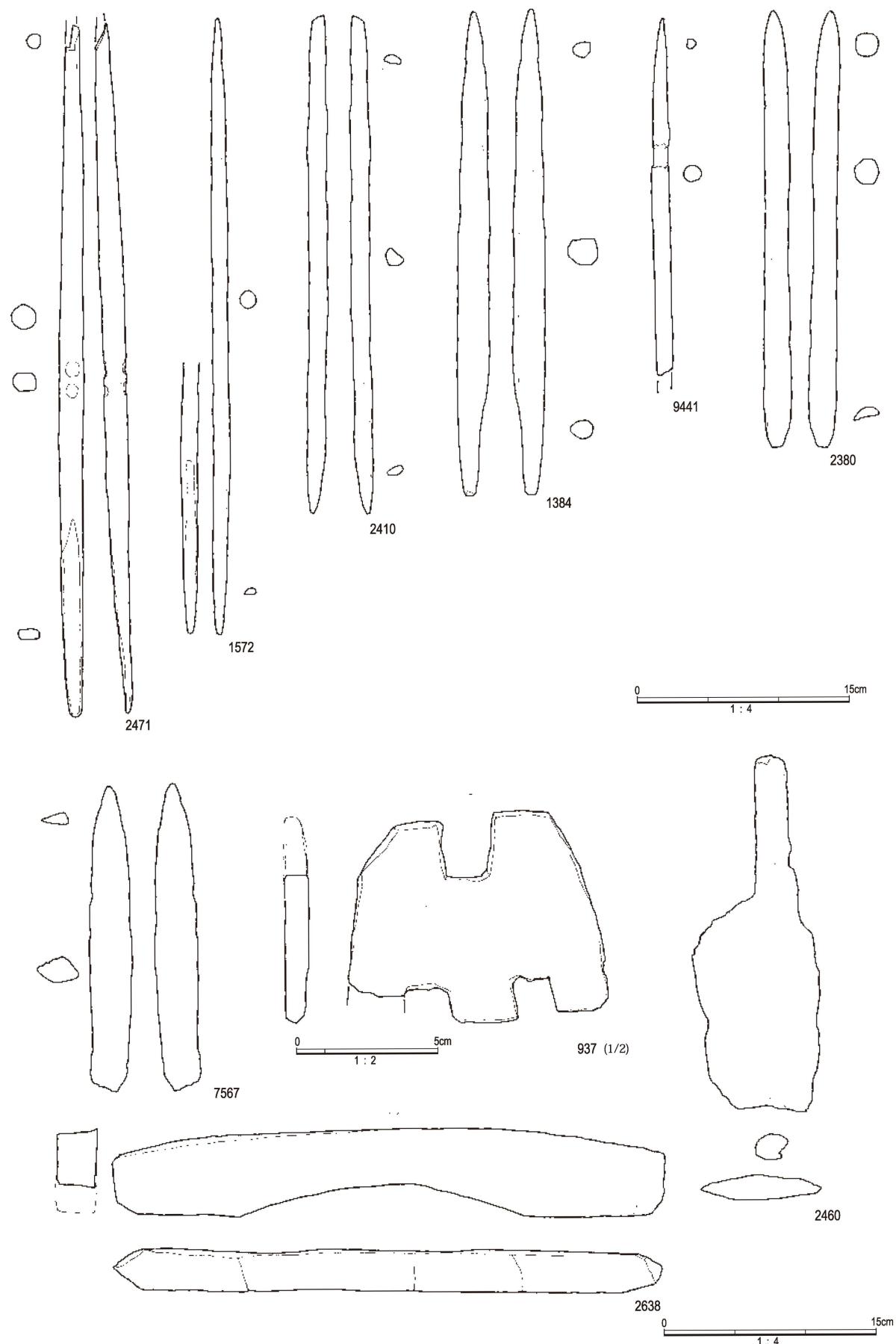


図39 溝427 18層出土木製品(6)

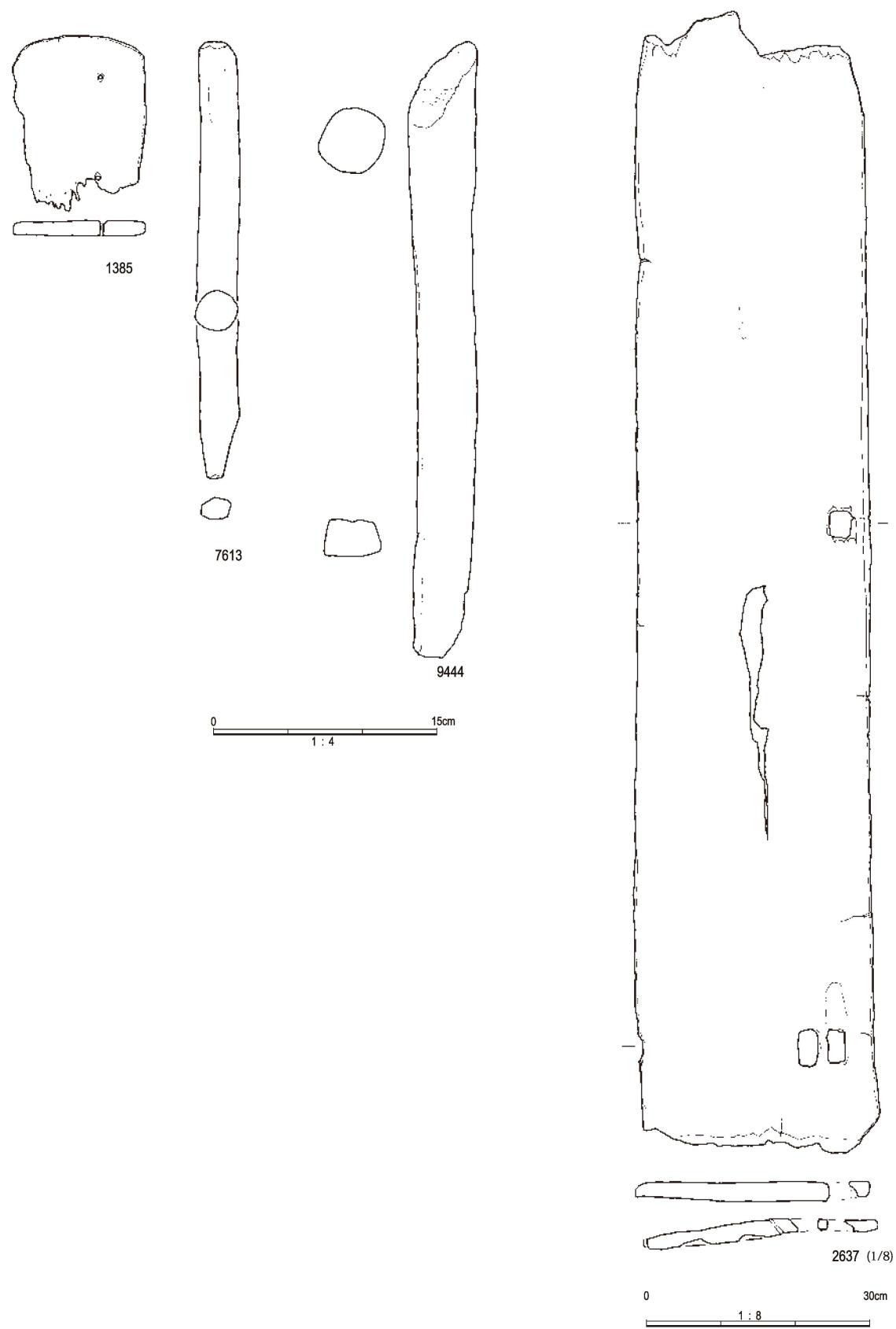


図40 溝427 18層出土木製品(7)

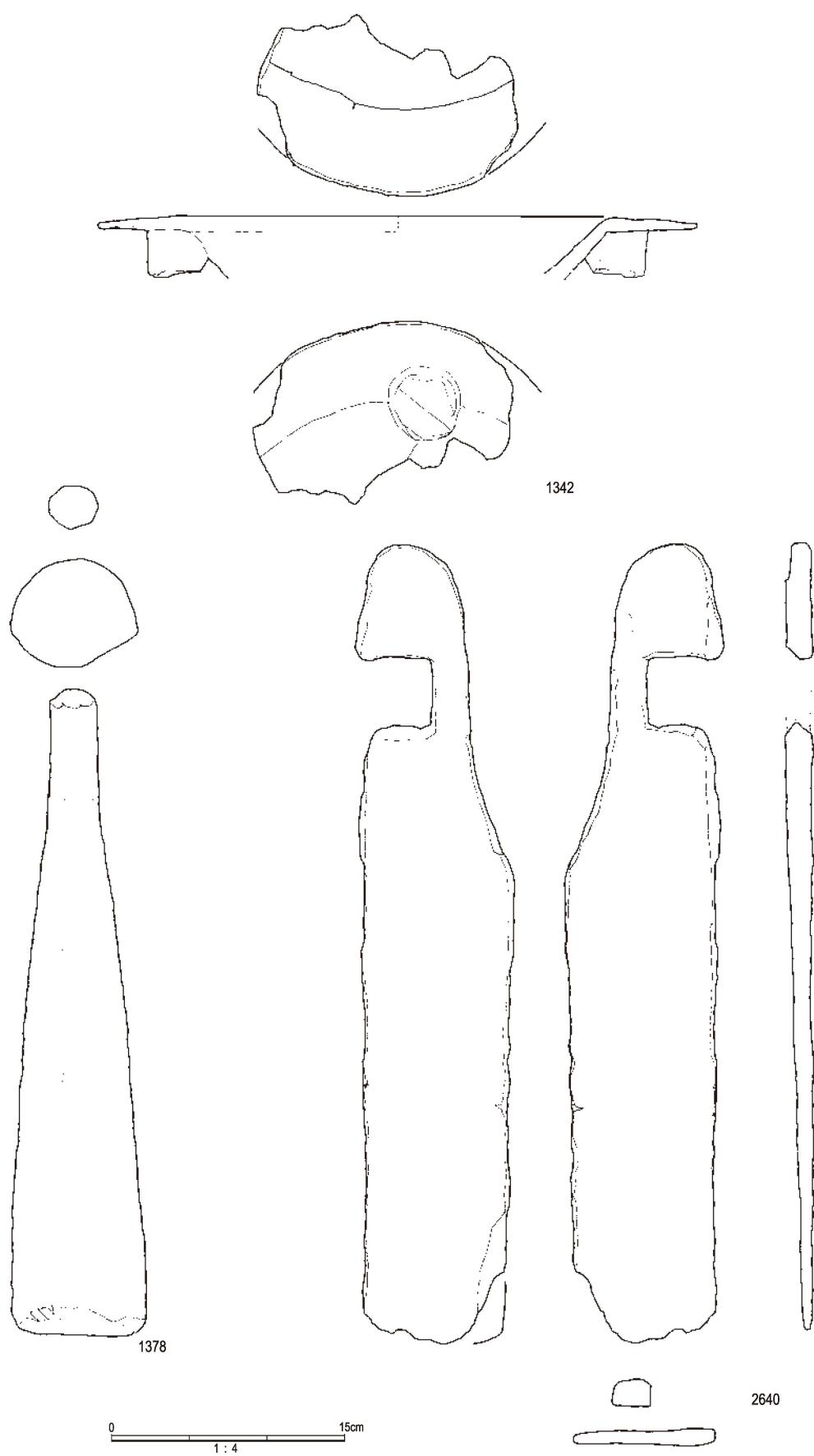


図41 溝427 19層出土木製品

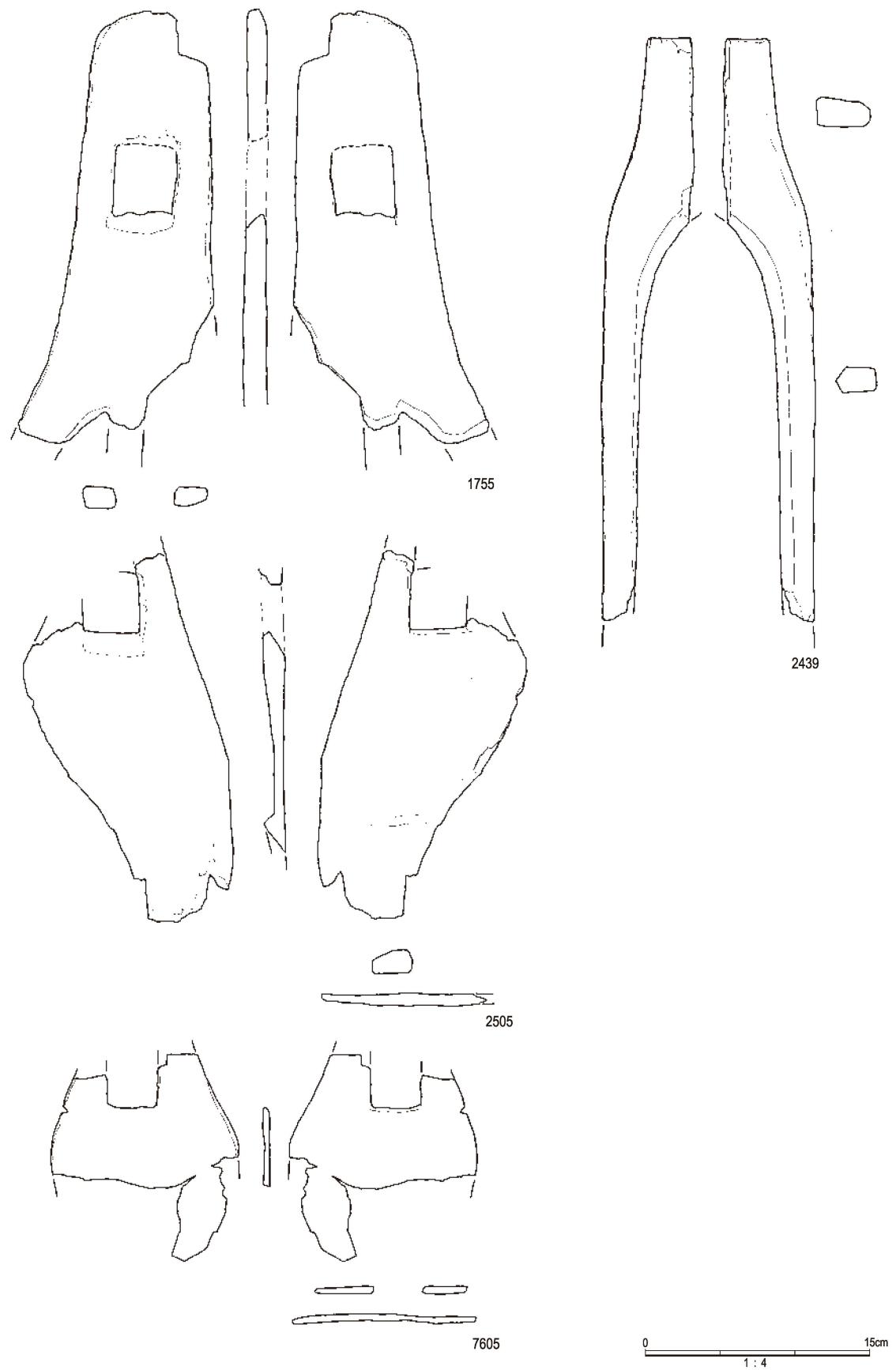


図42 溝427 22層出土木製品(1)

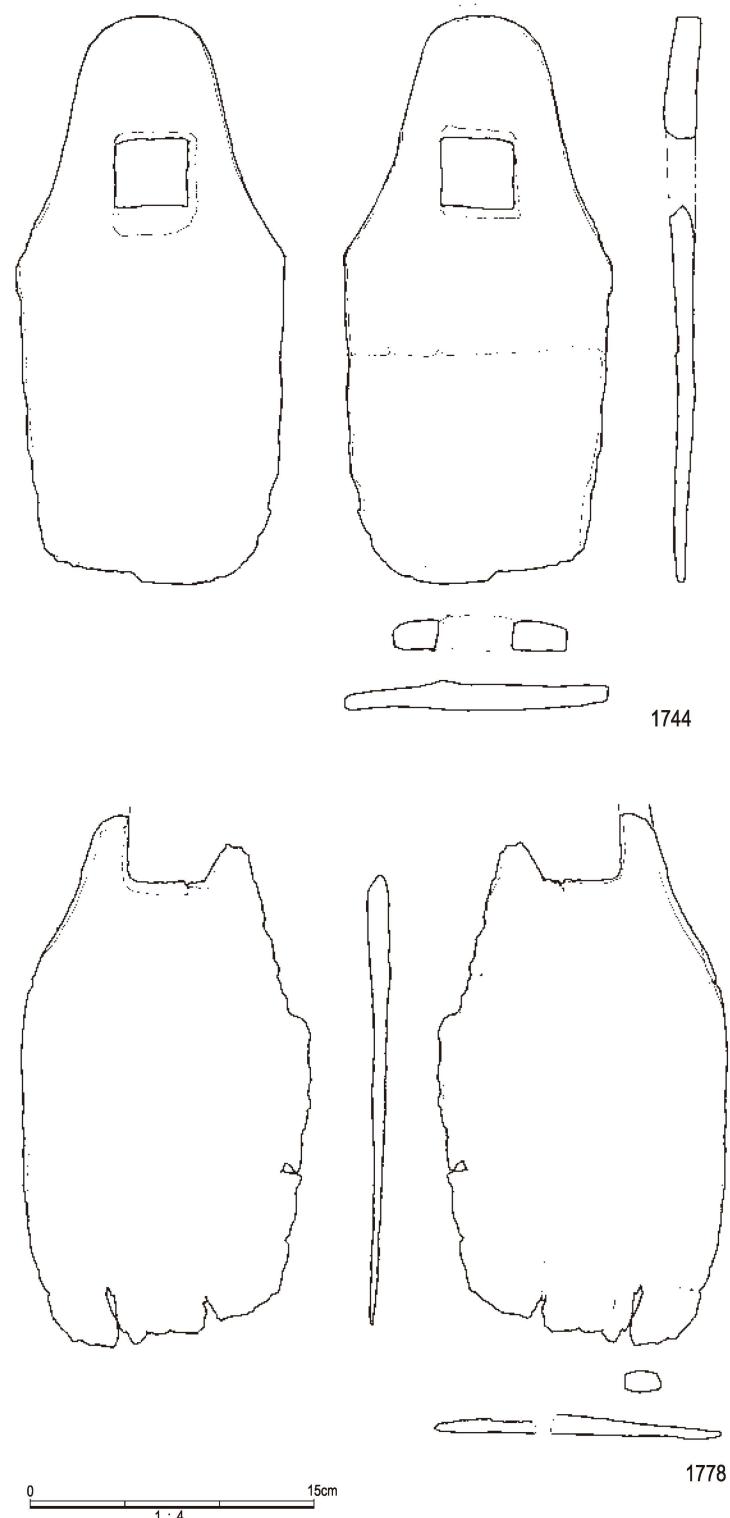


図43 溝427 22層出土木製品(2)

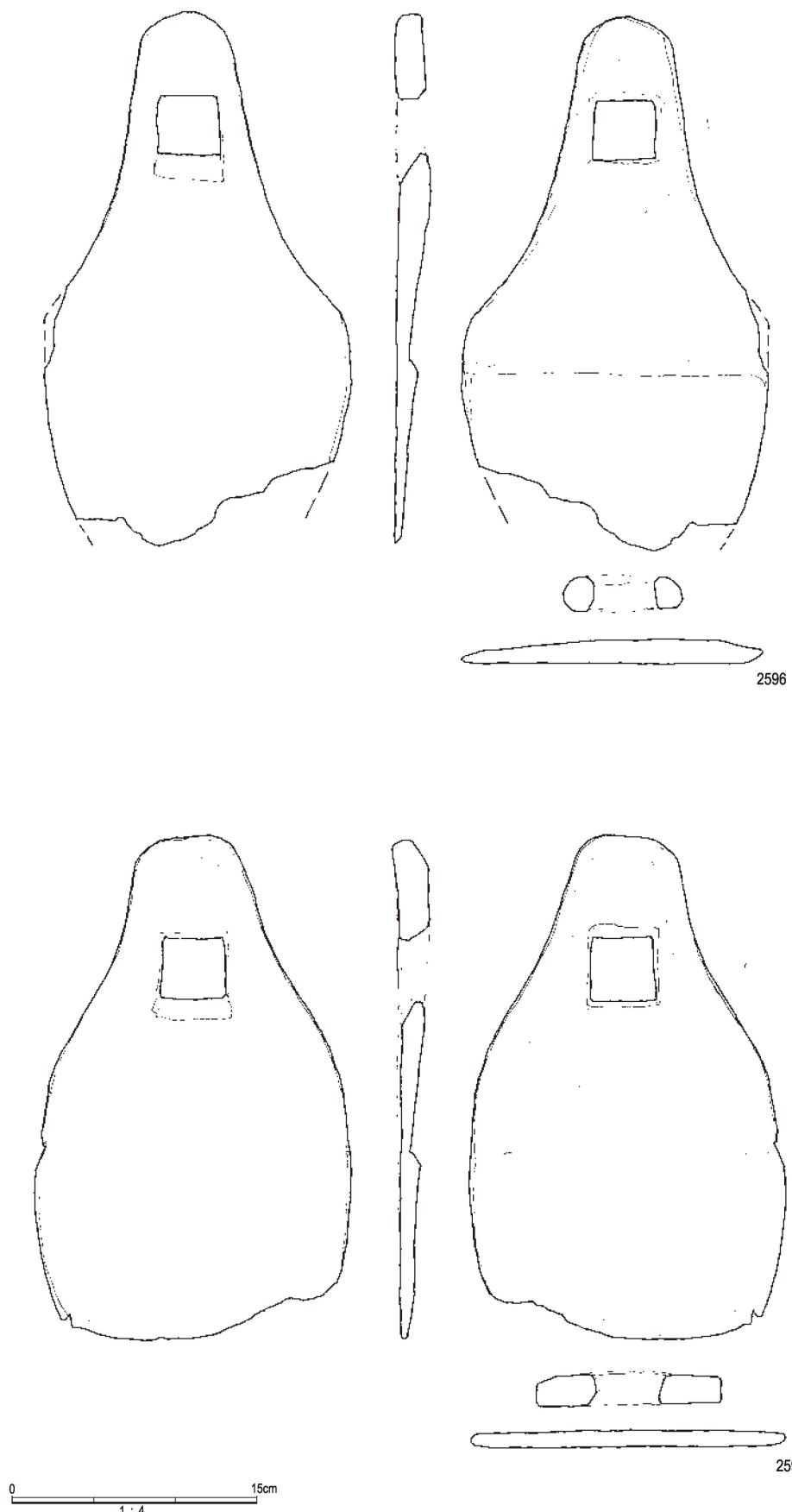


図44 溝427 22層出土木製品(3)

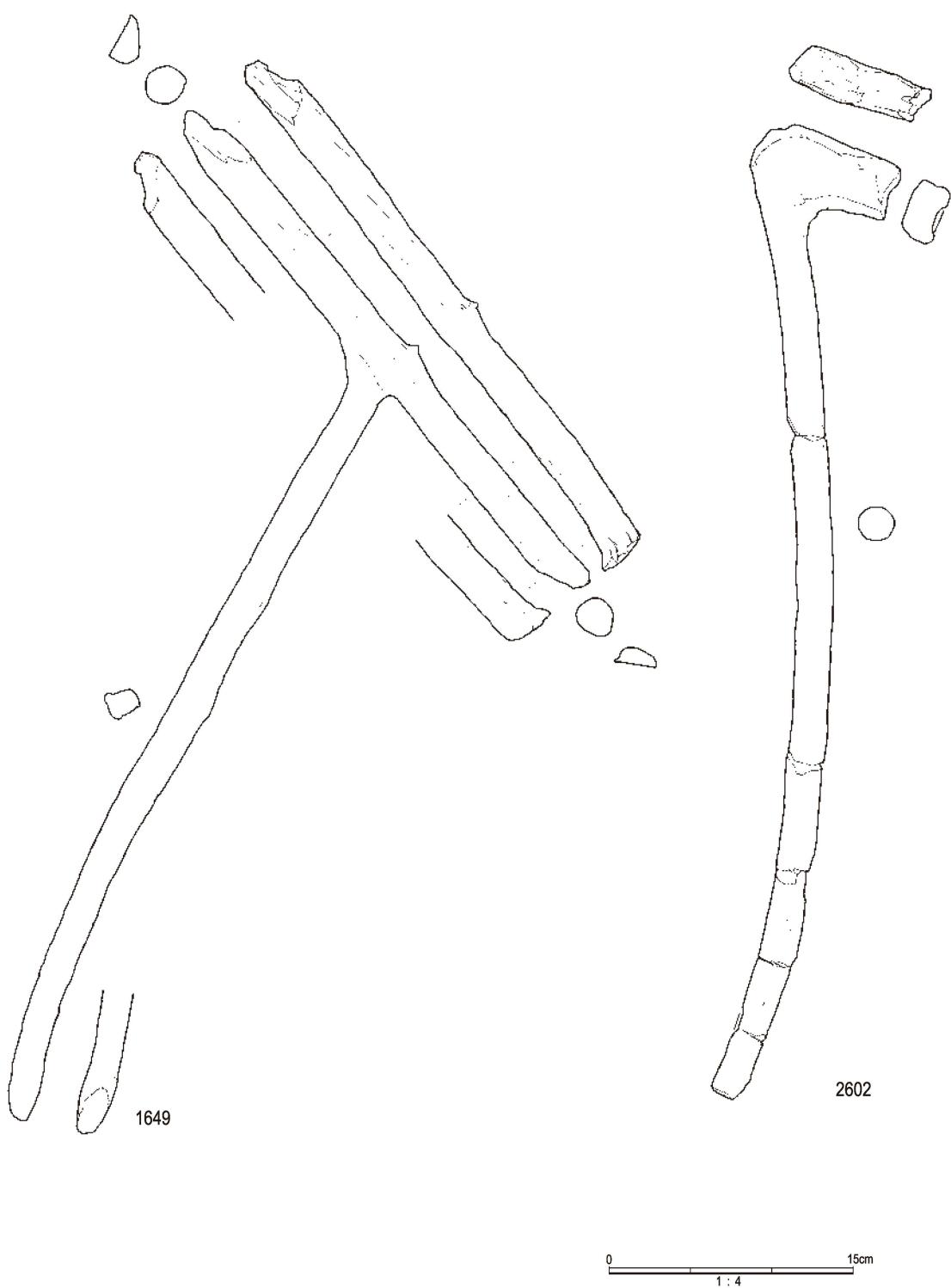


図45 溝427 22層出土木製品(4)

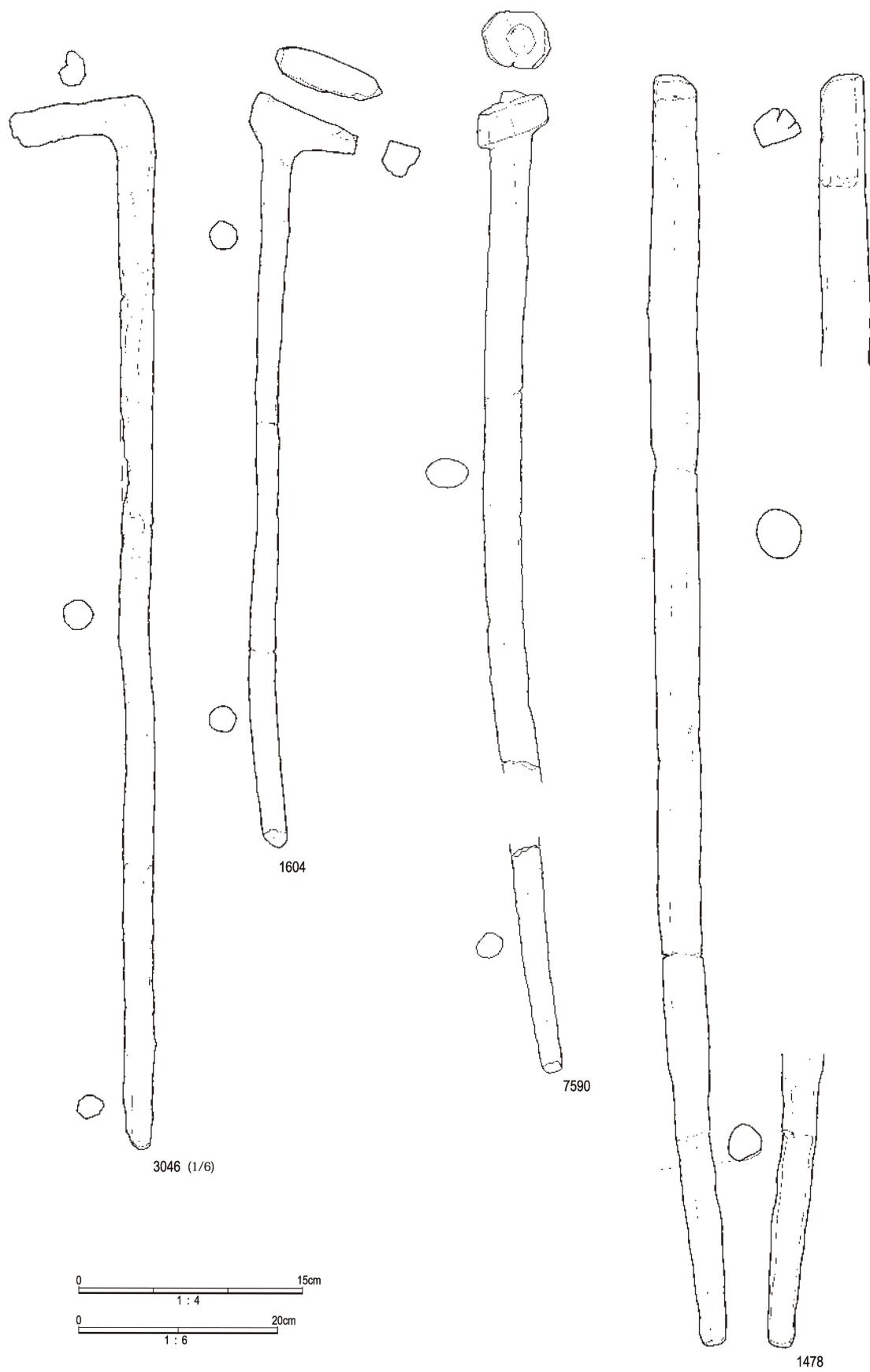


図46 溝427 22層出土木製品(5)

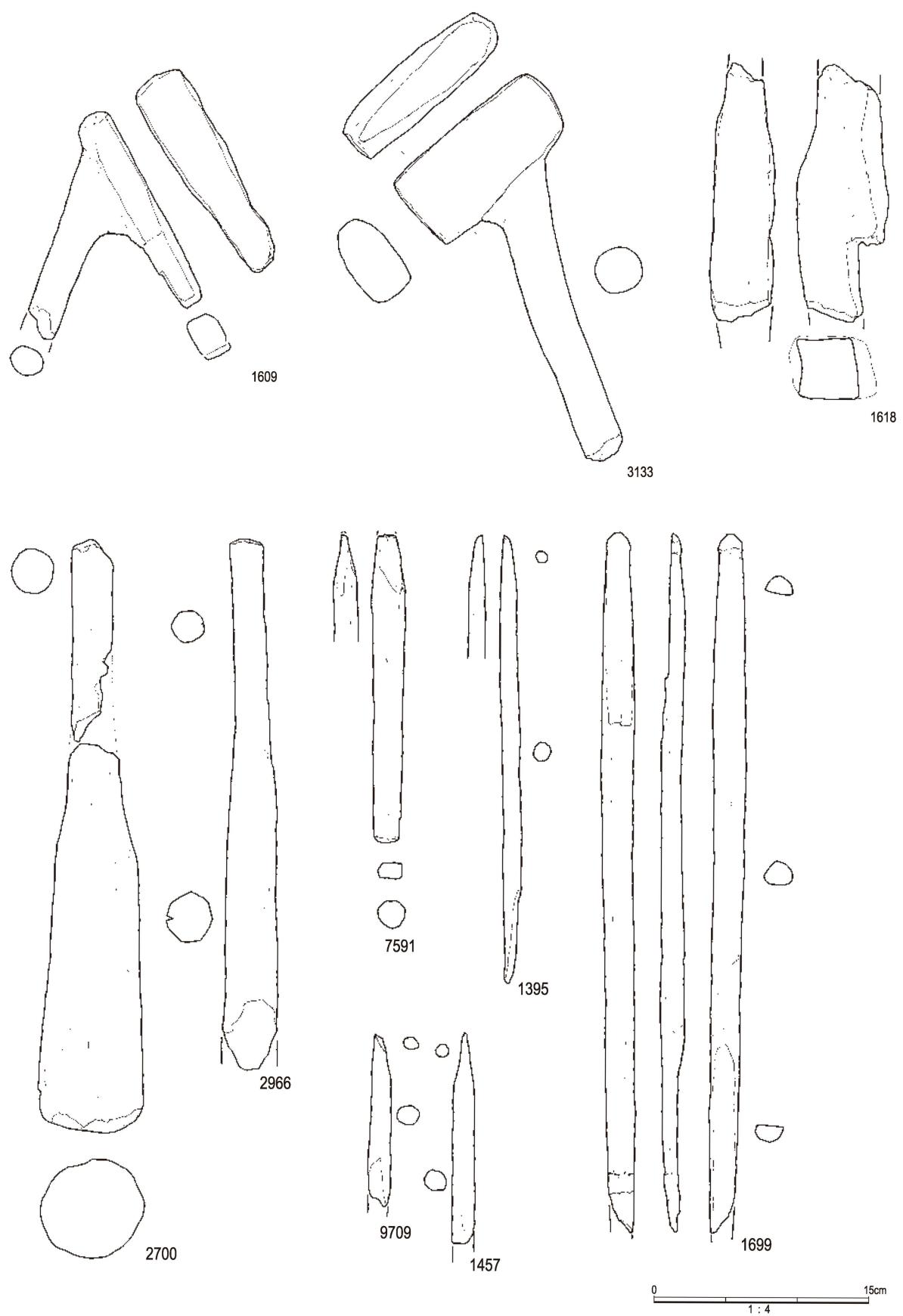


図47 溝427 22層出土木製品(6)

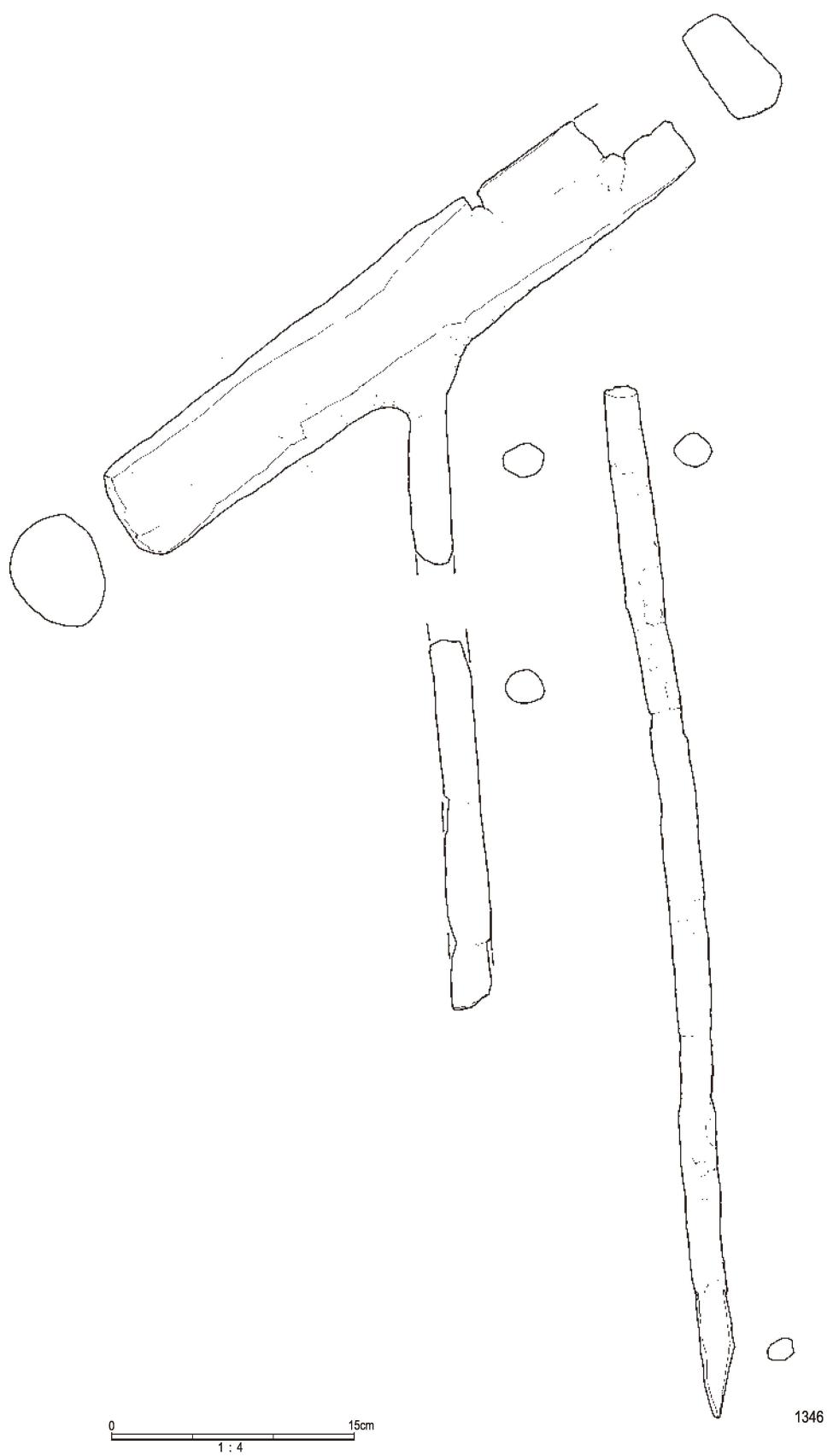


図48 溝427 22層出土木製品(7)

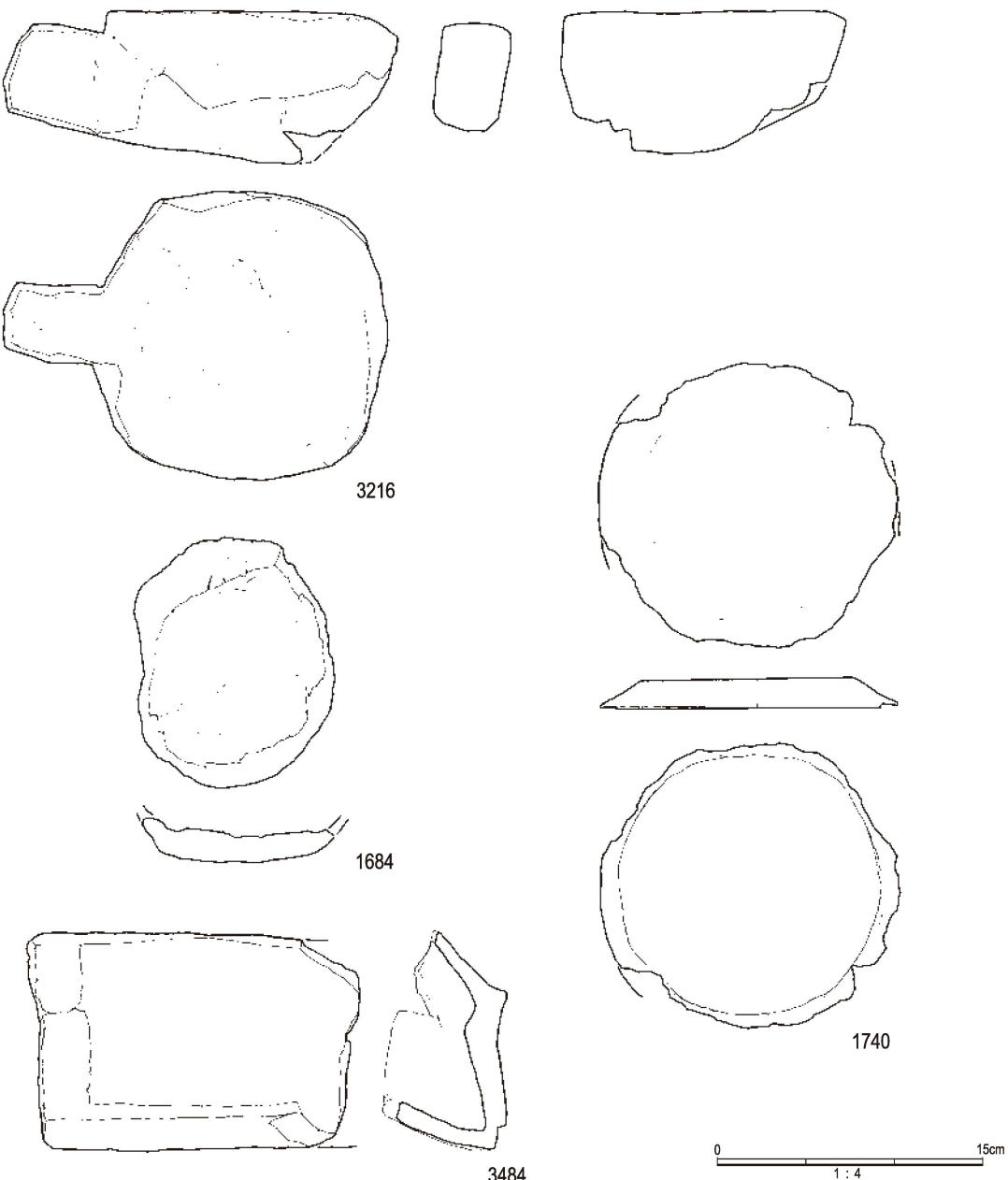


図49 溝427 22層出土木製品(8)

とする端部は細かな削り面で半球状に整形されている。刃部は表裏両面からの削り面で鑿刃状を呈す。刃縁部を欠く。

箒（図47-7591・1395・9709・1457） 半ばを欠くか細片の資料である。いずれも細身の器形で、使用する木材は黒色緻密である。箒1395の先端は端部を欠くが残る部分は黒化し固い。あるいは加熱して硬化させたこともかんがえられないか。

弓1699（図47） 半ばを欠く資料である。全体を長軸方向の細い削り面で整形し、端部とおそらく中央部と思われる位置を刻み込んで段を作り出している。段は、端部では半円形状、他方は低い帯状を呈す。弓とするならば前者が弓筈となる。両端の対抗する位置をごく浅い角度で斜めに削り取ったようになった状態で出土した。削り面は整っており、端部のそれは明らかに複数回の加撃により形成されたものである。

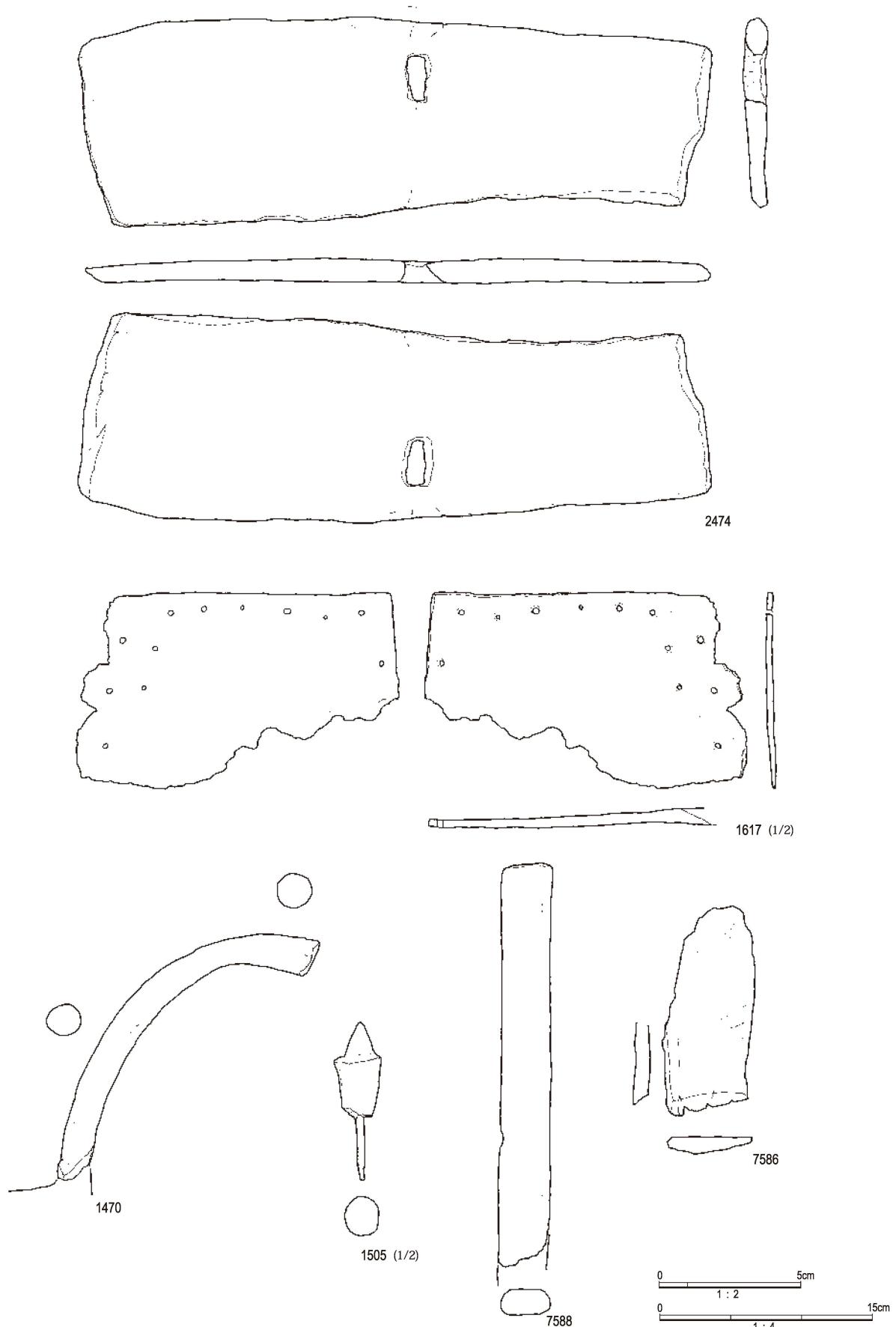


図50 溝427 22層出土木製品(9)

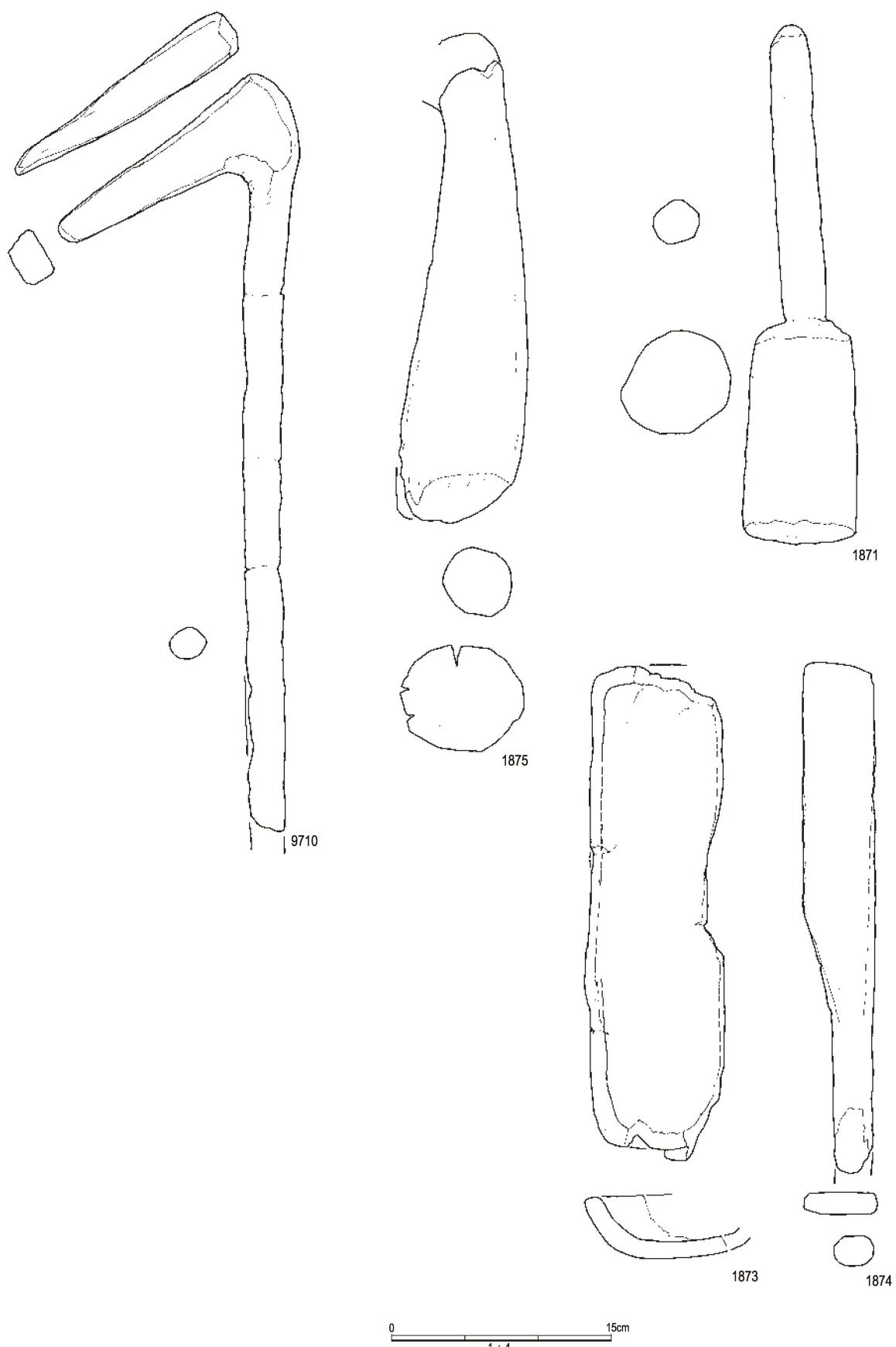


図51 遺構1054出土木製品

容器を図49に示す。

杓子3216 未成品である。半裁した木材の半裁面を上面とし、容器本体と把手を荒く削り出した段階で、上面は平坦な割れ面である。

容器1684 底部資料である。丸底で、外面は粗い削り面で整形する。内面には丸鑿のような工具痕が残る。

蓋1740 平面形がほぼ円形で、断面は台形状を呈す。下面には嵌合部がわずかな段となって残る。外面の全面に黒色の漆を塗り、外縁・稜部・中心点の位置に赤漆を塗る。前2箇所は圈線状、後1箇所は不整な円形状となる。内面には黒褐色の樹脂を薄く塗布している。円筒形容器の蓋とされる資料である。

板状の部材2474(図50) 不整な長方形の板の片側の長側辺近くに長方形の穿孔を行っている。表裏面は広く平坦な削り面で整形されている。板の長側辺には面取りを行い、両端片側は薄く削っている。孔は刀子状の工具で抉り取ったものか、壁面に段状の工具痕が残る。長側辺側の孔縁部は丸みを帯びており、紐ずれの可能性があるが、どのような位置にあったは想定できない。

孔列のある板状部材1617(図50) 四辺形の2片を欠いている。薄くやや湾曲した不整な台形状の板材の3辺にはば等間隔の穿孔を行う。孔は径2mmほどで短辺側では2列になった部分がある。

杓子1470(図50) 柄部のみが遺存する。大きく弧状に反る全体を軸方向の削り面により整形している。下端に平坦面がわずかに残り、本体部の一部かと思われる。

木鏃1505(図50) ほぼ完形で出土したが、乾燥収縮し、変形している。一見すると浮子のようにも見えるが、先端部の側面観は木鏃のそれである。

板状の部材 7588(図50) おそらく長い部材の断片資料である。細長い板材の側面を丸く整形したようになっている。木目が浮いているのは風化によるものか。

削片7586(図50) 加工時の削片とみる資料である。調査中、木材加工に伴う残滓に留意していたが、まとまって出土するような状況は確認できなかった。まとめて取り上げた木質資料の中に散見するが、そのままでは細かく碎けてしまうものが多く、残すことのできた資料は少ない。

7586は、削り面のある部分を削り取った際に排出されたものようである。ここでは表の削り面に刃物痕とみえる不規則な線状痕が見られ工作台等への利用があったものかもしれない。

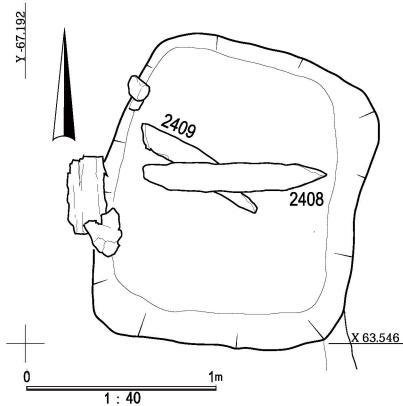


図52 遺構1061遺物出土状況 (1 : 40)

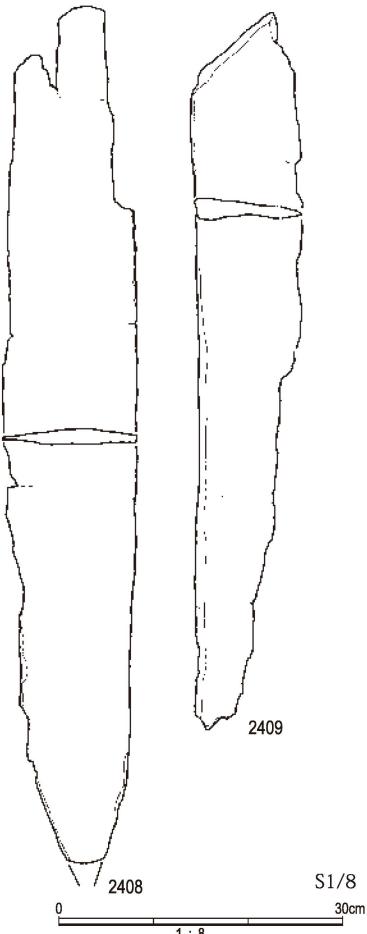


図53 遺構1061出土木製品

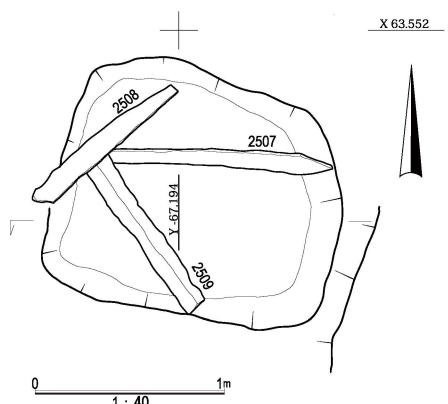


図54 遺構1062遺物出土状況 (1 : 40)

(5) 溝427中検出遺構出土木製品

(図53～62、表8～11)

以下、溝427掘り下げ時に検出した遺構出土木製品について報告する。

遺構1054 (図51、表8) 遺構1061・1062とともに、18層を掘り込むような位置で検出したものである。黒褐色泥炭質の粘質土層から木器類がまとまって出土したことから、設定遺物を取り上げた。大部分はすでに掘削した後で、形状等詳細は不明。木器とするものは5点出土した。

柄9710 膝柄である。台部を側面を広く平坦に削り、下端に向かい細くなる。正面観も同様で、鶴嘴状を呈す。装着部に特別

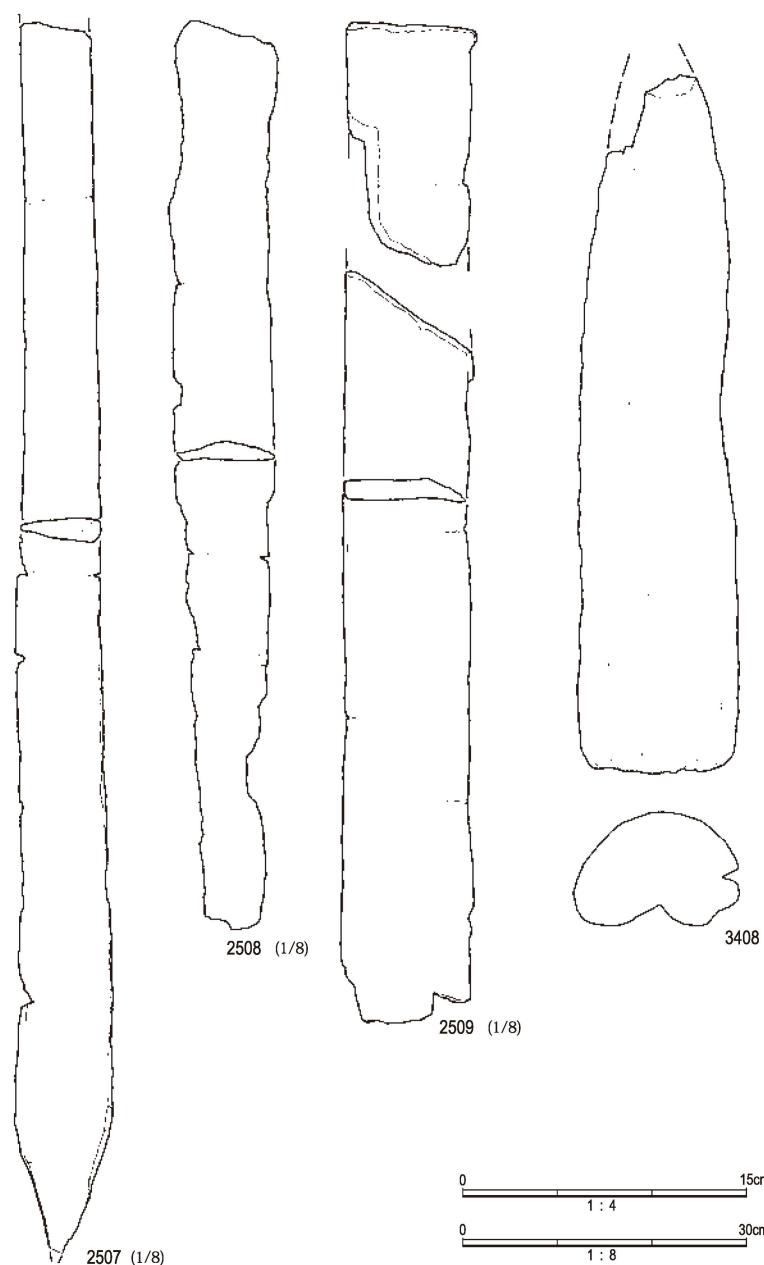


図55 遺構1062出土木製品

の加工は見られない。

横柾1875 着柄部を欠く資料である。樹幹を利用して全体が涙滴形となるよう整形している。撃面は軸に対して著しく傾いている。

横柾1871 柄部と柄とを明確に作り分けている。全体に長軸方向の削り面により整形している。

槽1873 片側を各資料である。内外面とも研磨を加えているものか、平滑で光沢を持つ。長軸方向の片側の端部に把手を作出する。

櫛形木製品1874 片側が広く広がる非対称の形状で、広く浅い削り面により整形されたものと見える。小形で、縁辺に刃部は作り出されておらず、柄は断面円形である。あるいは叩き板のようなものか。

遺構1061 (図52・53、表8) 不整な長方形土壙状の落ち込みから重なりあって矢板が出土した。

矢板2408は、幅広の割材の先端両側辺を斜めに削ぎ落し尖頭部を作出している。長さ90cm、幅14cmを計る。割材2409の頭部には材木の切断面が残る。

遺構1062 (図54・55、表9) 遺構1061と同様の出土状況で、矢板及び割材が出土した。

矢板2507は頭部を欠く。割材端部の両側辺を斜めに削ぎ落し尖頭部を作出する。長さ129cm、幅9cm、厚さは3cmを計り、矢板の原状をある程度知ることができる資料である。2508、2509はとも

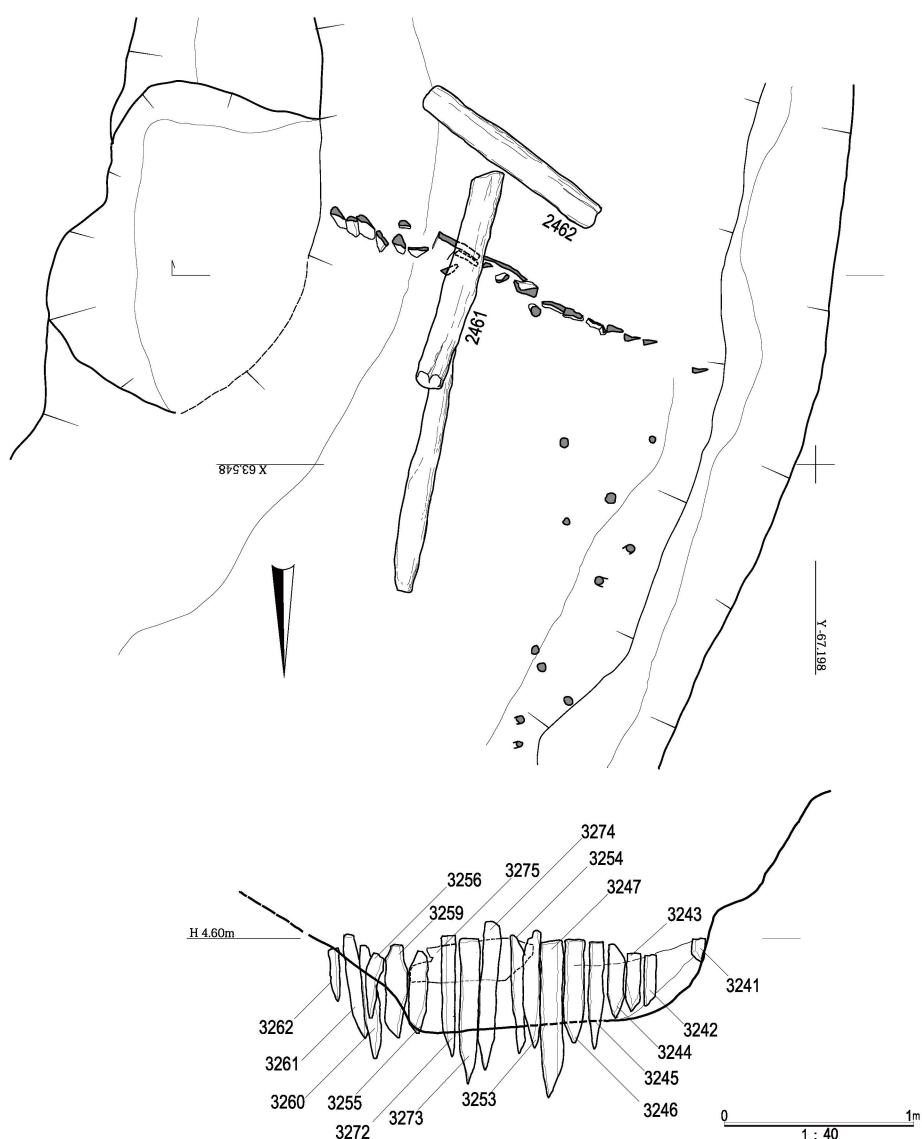


図56 遺構1070遺物出土状況 (1 : 40)

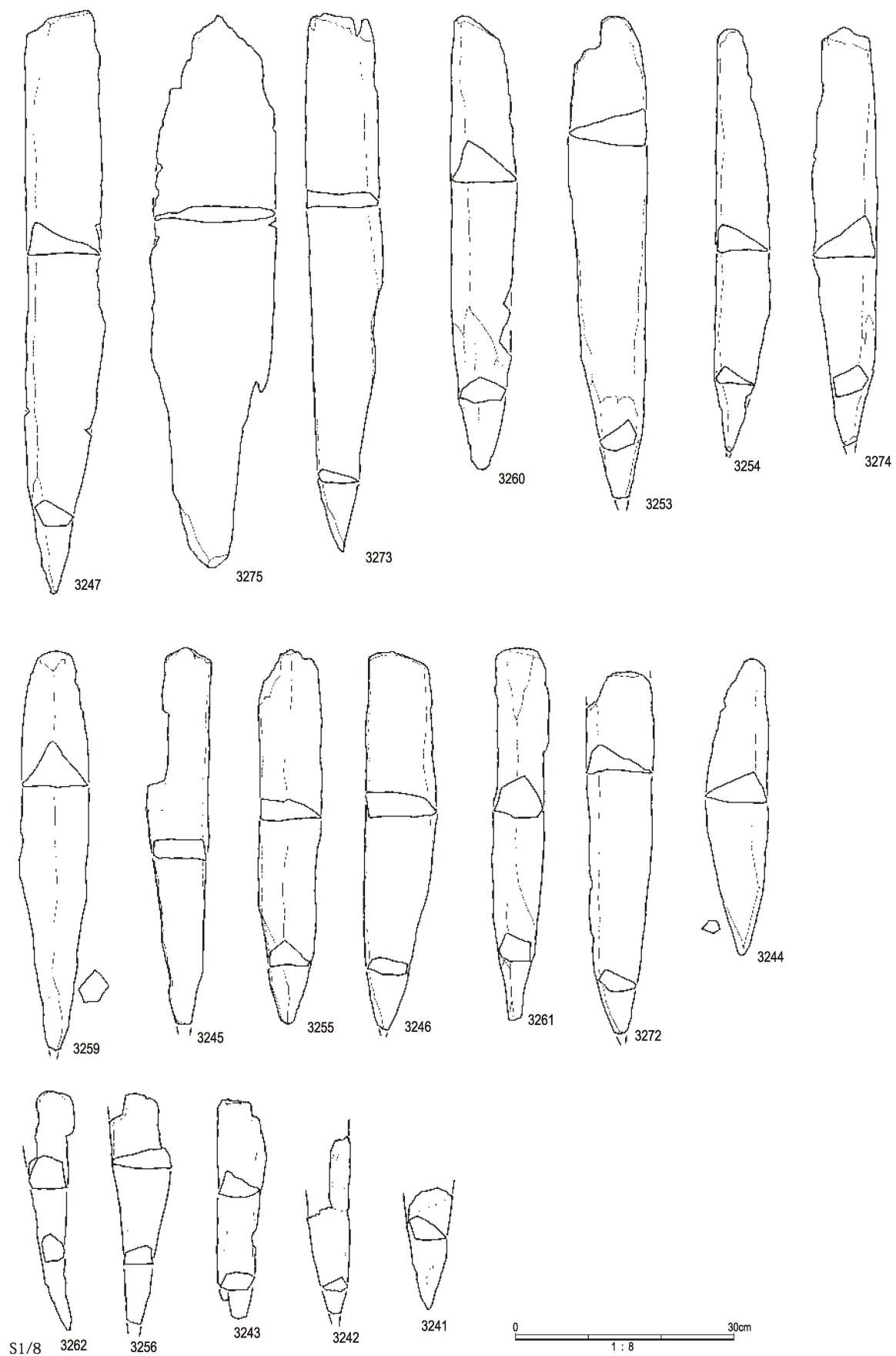


図57 遺構1070出土木製品

に割材で、端面は切断面が残る。

遺構1070 (図56・57、表10) 井堰状の矢板列である。上部は失われた状態で出土した。やや厚い割材の、両側縁を斜めに削ぎ落して尖頭部を作出するものが多いが、削り面が表裏に及ぶもの(3260)、素材の形状を生かすもの(3244・3259)、片側を集中的に加工するもの(3242・3247)等がある。遺存状況の差ではあるが、最長79cm、最小17cmの資料がある。

遺構1071 (図58～62、表10・11) 22層で検出した。矢板を含む割材が集積したような状態で出土したものである。掘り込みなどは確認できなかった。水流に押し流され集積したものかもしれない。

出土木材・矢板には長短の幅がある。最長の割材は166cm、最短は42cm、平均99cmとなるが、端部を欠く資料も多く、実際の平均はこれより大きいものとなる。因みに溝427出土資料では、計測の終わった中では長さ267cmのものが最長で、100cm以上のもので99点出土している。

遺構1071を構成する資料のうち25点を図示する。

2647は最長の資料であるが、先端に加工があり、杭または矢板とできる。前出の遺構1061・1062とは異なりごく細身で比較的厚い。

割材等に混じり、木器その他が出土した。本来溝427の22層とすべき資料であるがここで報告する。

横樋9706(図62) 今回報告の中で最も大形の資料である。頭部端を削り面で整形するもので、長さ57cmを計る。

切断面のある棒状材9704・9705は共に端部のみの資料で全形が分からぬ。

削片2702 長さ約6cmほどで、上面に選考する削り面を残している。

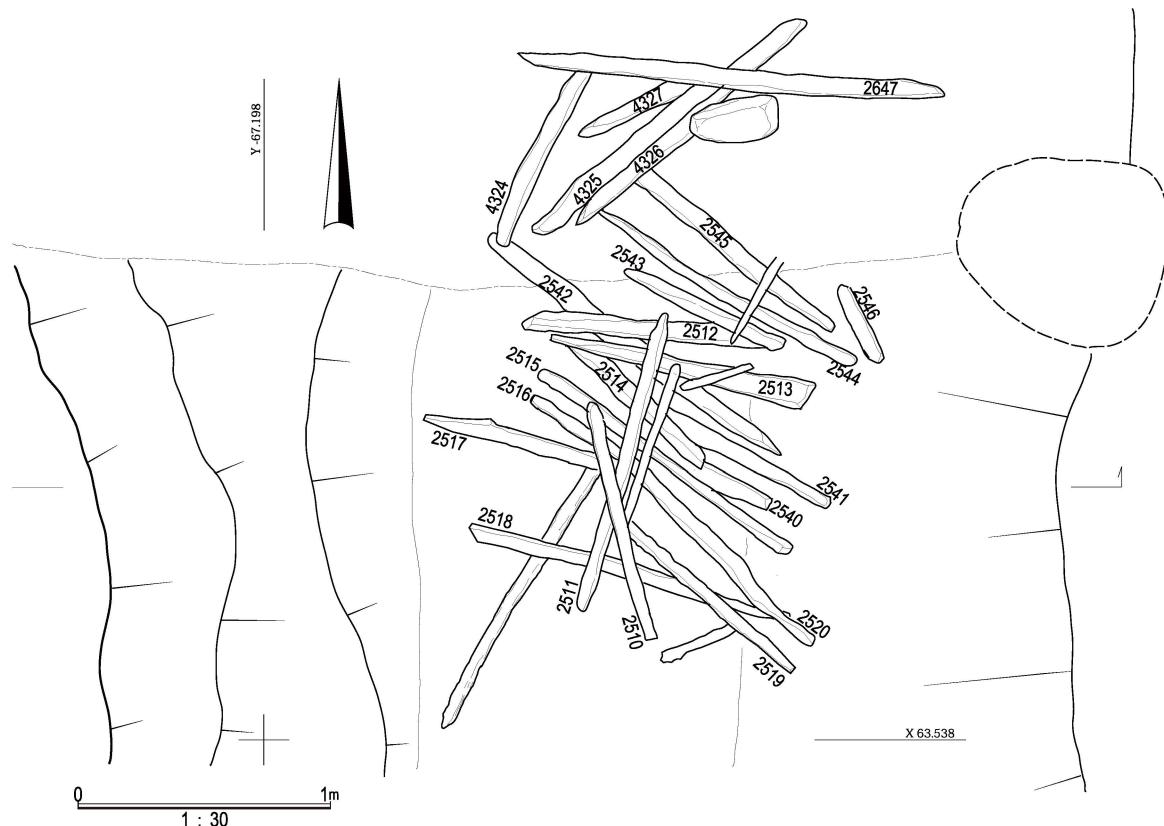
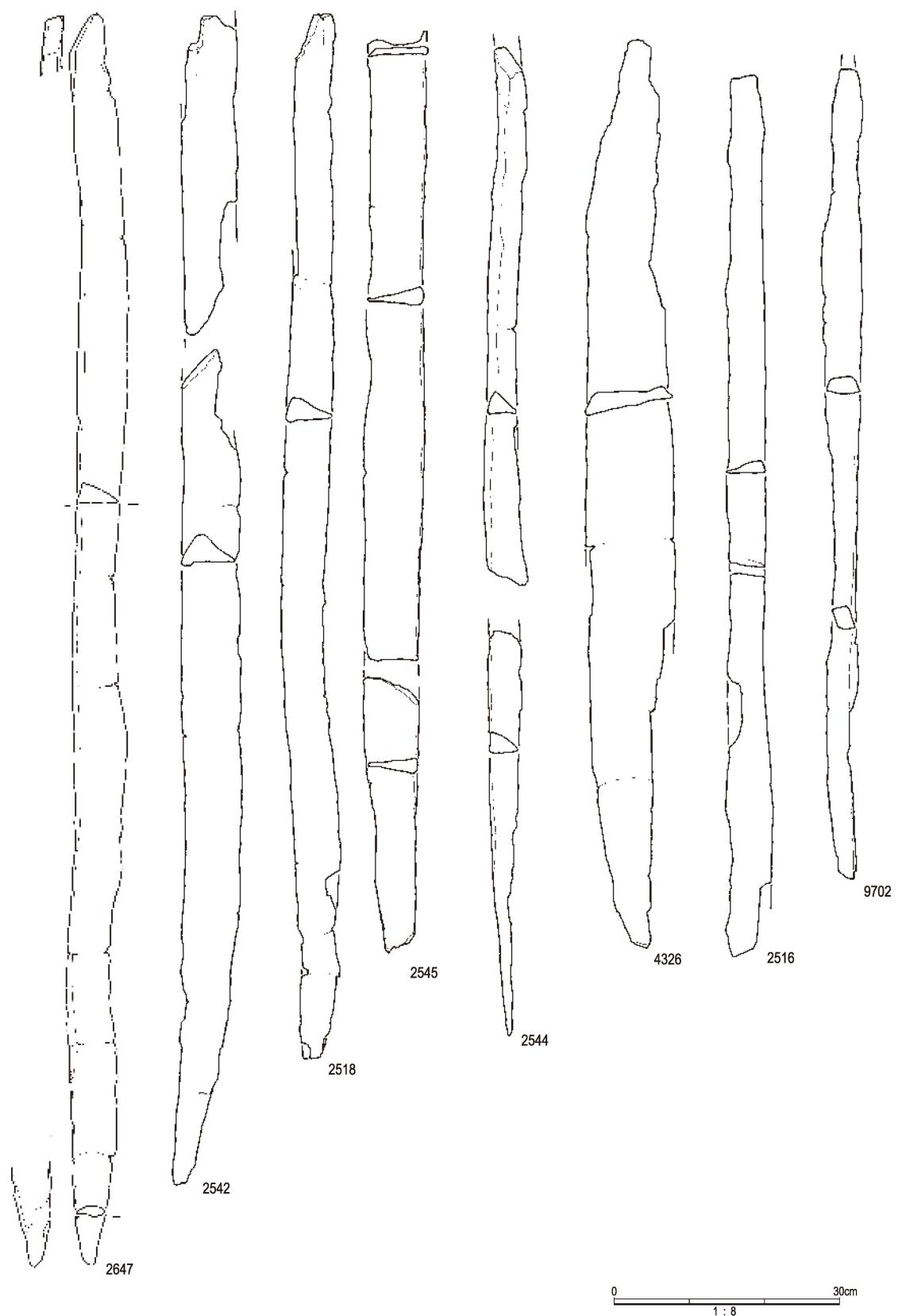
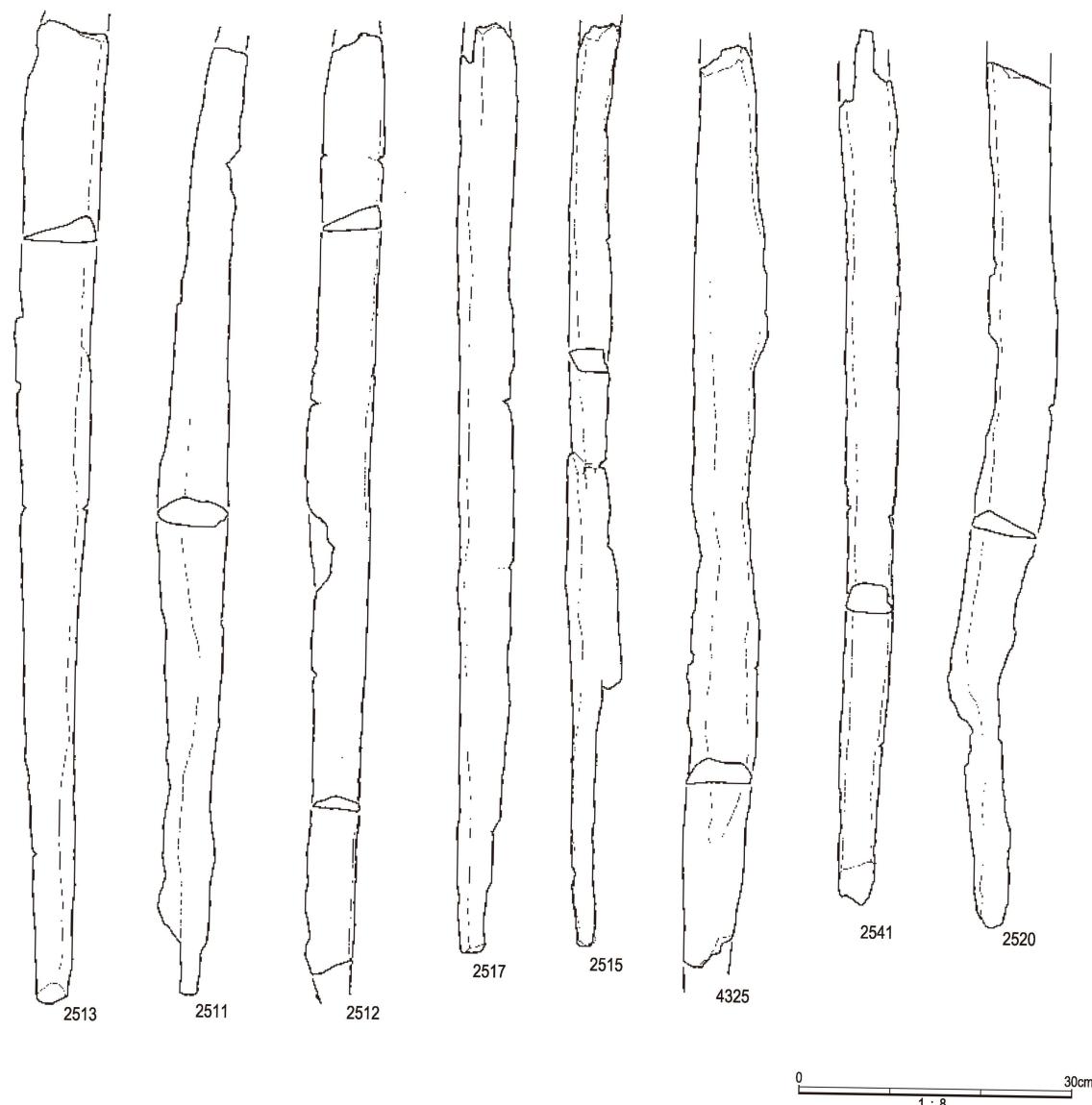


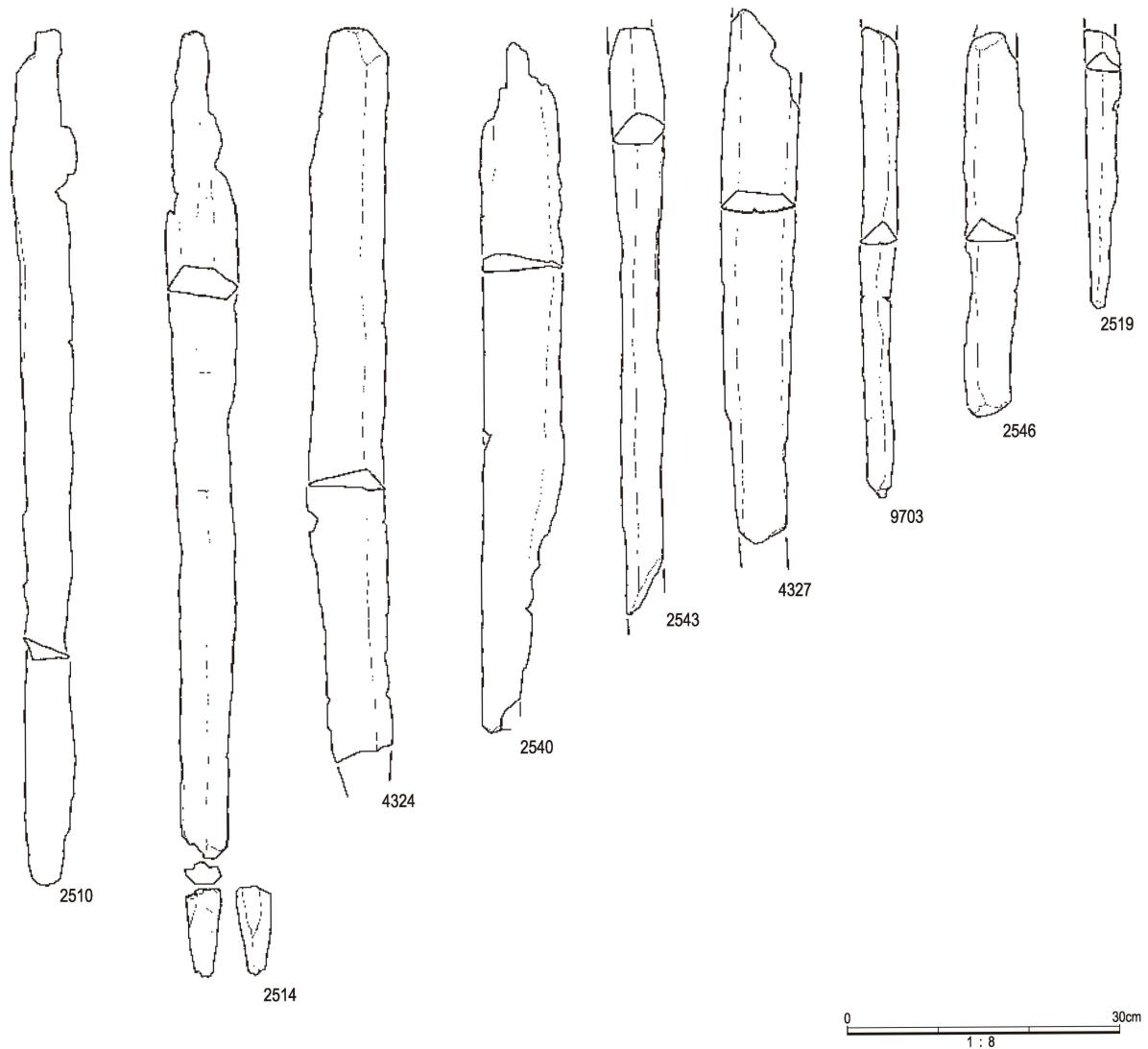
図58 遺構1071遺物出土状況 (1 : 30)



S1/8

図59 遺構1071出土木製品（1）





S1/8

図61 遺構1071出土木製品（3）

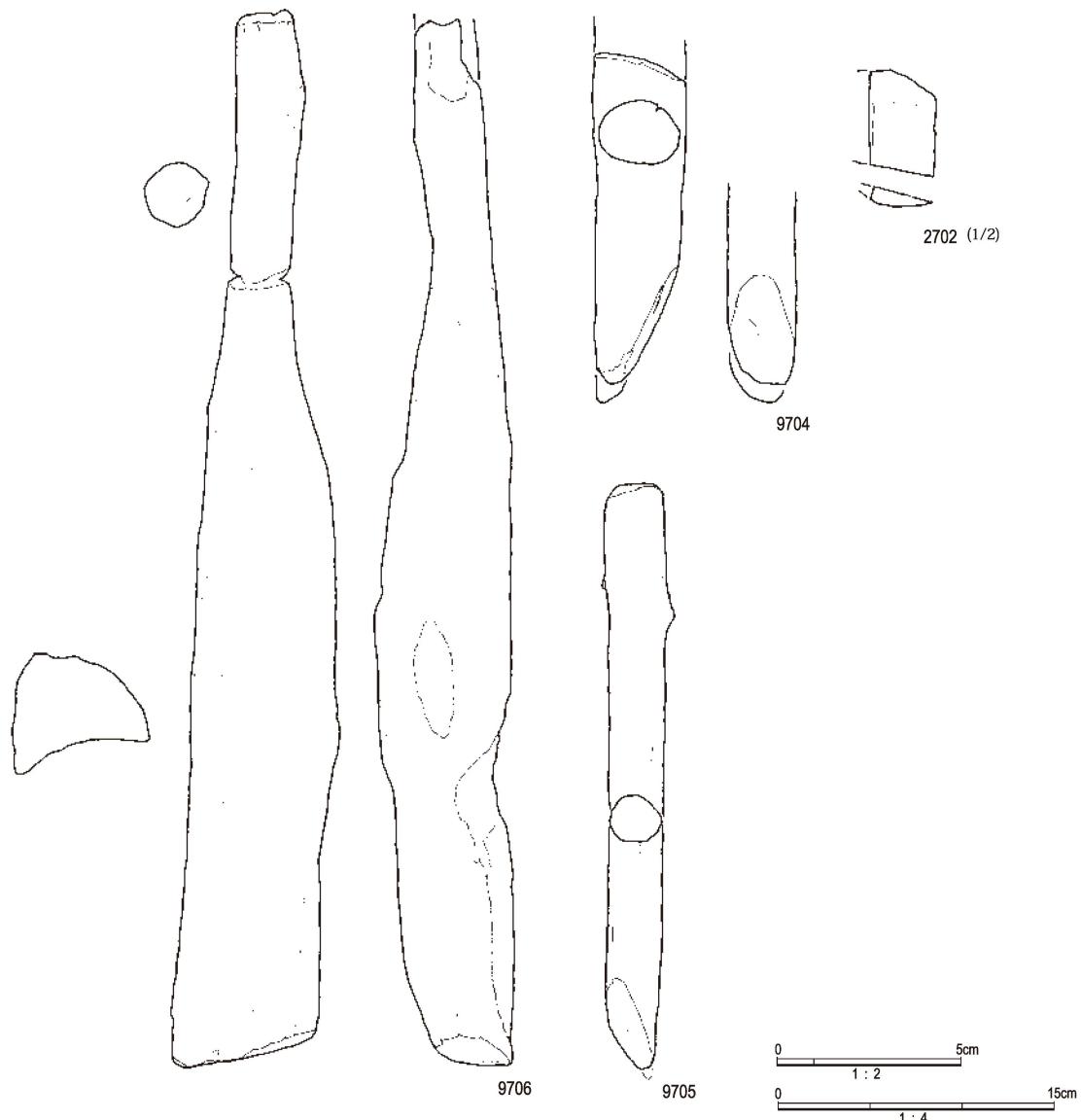


図62 遺構1071出土木製品 (4)

II 包含層及び谷部遺構出土木製品

1. 包含層出土木製品

5層出土木製品 (図63、表11・12)

5層は谷部の全域に分布する。木製品が出土するのはその最下部であり、5b層とした洗い出し部位もこれに含めて報告する。調査では10点の木製品をとりあげ、木器としたのは5点である。

柄308は柄尻付近の資料で、長軸方向の削り面で断面円形状に整形し、端部を太く作り出している。

削片7572はヒノキ材で、薄板状である。

蓋307は、周縁を荒い削り面で不整な円形状に整形する。上下面とも割り面のままとしている。スギ材か。径13cmほどの大きさで不整な円形状のものである。

糸巻部材423は、片面を割り面のまま残し、加工を行う。中央部の切欠きは両側を削り込みながら切り欠いている。中央部に回転による穿孔1箇所。両端部を断面円形状に整形する。

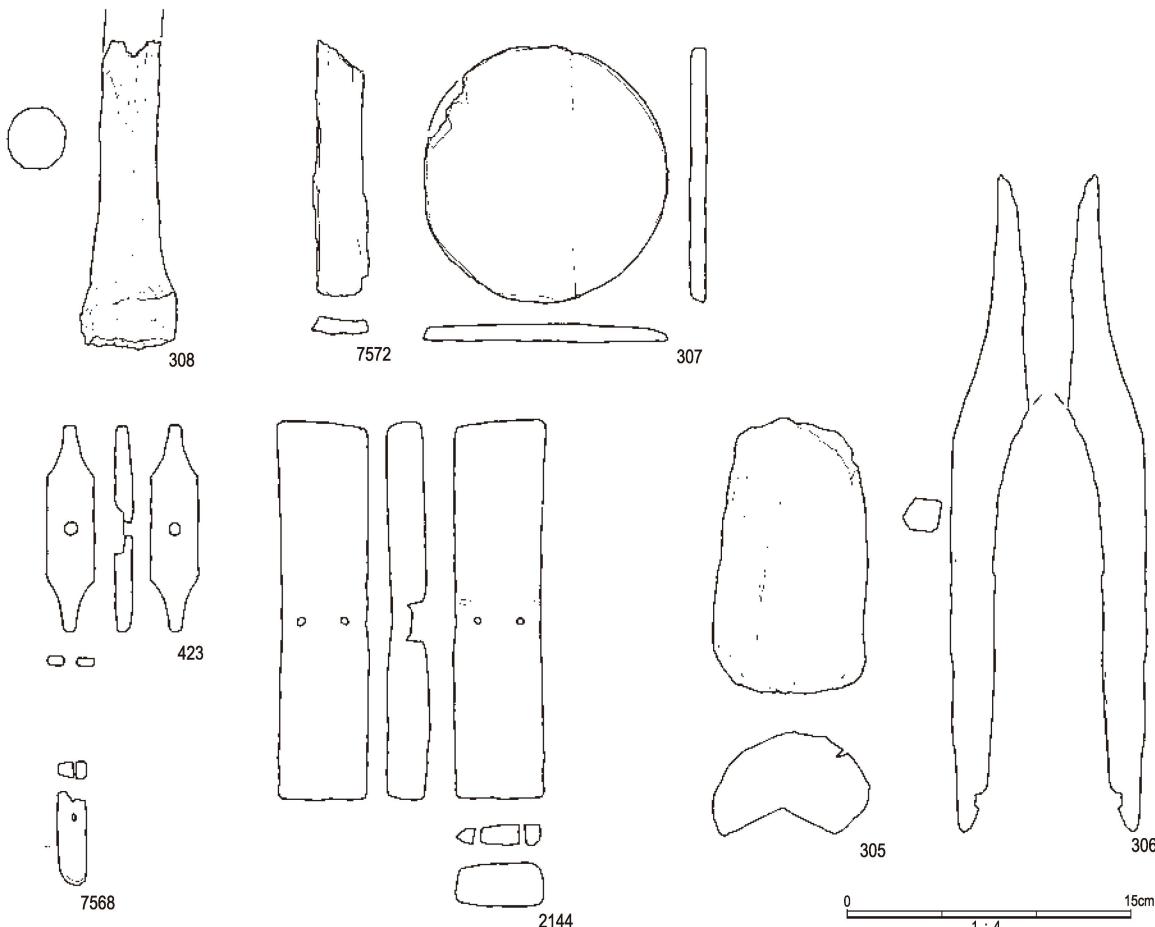


図63 包含層 5層・6層出土木製品

飾り板7568には表裏面があり、裏面は平坦なまま残置す。表面は端部を丸く整形して中央部と思われる位置に細孔を穿ち、裏面を下に目釘で固定するような形状となる。

組合せ部材2144は、中央部に鋸による切り込みを利用した切欠きを行い、2孔を穿つ。切欠き部と対応する裏面に帯状の圧痕がかすかに残り、切欠き部に合わせて挟み込むようにして組み合わせた痕跡かと考えられる。

6層・11層出土木製品（図63・64、表12・13）

6層（11層）は調査区北半谷部に分布する層で、黒褐色粘土を主とした層である。上位の5層とは不整合の関係にある。木器ほかとして6層出土資料2点（図63-305・306）、11層出土資料8点（図64）を示す。

横樋305は、頭部のみの資料で、片側は大きく亀裂を生じる。端面は平滑になる。横樋2328（図64）は長軸方向幅広の削り面により整形し、柄尻を太く作り出す

叉鍬306は、片側刃部のみの資料である。刃部先端部は片側からの磨滅面で丸みを帶びている。鍬2081（図64）は腐蝕のため外形がかろうじて判別できるのみである。柄孔より外側の部位か。

木鏃3422は完形で出土したが、乾燥収縮し変形している。

籠状の木器2356は板状で、長軸方向の幅広の削り面により稜線を持った籠状に整形する。端部の片面縁部近くに磨滅面を生じている。端部は潰状。半ばは折れて欠失する。

堅杵2297は長軸方向の幅広の削り面で整形する。断面は橢円形状となる。小形の器形であるが、中央に握り部、両端面は平滑でわずかに球面となり搗面と見える。

扉板（把手）2267 把手部の断片資料である。スギ材で、突起部を削り込んで断面半円形の握り部とし

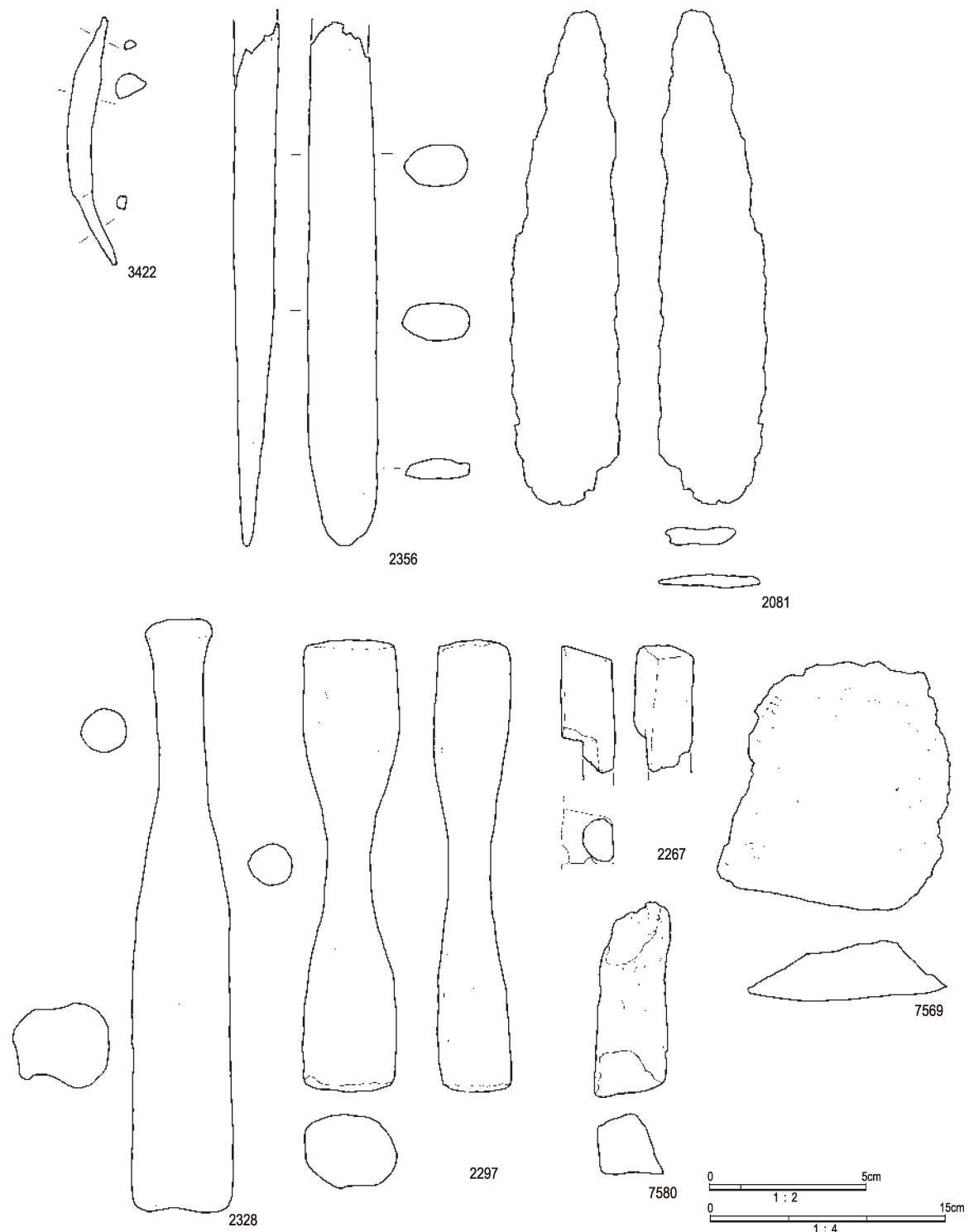


図64 包含層 11層出土木製品

ている。基部で本体から分離したもの。

11層及び下位の12層からは大形の削片、切断材の出土が目立つ。削片7569は島状の高まりを割り取ったものか。切断材7580は角材状の割材を切断したものか。

12層出土木製品（図65・66、表13・14）

12層は、11層と同じく調査区北半の谷部に分布する。木器は調査区中央部に集中するほか北辺部に

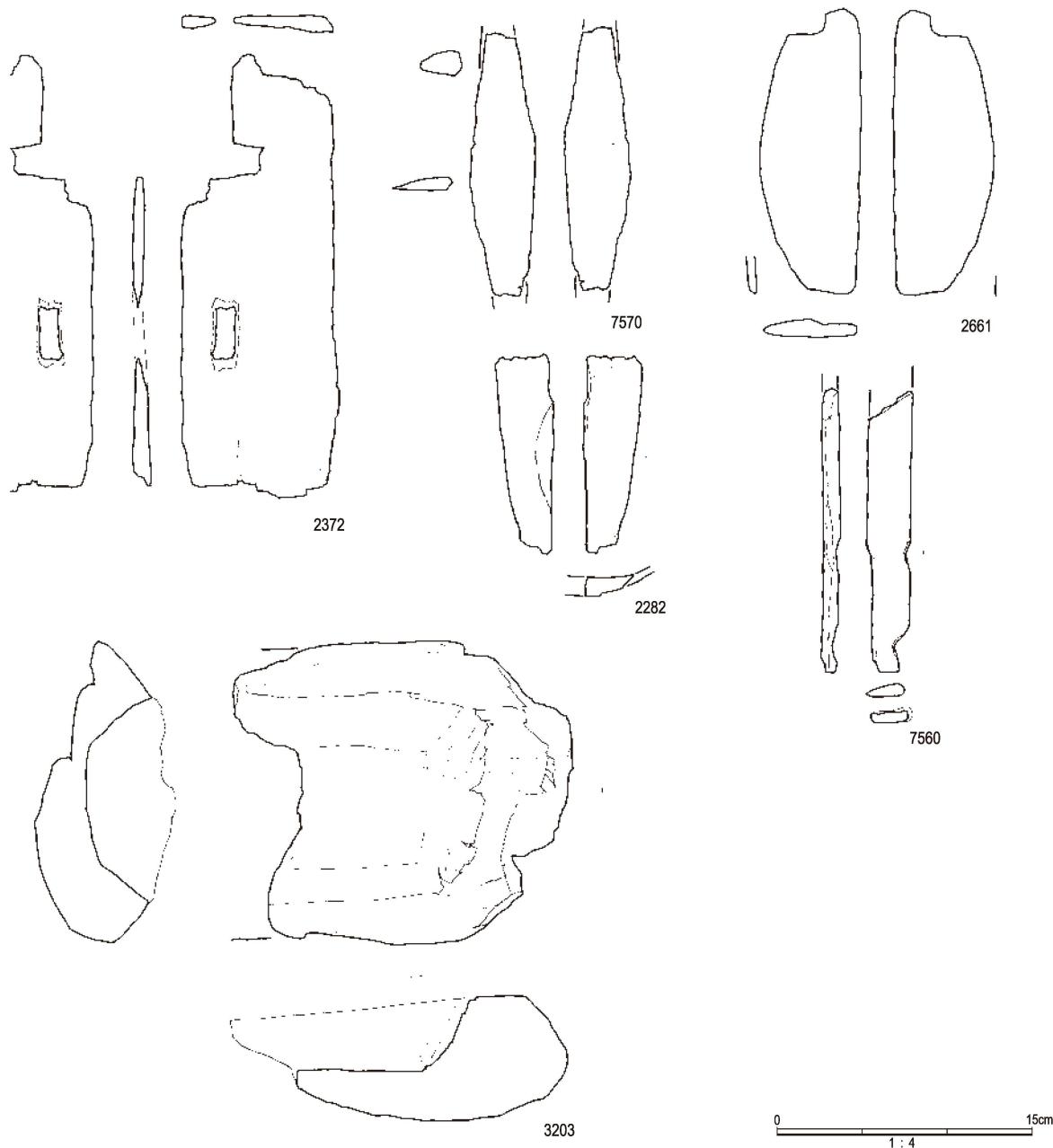


図65 包含層 12層出土木製品(1)

分布する。

穿孔のある板状部材2372は長側辺に沿う位置に穿孔する。孔は長方形で、外方の縁はやや丸みを帯びている。

包丁形の木器とする7570は、柄の作出と片側への刃付けが行われていることから分類したが、刃部側とは逆の背側が突出している。

鍬2661とするのは、2辺が原状を保っているよう叉鍬の可能性をかんがえられるが、一方全く別の器形である可能性も残る。容器2282は、ベタ底の高台がつく皿である。高台部と体部との関係から平面形が橢円形あるいは長方形の皿を復原できる。刻みのある板材7560は山形の切欠きを複数もうけ、片側の一部は刃縁のように鋭く整形している。槽3203の破断部は焼けて炭化している。

鳥形木製品2648とする資料は、全体を長軸方向の削り面で整形する。半ばは断面円形、残りは偏平な

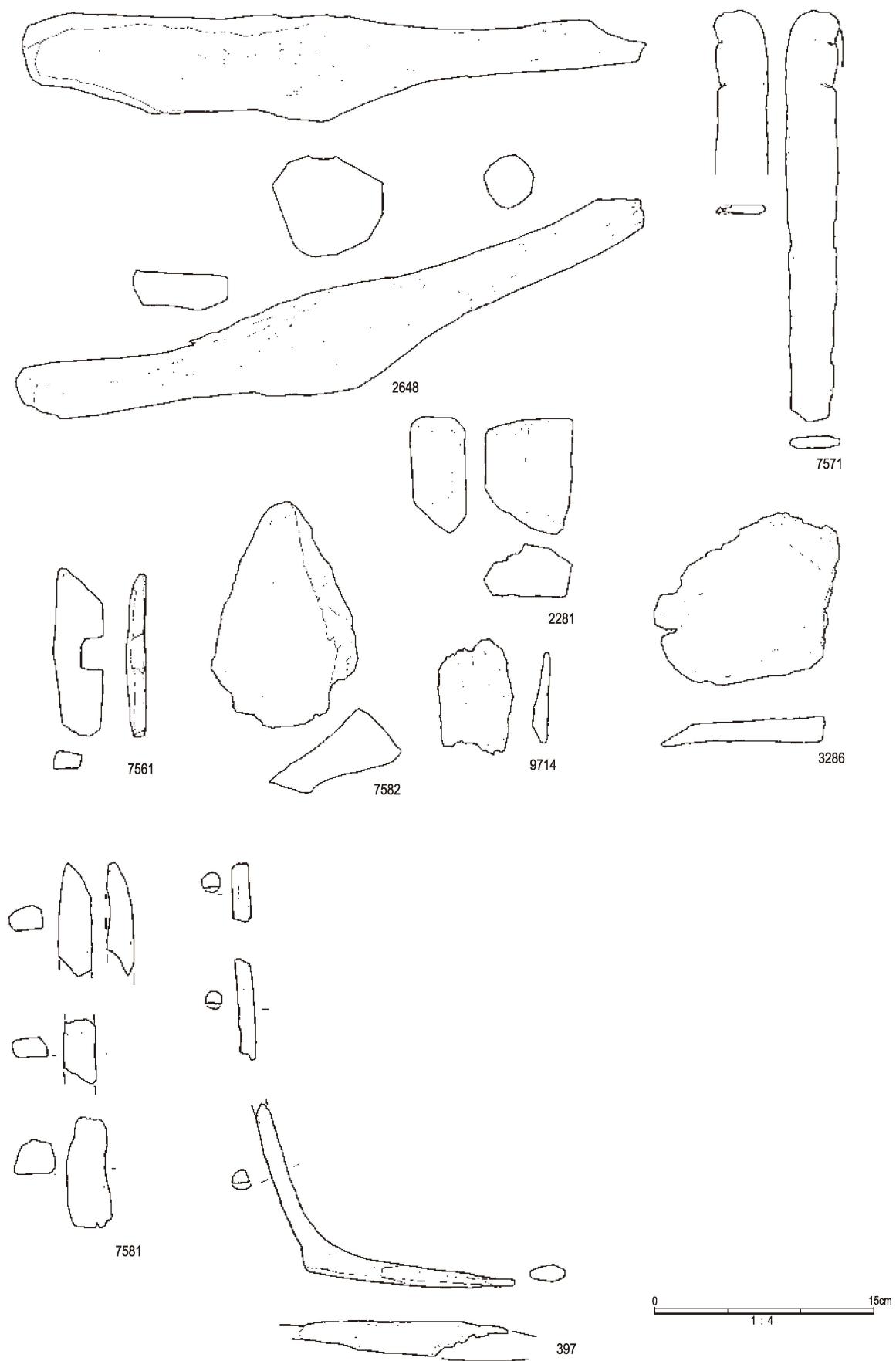


図66 包含層 12層出土木製品(2)

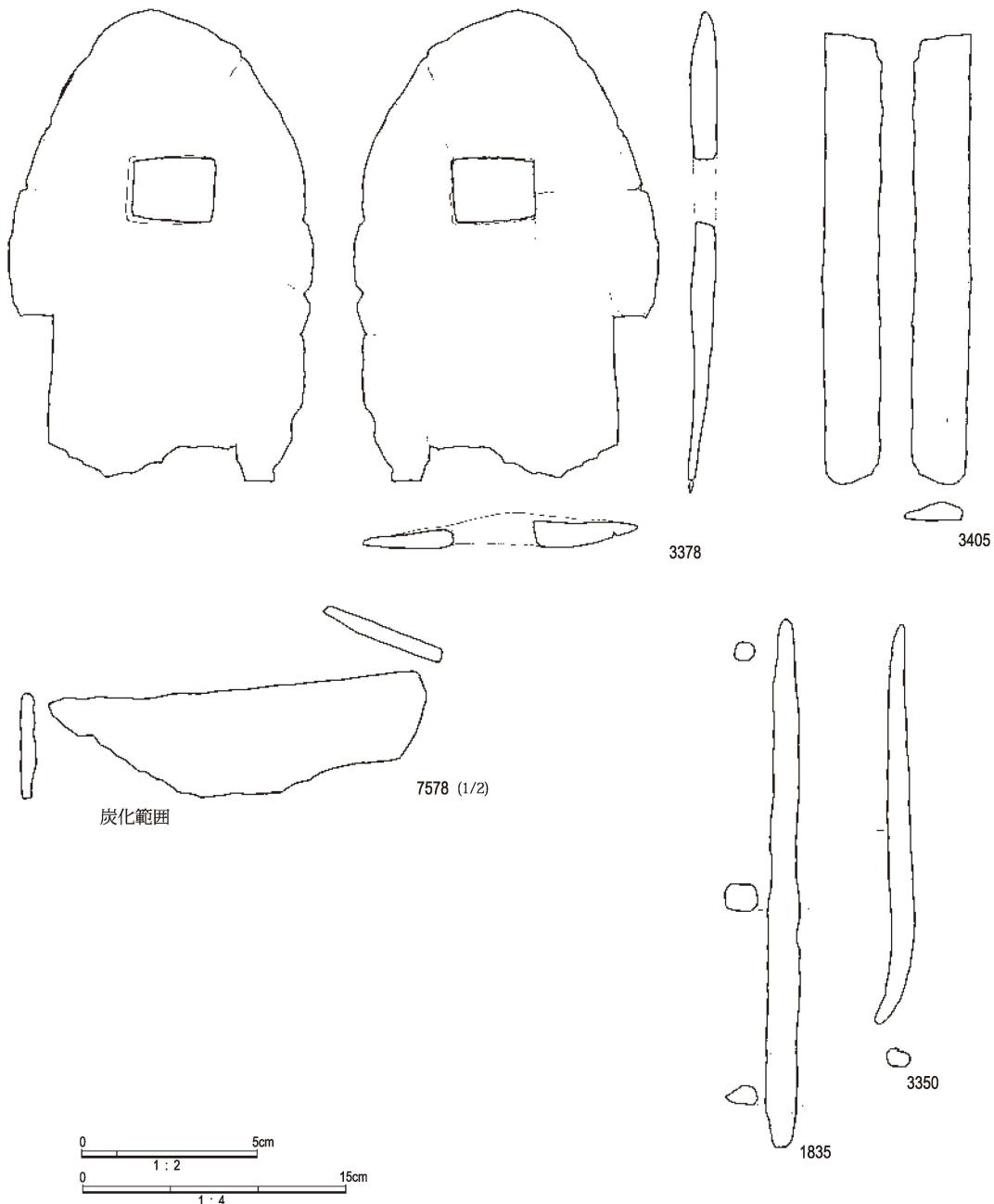


図67 包含層 13層出土木製品

板状となる。頭部相当部はわずかに膨らむ。装着のための加工等は観察できない。

穿孔のある板材7571は端部の片側に寄って2孔、切り込みを入れて穿孔する。板状部材7561は、穿孔部を含む半ばを欠く。2281は切断材、3286・9714は削片である。尖端部をもつ木器7581は、細片化して接合しない。小形柄状の木器397は、本体の先端部が焼損しており、原形不明である。

13層出土木製品（図65・66、表14）

13層は砂の薄層をはさみ、主として調査区南半に分布する。木製品はいずれも調査区中央付近から出土した。

3378は鍬とするが、周縁部の整形は観察不能、頭部は他例とは異なり幅広の山形となる。

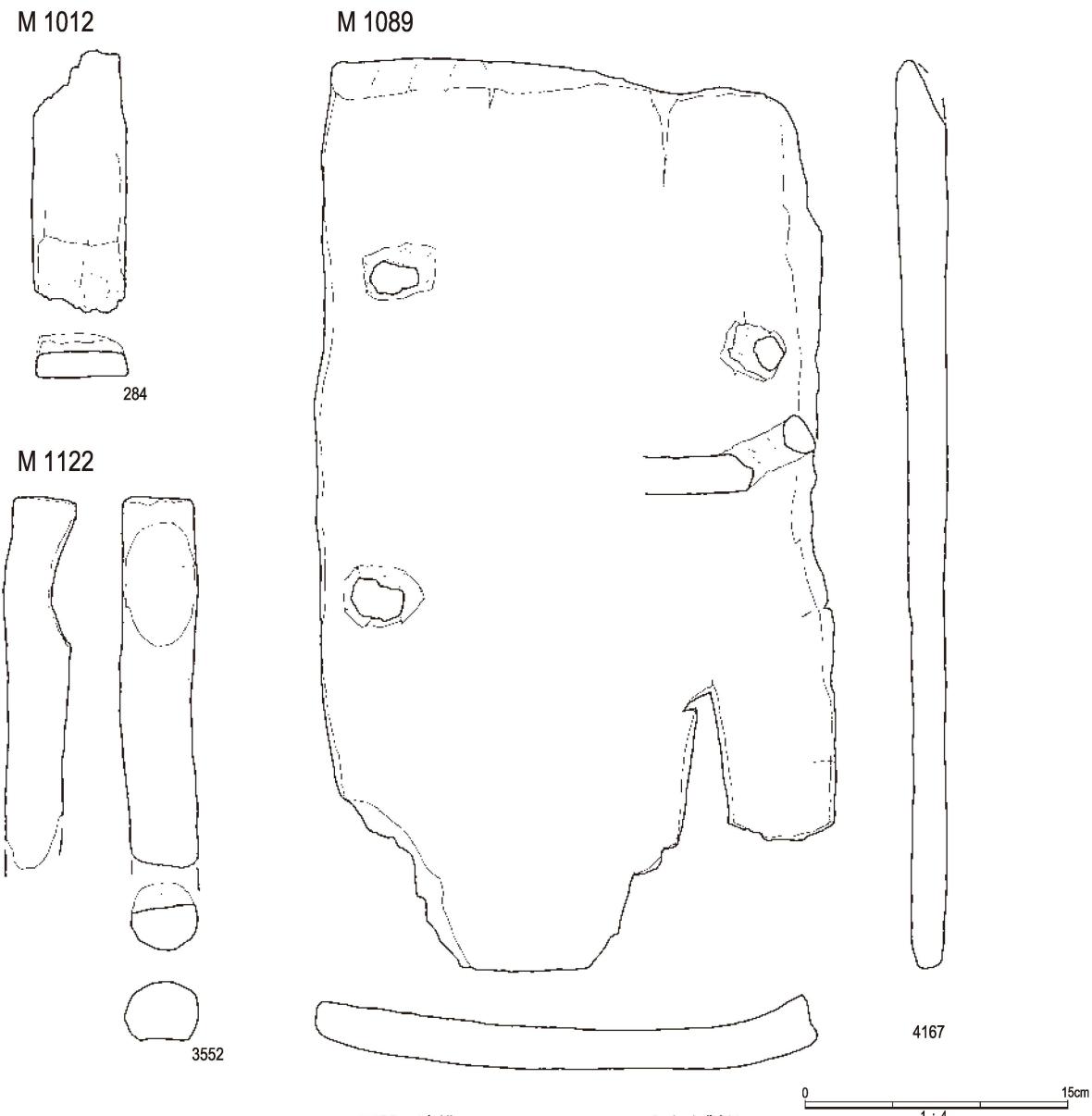


図68 遺構1012・1089・1113・1122出土木製品

板状の加工材3405は、おそらくヒノキ材で、長軸方向の幅広の削り面で整形し、木簡状を呈す。炭化部のある板材7578は断片であるが、薄く、片面に炭化部が環状に残っている。蓋か。簪1835は尖端を欠く。3350は収縮変形が著しい。

2. 谷部遺構出土木製品

溝1012出土木製品（図68、表15）

切欠きのある棧状部材284は、細い板状の片面を削って段を作り出す。

流路1044出土木製品（図55、表9）

豎杵3408は、片側と基部を欠く。搗部端縁には丸みを生じ、器表全体が平滑である。

流路1089出土木製品（図68、表15）

穿孔のある板状部材4167は、縦に据えたような状態で出土したものである。長方形状の板材で、一端を欠く。長側辺側の一方に1箇所、他方に2箇所の穿孔があるが、本来対になって4孔であったように復

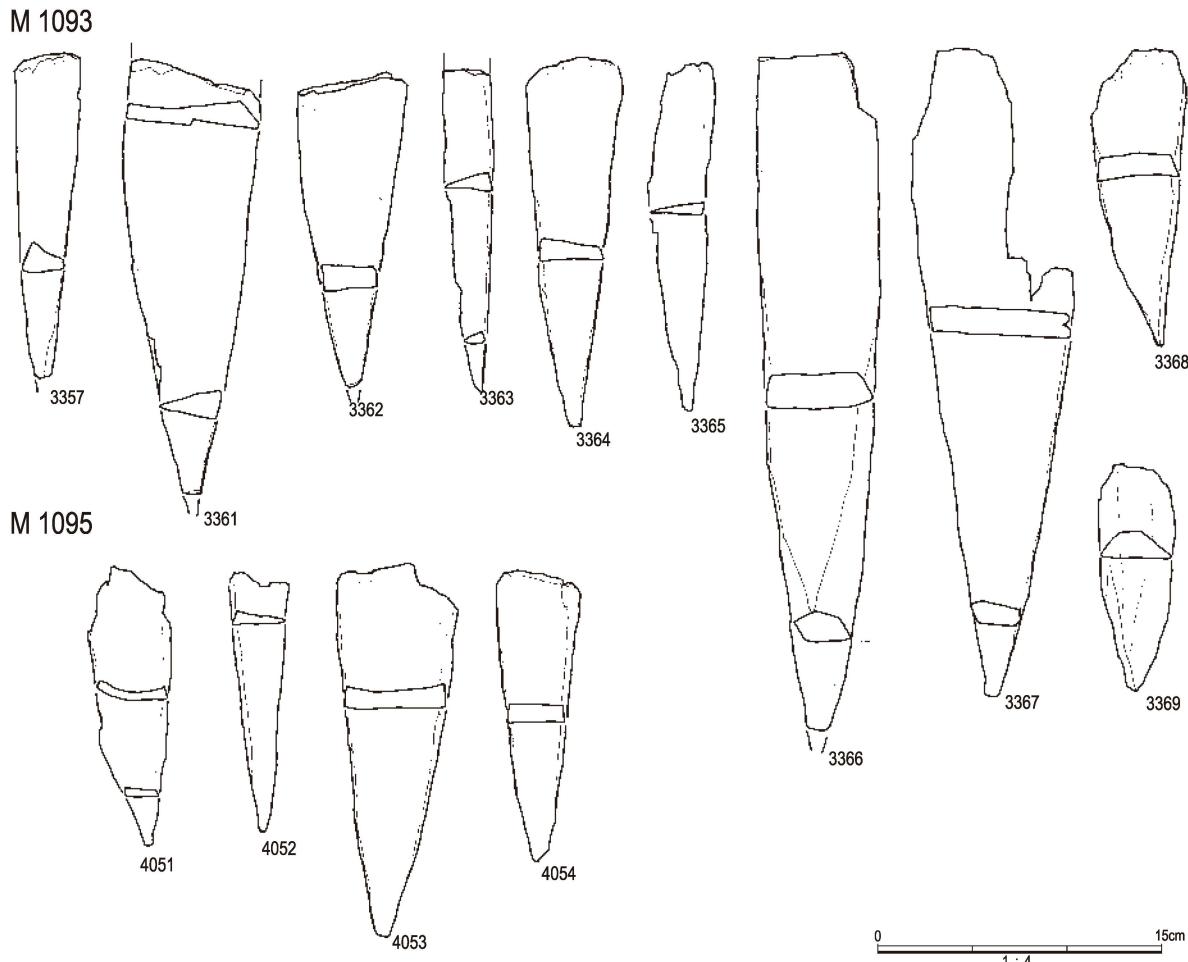


図69 矢板列 1093・1095出土木製品

原できる。穿孔は、平刃の工具で周回方向に斜めに削り込むようにして行ったように見え、孔の形状は不整である。遺存する片側端辺は面取りしたようになっている。

凹地1113出土木製品（図49、表15）

凹地1113は、谷部に位置し、水流による穿掘部と考えられる。槽3484は流路の粘土層に埋まるような状態で出土した。一方の端部を欠き、土圧によるものか片方向にひしゃげたように変形している。原形は長方形の箱形で、半割に近い材の芯部を底面に置いた木取りとなっている。

杭列1122出土木製品（図68、表15）

建築材3552 杭の間にかかるようにして出土したものである。樹皮を残したままの丸木端部を切断し、その近くを切り欠く。

矢板列 1093・矢板列1095（図69、表15・16）

やや離れて平行した位置に設けられた各々2条から成る矢板列で、根入れ部が遺存するのみである。矢板は多くが先端部のみの遺存であり、小形に見える。しかし、試みに遺構1070の矢板と重ねてみると、形状がよく重なるものがあり、長さ50cmを超えるものがあった可能性もある。厚さは同部位では、全体として矢板列1093・1095例の方が薄い。

矢板列1093では、中央部が深く打ち込まれているがその位置の矢板で35cm、一方端の浅い位置では12cmの長さで遺存する。先端部は、多くが稜側縁を斜めに削り尖端を作出し、一部は、削り面が上下面に及んでいる。矢板列1095では矢板はさらに短い。尖端部作出は側辺を斜めに削る。

遺物 番号	遺構番号	出土位置	遺物種別	長さ	幅/径	器高/厚	計測値備考	遺存【量・状態】
	遺物特記	材質	整形・調整					

溝427 18層(1) [図R34]

1347	427 G35-1032	18c層	木器 鋸	85	75	14	頭部破片 木材/カシ類/柾目材 頭部) 両側辺は両面に面取りがあり、断面楔状となる。
1893	427 G26-0341	18層	木器 鋸〔又鋸〕	278	95	19	幅は頭部 頭部破片/腐蝕顕著、かろ うじて原形を留める
			木材/カシ類か/柾目材	腐蝕により、外形以上の観察不能。			
2580	427 G26-9733	18層	木器 鋸〔又鋸〕	440	175	20	幅は刃部/厚さは 頭部/頭部幅95 上半部/片面の腐蝕顕著、 他面は遺存良
			木材/カシ類か/柾目材	頭部) 非常に長い。上端では短い単位の粗い削り面で整形。 側辺) 直立し、面取り不明瞭。 刃部) 両面からの付刃。厚い刃縁に整形			

溝427 18層(2) [図35]

1349	427 G35-1032	18c層	木器 鋸	152	54	11	頭部細片 木材/不明 側面、稜を面取りすることは鋸と同様。 柄孔と思われる穿孔部の位置が不自然で、鋸とするには疑問。
1587	427 G26-0341	18層	木器 鋸〔平鋸〕	143	45	8	刃部細片 木材/カシ類か/柾目材か 片側の肩部を中心とした部位。 側辺に面取りらしい面がある以外は観察不能
7610	427 G26-9733	18層	木器 鋸〔又鋸〕	170	20	15	刃部細片/乾燥やや収縮、 変形 やや疑問 木材/カシ類/柾目材 削り整形により、断面四辺形の刃部を削り出す。 先端部) 長軸方向からの割れがあり、使用によるものか。

溝427 18層(3) [図36]

1417	427 G26-0152	18c層	木器 えぶり	134	328	16	長側縁部は、割れたよう にみえる(加工か)
			木材/カシ類か	短側辺) 薄く整形するように見える。(短辺側) 上下縁) 厚く、刃づけか割れ面か判断できないが斜めにそぎ 取ったような形状。			
3278	427 G26-9751	18層	木器 えぶり	145	285	16	ほぼ全形が遺存/腐蝕やや 進行 木材/カシ類/柾目材 細かな整形は不明。 えぶり後面) 柄孔(遠位方向にやすばまる)周囲を厚く残し、下方、左右の三方へ薄く削って隆起部として整形。 えぶり前面は逆に削り寄せ、全体として断面が翼状を呈する形状に整形。 刃部、左右、下辺部に両面から刃付を行なう。えぶり前面からの刃付は急角度であり、結果として厚い刃縁となる。

溝427 18層(4) [図37]

1393	427 G35-1023	18c層	木器 鋸柄〔直柄〕	748	28	径は中央部/柄孔 は幅28/厚さ30以 上を想定	完形	
			木材/カシ類/芯去り材	削り出し、研磨により整形。 器表に木目が浮いてるのは、経年変化(風化等)か。 鋸身の取り付け面は大(直角に近い)				
1571	427 G26-0345	18層	木器 鋸〔偏刃〕	465	76	13	柄断面(楕円 形)30×23	器表剥落
			肩がない側では、かすかに 肩部の痕跡のような段があり、 鋸の転用か。	板材(カシ類)	柄を挟んで非対称の両側辺に刃部があり、略完存か。 非対称の刃付き木器。			
1579	427 G26-0332	18層	木器 柄〔膝柄〕	140	42	28	台部	台部下端と柄中央部欠
			膝柄。	木材/不明 広葉樹	台部) 上端は角錐状に複数の斜めの削り面で構成、装着面相当部 には平坦面を削りだす。 柄尻) 枝を斜めに削ぎ落としたような状態。			

計測値は m/m

表1 溝427 18層出土木製品観察表

遺物番号	遺構番号	出土位置	遺物種別	長さ	幅/径	器高/厚	計測値備考	遺存【量・状態】
		遺物特記	材質	整形・調整				

溝427 18層(5) [図38]

1345	427 G26-0145	18層上部	木器 横柾	330	45	40	柄(不整な円形) 径23	両端を欠く	
			木材/広葉樹か(黒色で緻密な織維)/芯去り材	全体の形状は判別できるが、器表に整形の痕跡は全くとどめない。					
1353	427 G35-1031	18a層	木器 堅杵	423	38	(柄中央25)	柄端部欠		
			木材/樹種不明(黒色緻密な組織)	遺存不良で詳細は不明。全体をみると長軸方向に帯状の平坦面(比較的幅広)があり、削り痕か。頭部は切断面か。					
1383	427 G35-1025	18c層	木器 堅杵	373	34	柄中央径27	全面腐蝕し器表剥落		
			木材/樹種不明(黒色緻密な組織)	全体に長軸方向帯状の削り面で整形。緩い螺旋状部分がある。頭部)側面は細かな凹面の集合となっているが、削り面で構成される部位もある。					
1503	427 G26-0242	18層下部	木器 横柾	297	63	43	断面偏平な橢円形形状、片側は潰れた状態	ほぼ完形	
			木材/広葉樹(カシ類か)/芯去り材	全面に研磨が行われたものか、全体に平滑。器表は木目が浮く。本体端も平滑。柄端は面取り。体部中央に3~4面凹面生成(使用痕とみられる)。					
1507	427 G26-0243	18層	木器 横柾	431	23	(径は体部)、柄径17	柄尻を欠く/腐蝕の進行が著しく、器表剥落、顕著な凹凸・亀裂を生じる。		
	未成品の可能性もある。		木材/樹種不明(黒色緻密な組織)	柄部 長軸方向の比較的広い削り面が平行して、断面が多面体状となる部分がある。					
1508	427 G26-0244	18層	木器 横柾か	409	32	柄径18	ほぼ完形		
			木材/樹種不明(黒色緻密な組織)	長軸に沿う方向の帯状の削り面で整形。削り面は幅の変化が大きく不整。木材の性質によるものか。削りが一気に進んだものでなく、左右に工具を振らせながら削り進んだような痕跡。 断面) 体部:円形、頭部:橢円形、柄部:角柱状(粗い削り面で構成される)					
2329	427 G20-9733	18層上面	木器 堅杵	452	67	46	体部(橢円形) 柄(円形)径31	略全体が遺存/腐蝕著しく進行、亀裂・収縮変形顕著	
			木材/(広葉樹か)/芯去り材	器表の遺存は不良で、調整痕は不明瞭。側面に長軸方向の平坦な面があり、これが削り痕か。 頭部端面) 平滑に整形。 柄部端面) 削り面のようにみえる。					
2330	427 G20-9733	18層上面	木器 堅杵	351	31	26	断面は橢円形	腐蝕顕著で変形、かろうじて形状がわかる。	
			木材/(広葉樹(黒色緻密な組織)/芯去り材	遺存状況から、細部の観察不能。 本体から柄にかけては屈曲して、径は小さくなっている。頭部端、柄尻方向にも細くなっている。					
2955	427 G26-9955	18層	木器 横柾	467	55	柄は径33(不整な円形)	完存/遺存良		
			木材/カシ類/芯去り材	長軸に沿う削り面で整形 頭部) 端面は、削り面で平滑に整形、一部凹凸が残る。 柄部) 柄尻部がやや膨らむ。柄端面は削り整形し、球状に緩い凸面に整形する。 体部中程に広く浅い窪みが生成しており、これが使用痕か、周回方向に分布。					
7592	427 G26-0245	18層下面	木器 横柾	188	31	径は体部。柄の径は23	上・下端を欠く/遺存良		
	端部炭化		木材/不明 広葉樹	長軸方向帯状の細かな削り整形後研磨を行ったものか。 柄と体部の境界稜部に圈線(野描線か)					

計測値は m/m

表2 溝427 18層出土木製品観察表

遺物 番号	遺構番号	出土位置	遺物種別	長さ	幅/径	器高/厚	計測値備考	遺存【量・状態】
		遺物特記	材質	整形・調整				
溝427 18層(6) [図39]								
937	427 G26-0345	18層	木器 器具部材か〔切欠きのある半円形板状部材〕	75	93	6		一部を欠く。
			木材/広葉樹/柾目材	薄い板材の側縁を削り、長方形の切り込みを入れる。 上下面) 広く浅い削り面で整形。 測辺) 短い削り面(紡錘形)を重ねて、整形(やや不整)。				
1384	427 G26-1152	18c層	木器 簪	340	23	21		器表剥落か
			木材/樹種不明(黒色緻密な組織)	長軸をやや斜め方向の削り面で整形する。 断面) 多面体状。 先端部) 削り面で整形、断面楕円形。 基部) 両側から大きく削ぎ落とし、鑿状に薄くなる。 断面) 長方形状				
1572	427 G26-0345	18層	木器 簪	432	11			ほぼ完形
			木材/広葉樹(黒色緻密な組織)	長軸方向の細かな削り面で整形。 基部 片側が浅い角度で斜めに削ぎ取られ平らになっている。ごく細身。				
2380	427 G26-0632	18層	木器 簪	308	20			ほぼ完形/器表剥落、細かな凹凸を生じる。
				長軸方向の細い削り面で整形。 断面) 粗い円形状。 先端部) 細かな削り面で、円錐状に整形。 基部) 片側からそぎ取ったような割れ面により薄くなり、籠状を呈す。意図したものか否かは判別が難しい(細部調整が加えられていない)				
2410	427 G26-0544	18層	木器 簪	348	13			ほぼ完形/腐蝕し器剥落、各所に凹部。
			木材/広葉樹(黒色緻密な組織)	先端部、基部とも籠状に薄く整形。 先端部) 片面を大きく削り、基部は両面からの広い削り面で整形。 断面) 偏平面な楕円形状、不整な四辺形状の部分がある。体部中央は厚く 楕円形				
2460	427 G26-0544	18層	木器 鋤	251	90	19	柄(不整な楕円形)23×18	基部と刃部の一部資料/腐蝕著しく進行、かろうじて原形を判断できる
	杓子状		木材/カシ類か/柾目材	板材からの削り出し。 側縁、身肩部まで刃づけしたものか。				
2471	427 G26-0541	18層	木器 簪	489	17			先端部欠/腐蝕、器表剥落
			木材/不明 イスノキか/角材状の脇材か。	全体に研磨を行うものか。 基部) 対面する削り面により、薄い四辺形。 体部) 中位の対向する位置に2対の切欠き、 断面逆台形状となる。切欠きと続く側面には全体の整形痕とは別に切欠きに対応する削り面あり。極弱い圧痕が切欠きから体部に直交する方向に残る。				
2638	427 G26-0531	18層	木器 把手部材か	389	59	29	幅の抉れ部は40	完存/器表は木目が浮く
	把手のように見えるが、端部は組み合わさる形状ではない。		木材/スギ/	角材状の割材の木口を削ぎ落とし、側辺片側に抉り込み。				
7567	427 G35-1041	18b層	木器 尖頭器〔フグシ〕	215	32	15		完形/器表剥落し、収縮
			木材/(広葉樹(黒色緻密な組織)/割材、樹皮付近	加工の痕跡は不明瞭だが籠状の尖頭部がある。使用による磨滅かもしれない。				
9441	427 G26-0544	18層	木器 簪	249	18			基部を欠く./腐蝕進行し、器表剥落
	欠損は切断によるものか。簪2410と接して出土したが、組み合わさるものではなく、別の道具と見える(形状が全く別)。		木材/広葉樹(黒色緻密な組織)	先端部近くに括れを作出し、先端部には長軸方向に広い削り面が残る。 先端部) 片側に広い平坦面面が残り、断面カマボコ状 体部) 多面体状とみえる。断面は楕円形状				

計測値は m/m

表3 溝427 18層出土木製品観察表

遺物番号	遺構番号	出土位置	遺物種別	長さ	幅/径	器高/厚	計測値備考	遺存【量・状態】
		遺物特記	材質	整形・調整				

溝427 18層(7) [図40]

1385	427 G35-1023 18c層	木器 蓋状木器〔紐孔をもつ半円形板状器具〕	91 118 11			木目が浮き出る
	孔の対抗する位置がやや磨滅しており、紐ずれか。	木材/スギか/柾目材(板)	上下面の調整は観察できない。 側辺は直立する削り面で、平面小判形に整形する。 中軸をやや離れた位置に1対の穿孔。突き錐によるものと見える			
2637	427 G26-0531 18層	木器 扇板	1533 320 26			把手部を欠く(出土時は略完存)/腐蝕進行
		木材/カシ類か /柾目材か	上・下面割れ面と思われるが、詳細不詳。 把手は削り出し、2カ所に穿孔。長方形孔。1孔、2孔がある。			
7613	427 G26-9733 18層	木材 杖〔丸木杖〕	293 28	断面は不整な円形	先端部、頭部の一部を欠く/遺存良	
	完存資料であり、一般的な杖であるのかいなか疑問。	木材/ (広葉樹か) /丸木	先端部) 斜め方向に複数方向からそぎ取り、尖頭部作出(多面形の杖状) 頭部) 周囲から斜めに削り多面体状に整形 片面の半ば以上に亘る割れ面がある。 器表) 黒褐色の付着物あり。一見、経年変化によるものかとみえるが稜部などは良く原形を保っている。			
9444	427 G26-0341 18層	木器 棒状の加工品	413 42		ほぼ完存/器表やや荒れ、部分的に収縮	
	丸木の一端を削いで断面台形状に整形。他端は切断か。	木材/広葉樹か/芯持ち材	丸木の一端を斜めに削ぎ取る。角度は浅く、3面を削り、他は木材のまま残す。他端は斜めに切断(切断面のまま残置)			

溝427 19層 [図41]

1342	427 G26-0145 19層下部	木器 足付盤	385 48	円形の盤と考える	小破片、足部を含む。
		木材/カシ類/横木取り(板目材か)	荒い削り面が残る。 脚) 数は推測できない。螺旋状の細かな削り面で整形されている		
1378	427 G26-0153 19層	木器 堅杵	414 85 70	厚さ頭部近く/柄径(断面楕円形)32×26	ほぼ完存/片側の面は収縮変形
		木材/カシ類か/芯材か	長軸方向帯状の削り面により整形。 把手部) 平滑で丸みをおびる。 先端部) 平滑な平面となり光沢を有す。 把手端) 周囲からの削り面で半球状に整形。		
2640	427 G26-0541 22層	木器 鍬〔狭鍬〕	512 95 19		片側1/3を欠く/腐蝕顕著で、かろうじて形状を留める
		木材/カシ類か/柾目材	身が長く 側辺の刃付けはみられない。 刃先は狭く薄い。 刃縁の整形をしているかは判らないが、全体として刃に向かい薄くなる。		

溝427 22層(1) [図42]

1755	427 G26-0344 22層	木器 鍬〔三又鍬〕	279 99 14		頭部
		木材/カシ類/柾目材	腐蝕のため観察はほとんどできない。 側面は直立する削り面で構成。 刃部は両面からの刃づけが行なわれる。		
2439	427 G26-0623 22層	木器 鍬〔又鍬〕	389 54 22	刃部 幅25厚さ17	片側1/3の破片、頭部を欠く/器表は風化した様な状態。植物根痕跡顕著
	二又か三又かは 判然としない	木材/樹種不明/おそらく柾目材	側面に明瞭な面(削り面)を残し、稜部を面取り。 器表の変化が、他例とやや異なる。やや風化気味か。		
2505	427 G26-0542 22層	木器 鍬〔平鍬〕	244 136 15		刃部の大半と頭部の半ば欠/遺存良
	板状	木材/カシ類	刃部に段を削り出すが、粗割り面で大きく剥がした後に、大きな整形を行なっていないような表面状態(繊維の凹凸がみえる) 側面も稜部にやや面取り様の丸みがみえるのみ。		

計測値は m/m

表4 溝427 18層・19層・22層出土木製品観察表

遺物 番号	遺構番号	出土位置	遺物種別	長さ	幅/径	器高/厚	計測値備考	遺存【量・状態】
	遺物特記	材質	整形・調整					
7605	427 G26-0345	22層	木器 鋸〔平鋸〕	87	130	7		体上部の細片/腐蝕顯著に進行し、収縮、変形
			木材/カシ	薄手	側縁部、丸みを帯びた断面形			

溝427 22層(2) [図43]

1744	427 G26-0342	22層	木器 平鋸	300	152	18	ほぼ完形/腐蝕著しく進行、収縮変形を生じる。
			木材/カシ類か/柾目材	身の中位に低い段を作出。 側面との鋸後面の角部は広く面取りし、前面側は角のままとする。			
1778	427 G26-0241	22層	木器 平鋸	280	152	13	頭部の一部欠/腐蝕顯著
			木材/カシ類か	片側の肩部から刃部にかけて、かろうじて原状を留めるほかは腐蝕のため器表が残らない。			

溝427 22層(3) [図44]

2596	427 G26-9642	22層	木器 鋸〔平鋸〕	324	187	19	刃部を欠く/遺存良
			木材/カシ類/柾目材	側縁部に面取り。身部の鋸後面に段削り出し。 下半部の縁部は、擦れて取れて曲面を成している(磨滅か、研磨かは不明)。 鋸後面) 短く不整な削り面が残る。 鋸前面) 調整痕が判然としない平面となっている。 柄穴周辺をやや厚く残し、低い島状となる。			
2599	427 G26-9632	22層	木器 鋸〔平鋸〕	305	188	13	身(刃部)の段下では厚さ5
			木材/カシ類か/柾目枝材	身(刃部)の段下では厚さ5 長軸、幅方向ともに、緩い曲面となる。長軸方向には、そのような形状に削り出されたものか。 側縁) 削り面で構成され、各稜部は面取り。上上下面) 短く不整な削り調整が行われる。削り面は広く浅い。条線等は観察されない。刃部中央横断方向に段を削り出す。 身部中央以下の側縁は丸く滑らかで、使用によるものか、調整かは不明。			

溝427 22層(4) [図45]

1649	427 G26-0152	22層	木器 柄〔膝柄〕	494	頭部(長さ)379/ 柄(径)25/台部 径28/柄部径21	完存	
	未成品		木材/不明	枝部を利用し、幹の両端、枝先端部を斜断(单面の切断面)。 それ以外の整形は確認できない(節もそのまま残置)。 各部の断面 不整な円形。			
2602	427 G26-9643	22層	木器 斧柄〔膝柄〕	600	22	柄の径22/台部長さ90/幅38/厚さ22	台部の先端欠/遺存良
			木材/(広葉樹)	台部) 頭部は、柄付け根の位置より突出せず、柄から丸みを持つて台部へ続く。 台部) 直方体状。 柄) 樹皮は搔き取り、節目部も平坦に整形。要部は整形したものか、部分的に長軸方向の削り面。柄尻は、軸に直交する平面となるが、複数の削り面により整形。			

溝427 22層(5) [図46]

1478	427 G35-1945	22層	木器 柄か	849	31	楕円形状	前端の一部欠
	丸木状で建築部材の可能性。		木材/不明 広葉樹か/芯持材	両端の片側にそれぞれ浅い切れぎがある。切れぎ周囲は長軸方向方向の細い削り面で整形。 全体に樹皮は残らず節目も残さない。搔き取りなどで全面調整を行ったものか。			
1604	427 G26-0344	22層	木器 斧柄〔膝柄〕	504	19	軸長×径(柄) 台部 長さ75幅24	台部の両端を一部欠く
			木材/(広葉樹)	台部) 側面楔形、平面觀は紡錘形、断面矩形に整形。平坦な大きな削り面で構成。 柄) 細く直線状、部分的に樹皮が残る。柄尻は複数の削り面により丸みをもつ。			

計測値は m/m

表5 溝427 22層出土木製品観察表

遺物番号	遺構番号	出土位置	遺物種別	長さ	幅/径	器高/厚	計測値備考	遺存〔量・状態〕
	遺物特記		材質	整形・調整				
3046	427 G26-9835	22層	木器 柄か〔膝柄〕	1069	30	台部 長さ142 幅35 厚さ37	台部下半割れて欠/遺存良	
	柄とすれば膝柄であるが、装着状況を想定できない。別の建築部材といったものの可能性。		木材/(広葉樹)	柄) 樹皮を残し、柄尻部を周囲から削り、角錐状に細くする。台部) 軸方向の削り面により、断面が円形に近い形状に整形。柄基部以上部への突出はなく側面L字状となる。柄部との形状、径の差なく、やや細く先細りか。下半部はねじれ割れ、下端面には切断痕が残る。				
7590	427 G26-0245	22層	木器 柄	614	29	長さは現存部の軸長。径は楕円形29×19	一部を欠く/片側が収縮、変形	
	柄とするが、着柄の状況を想定できない。		木材/広葉樹/芯去り材	材木(角材状)から削り出し。末端部に軸方向帯状の削り面が残るほかは平滑で整形の状況は不明。研磨を加えているものか。前端部とする部位には帯状に膨隆部を作出。中央には柄と一致する位置に突起がある。台部の正面形は多面体状(亀甲状)であるが、原形を留めるものかよく判らない。柄尻とする方向に向かっては反りながら細くなる。				

溝427 22層(6) [図47]

1395	427 G35-1015	22層	木器 箒	311	13		先端部欠/基部は乾燥収縮か	
			木材/(広葉樹、黒色緻密な組織) 黒色、硬質)	中央部、先端部では、長軸方向に細かな削り面が残り、中央部では断面円形、先端部では矩形に整形。基部 削ぎ落とすように割れ面が残るが、破損か否かは判別できない。乾燥変形。先端部 端部を欠損するが残る部分が黒化し硬い。あるいは加熱し硬化させていたものか。				
1457	427 G35-1031	22層	木器 箒	147	15		先端部/器表は良く保存され、調整痕明瞭	
			木材/(黒褐色、硬質) 樹種不明イスノキか	長軸方向の細い削り面により整形し、体部の断面は楕円形状。先端部 更に細かな削り面で円錐形状に整形、断面は楕円形状。				
1609	427 G26-0154	22層	木器 斧柄〔膝柄〕	151	40	29 (台部)/柄は112 遺存	台部の資料、柄の大部分を欠く	
			木材/カシ類か	台部) 鍔前面に2段の浅い段がある。これが装着痕若しくはそのための加工。上位の段は側面におよぶ。袋状の鉄斧の装着が復原できるが、この場合袋部の内法は幅25mm前後。高さは20mm前後となる。装着の深さは上位の段を前提とすると、50mm程。				
1618	427 G26-0152	22層	木器 柄か	180	67	42	一部の破片、全体形状を判断し難い/器表腐蝕のため剥落	
			木材/不明 広葉樹	斧柄とすると、台部のみの資料。台部前面に凹部を削り出し、対応する後面に切欠き。				
1699	427 G26-0244	22層	木器 弓	489	22	17	断面は楕円形	破片、半ばを欠く
			木材/広葉樹(黒色緻密な組織)	長軸方向に平行する細かな削り面で整形、2ヵ所で刻み込んで段を作出(端部と中央部に相当か)。体部の断面形は楕円形。端部の段を弓筈とすれば弓。但し、凸状となっている。現状では両端を浅い角度で対向する方向に斜断している。意図的なものかは不明。切断面は非常にきれい。端部側のそれは、明らかに複数回加撃を行なっている。				
2700	427 G26-0631	24層	木器 杵〔堅杵〕	413	75	73	断面は不整な円形状/柄(不整な円形)	一部を欠く/遺存良
			木材/樹種不明/芯持ち材	本体部) 部分的に残る長軸方向の細い削り面により整形したものと見えるが、さらに研磨が加割ったか、使用によったか、平滑化する部分もある。 柄) 本体部と同様の経過とみえる。 搗面) 半球状となり、平滑で光沢をもっている。おそらく使用によるものと見える。				

計測値は m/m

表6 溝427 22層出土木製品観察表

遺物番号	遺構番号	出土位置	遺物種別	長さ	幅/径	器高/厚	計測値備考	遺存〔量・状態〕
							整形・調整	
2966	427 G26-9834 22層		木器 横槌	370	34	柄径20	頭部欠/亀裂を生じるが遺存良	
			木材/広葉樹か				長軸方向の比較的幅広の削り面で整形。 各面の成す稜は丸みをもち、使用による経年変化のほか、ある程度の研磨も可能性がある。 使用による凹面等の生成は見られない。	
3133	427 G26-0441 22層		木器 柄〔斧柄〕	260	32	台部 長さ129 幅60 厚さ40	完存/器表はやや荒れて、黒化、植物根痕らしき細孔が分布。	
			膝柄。縦斧柄未成品か若しくは、槌等といった別機能を想定できる。				台部) 中央が膨らんだ直方体状で、各面は平滑に整形されている。下端部の各辺の稜は明瞭。他の辺は面取りが行なわれる。頭部はやや丸みをもたせている。各面は平滑。 柄) 端部は周囲から斜めに粗く削り、多面体状となる。この状態だと非常に短い柄となる(片手で持つような状態)。	
7591	427 G35-1031 22層		木器 肩状	214	25	17	柄部の径は19	先端部を欠く/遺存良
			若しくは、組み合わせの柄					
9709	427 G35-1041 22層		木器 箔	118	14		先端部/腐蝕、器表剥落	
			木材/樹種不明(広葉樹か、黒色緻密な組織)/芯持材					

溝427 22層(7) [図48]

1346	427	木器 柄(膝柄未成品)	417	76	58	厚さ58は下半部/頭部、柄が部分的に遺存(計)965	
		柄とするが槌のようなものかもしれない。台部下端面の状態が悪く、観察できない。	木材/ 広葉樹(樹皮遺存)	台部の全体は両側から削って広い平坦面をなす。 断面丸みのある長方形。 柄の位置より上方は曲線状に薄く削り、断面長方形状となる。 上端は破損して不明。下端は切り離した平坦面のまま。			

溝427 22層(8) [図49]

1684	427 G26-0243 22層	木器 容器〔椀〕	140	111	25		底部細片
	丸底	木材/樹種不明/横木取り、板目材か	木材から半球形に削り出し。 外面 荒い削りで整形。 内面 丸鑿状の工具痕らしきものが残る。				
1740	427 G26-0151 22層	木器 容器〔蓋〕	148	17		径辺の漆が残る 位置間の距離は170	縁部の大部分を欠く
		木材/樹種不明/横木取り	板状の木材からの削りだし。内面に嵌合部の段を削り出した痕跡。 外側) 黒漆塗。稜、外縁及び中心に赤漆。 内面) 黒色の顔料様のものが全面に塗られている。				
3216	427 G26-9734 22層	木器 純子	215	172	81		細片化、ほぼ完形。
		未成品	木材/針葉樹か	未成品。半裁した木材の半裁面を上面として椀形を木取り。本体と柄部の概形を削りだした段階。			

溝427 22層(9) [図50]

1470	427 G35-1031 22層	木器 純子	249	25			柄部/遺存良
		木材/広葉樹(カシ類か)/厚板材からの削り出し	軸に沿う軸幅の削り面による整形。 柄尻 平坦な削り面となっている。縁を面取りか。				
1505	427 G26-0242 22層上	木器 木鏃	55	14	3	幅は体部中央	全形が遺存/腐蝕が著しく、器表は遺存しない。
		一見すると、浮子の様な形状だが、材は硬質、重い。	木材/樹種不明(黒色緻密な組織)/芯去材	断面は円形状、先端部の側面観、テーパー状となることは、木鏃に同じ。 長さに比して、体部の径が大、茎がごく細く長い。			

計測値は m/m

表7 溝427 22層出土木製品観察表

遺物番号	遺構番号		出土位置	遺物種別	長さ	幅/径	器高/厚	計測値備考	遺存【量・状態】
	遺物特記								
1617	427	G26-0152	22層	木器 周縁に穿孔する板状部材	112	69	4		周縁の一部を欠く
				木材/(広葉樹か)/横木取り。ごく薄い板状。	板材の周縁に沿って等間隔に、径2mm程の孔を穿孔する。一部では、2列となる。穿孔は、現状で3辺に残り、もともとは台形状を呈するものであったとみえる。 穿孔は、細径の円形で、回転によるものか。				
2474	427	G26-0442	22層	木器 有孔板状の木器	445	135	13		一部を欠く/遺存良
				四角形板状、部材か	木材/広葉樹	表裏面、広く平坦な削り面が残る(亀甲状の平滑な削り痕)。 長側辺は面取り。短辺は薄く削る。 穿孔)一方は両側から、他方は片側から削り抜いて不整な穿孔があり、紐ぞれ様の丸みが生じている。			
7586	427	G26-0344	22層	木器 削片	147	61	11		保存良好
				木材/針葉樹か	一端に切断痕、片面は割れ面、削り面側(平坦)に線状痕。工具痕か。直線で細く不規則に分布。工作台としての利用があったものの断片か。				
7588	427	G26-0344	22層	木器 建築部材	286	35	18		端部/器表風化か、木目が浮く
				木材/針葉樹(マツか)/柾目材	木材の側面を丸く整形したものか。木目が浮いている(風化によるものか)				

遺構1054 [図51]

1871	1054		木器 横槌	356	74	径は頭部中央、柄の径は31	ほぼ完形/片面が著しく荒れ(出土時か)
			木材/広葉樹(カシ類か)/芯去り材	全体に長軸方向の削り面で整形されているようであるが、頭部はやや粗い。			
1873	1054		木器 槽	339	95	45	上部の大部分を欠き細片化/器表の遺存良
			木材/広葉樹か/芯去り材	外表面舟状に整形。 内外面とも研磨を加えているものか、平滑で光沢をもつ。片側には把手を作り出す。 外面) 上半部は長軸方向で幅広の削り面で構成される。下半部は平滑で全体に丸み。			
1874	1054		木器 檜形木器〔叩き板か〕	349	50	15 柄断面(楕円形)27×22	柄端部欠/器表の遺存良
			木材/広葉樹(カシ類か)/柾目材	器表に広く浅い削り面が残るようにも見えるが、判然としない。 柄) 断面楕円形で器表平滑。研磨によるものか。			
1875	1054		木器 横杵〔横杵〕	318	85	径は頭部、基部は径48	頭部のみの資料(柄は基部で脱落)/遺存良
			木材/樹種不明	杵の全体が涙滴形となるよう整形する。 器表は磨いたものか、平滑。 掲面は軸に対して目立って傾く。その向きから推測して腰よりも下の位置のものに対して作業したものか。擦れて光沢をもつ			
9710	1054		木器 農具柄か〔膝柄〕	513	29	台部 長さ182幅40厚さ30	柄尻部を欠く/遺存良
	柄か単体の道具かは判然としない。		木材/広葉樹/枝を残した樹幹	台部) 柄の径に合わせて両側面を平滑な削り面で整形。全体に先端部に向かい先細りとなり、鼈状を呈す。尖頭部をもつものか。 柄) 特別な整形を行なっていない。鳶口状の形態。			

土壌1061 [図53]

2408	1061		矢板 割材			両端欠/収縮変形
			木材/カシ類/柾目材	みかん割り材 頭部に切断面が残る。		
2409	1061		矢板			端部欠/全体に収縮、変形
			木材/カシ類/柾目材	薄板状の木材の一端の両側縁を斜めに削ぎ落し、尖頭部作出。		

計測値は m/m

表8 溝427 22層・遺構1054・遺構1061出土木製品観察表

遺物 番号	遺構番号	出土位置	遺物種別	長さ	幅/径	器高/厚	計測値備考	遺存【量・状態】
	遺物特記	材質	整形・調整					

土壙1062 [図55]

2507	1062	矢板	1293	91	25		ほぼ完存
		木材/カシ類	みかん割り材の幅広で薄い側の端部両側縁を斜めに削ぎ落し、尖端部作出。				
2508	1062	木材 板状〔割材〕	960	104	20		一部欠/乾燥収縮、変形
		木材/カシ類	頭部は、割れ面ないし切断面。 割材2509と大きさが近似する。あるいは同一工程で割りとられたものか。				
2509	1062	木材 板状〔割材〕	990	131	21		中間部欠
		木材/カシ類か	上下面、側面とも割れ面。 端面は切断面(平滑)。				
3408	1044	木器 堅杵	368	81			柄部欠/腐蝕著しく進行
	不明確	木材/広葉樹(カシ類か)/芯持ち材	全体に平滑で、研磨の可能性もある。 掲部端縁には丸み。				

遺構1070 [図57]

3241	1070	矢板	168	52	31		先端部
		木材/カシ類/みかん割り材	みかん割り材の縁部を削り調整し、先端部に整形。				
3242	1070	矢板	248	51	32		両端欠
		木材/カシ類/みかん割材	一部に割り面を残し三方に削り、整形を加えて尖端部作出。				
3243	1070	矢板	297	57	35		頭部欠
		先端部潰状	木材/カシ類/割材	片面を残し周囲を削って整形、先端部を作出。			
3244	1070	矢板	405	85	45		頭部欠
		木材/カシ類/みかん割り材	みかん割り材の先細り部分を利用し、稜部を削って整形し先端部形成。				
3245	1070	矢板	514	75	28		先端部欠
		木材/カシ類/板材	板材の両側辺を削り、整形して尖端部を作出。				
3246	1070	矢板	508	98	35		頭部潰状
		木材/カシ類/みかん割り材	みかん割り材の両側縁面に削り整形、先端部を作出。				
3247	1070	矢板	793	101	43		
		木材/カシ類/みかん割り材	みかん割り材の稜部を削り尖端部作出。				
3253	1070	矢板	655	107	50		先端部欠。頭部乾燥、やや収縮
	頭部潰状	木材/カシ類/みかん割り材	片方の端部の全周を削って整形を行い、尖端部作出。				
3254	1070	矢板	575	73	37		
	頭部潰状か	木材/カシ類/みかん割り材					
3255	1070	矢板	512	83	30		頭部欠
	先端部潰状	木材/カシ類/みかん割り材	みかん割り材の一端の全周を削って整形を行い尖端部作出。				
3256	1070	矢板	312	82	27		両端欠
		木材/カシ類/みかん割り材					
3259	1070	矢板	544	91	61		先端部欠
	頭部潰状	木材/カシ類/みかん割り材	みかん割り材の細くなった端部の両側を削り尖端部作出。				
3260	1070	矢板	729	99	24		
	頭部潰状	木材/カシ類/みかん割り材	みかん割り材端部両面に削って整形し、尖端部作出。				

表 9 遺構1062・遺構1070出土木製品観察表

計測値は m/m

遺物番号	遺構番号	出土位置	遺物種別	長さ	幅/径	器高/厚	計測値備考	遺存【量・状態】
	遺物特記	材質	整形・調整					
3261	1070	矢板		506	67	57		
	頭部潰状	木材/カシ類/みかん割り材	みかん割り材の一端のほぼ全周に削って整形し尖端部作出。					
3262	1070	杭 角杭		324	51	46		
	頭部潰状	木材/カシ類/割材	割材の一部縁を削り角材状に調整、尖端部を作出。					
3272	1070	矢板		494	90	38		両端欠、頭部は大きく欠失。
		木材/カシ類/みかん割り材						
3273	1070	矢板		729	99	24		接合部破損(調査時)
	頭部潰状	木材/カシ類/みかん割り材	みかん割り材の1側縁を削り調整し、尖端を作出。					
3274	1070	矢板		572	84	54		両端欠。頭部は乾燥収縮、変形。
		木材/カシ類/みかん割り材	稜部を削り整形、先端部を作出。					
3275	1070	木材 板材〔みかん割り材〕		754	168	23		
		木材/カシ類	みかん割り材を利用し、片面の一部を削り整形するものか。					

遺構1071 (1) [図59]

2516	1071	木材 割材/みかん割材	1153	52	15	長さは、2破片の合計	両端、中央部欠
		木材/カシ類					
2518	1071	木材 割材/みかん割材	1382	60	31		端部腐食
		木材/カシ類					
2542	1071	木材 割材/みかん割材	1483	71	40		中間部わずかに欠
		木材/カシ類					
2544	1071	木材 割材/みかん割材	1249	40	31	長さは2部分の合計値	上端部・中央部欠
		木材/カシ類					
2545	1071	木材 割材/みかん割材	1293	75	22		両端、中間部欠
		木材/カシ類	一端に削り面、他端は潰れ状。表面に削り面あり。				
2647	1071	木材 割材/みかん割材	1661	55	28		ほぼ完存
		木材/カシ類	両端に削り面。一端は薄い先端部を作出しているように見える。他端は切断面か、斜め方向の削り面。				
4326	1071	木材 割材/みかん割材	1204	114	34		両端腐食(一端は割れか)
		木材/カシ類					
9702	1071	木材 割材〔角柱状〕	1072	45	28		端部僅かに欠
		木材/カシ類	四角柱状を呈する各面は、割り面。				

遺構1071 (2) [図60]

2511	1071	木材 割材/みかん割材	1039	78	31		端部欠
		木材/カシ類	図上表裏面とも割れ面。表面は複数の割れ面が残る。				
2512	1071	木材 割材/みかん割材	1024	65	24		両端欠
		木材/カシ類					
2513	1071	木材 割材/みかん割材	1071	83	30		両端欠
		木材/カシ類					
2515	1071	木材 割材〔角材状〕	1011	40	28		一端欠
		木材/カシ類	各面割り面で構成。一部は削り面か。				

計測値は m/m

表10 遺構1070・1071出土木製品観察表

遺物番号	遺構番号	出土位置	遺物種別	長さ	幅/径	器高/厚	計測値備考	遺存【量・状態】
2517	1071		木材 割材/みかん割材	1013	58	26	整形・調整	部分欠
			木材/カシ類	一端に削り面、他端は潰れ状。表面の一部に削り面。				
2520	1071		木材 割材/みかん割材	946	73	24		上部欠
			木材/カシ類					
2541	1071		木材 割材/みかん割材	913	49	30	両端欠	
			木材/カシ類	断面：三角形、偏平				
4325	1071		木材 割材/みかん割材	1008	71	25	両端欠	
			木材/カシ類					

遺構1071 (3) [図61]

2510	1071	木材 割材/みかん割材	936	49	18		上部欠
		木材/カシ類					
2514	1071	木材	899	75	29		両端欠
		木材/カシ類					
2519	1071	木材 割材/みかん割材	608	76	42		半ば欠
		木材/カシ類					
254	1071	木材 割材/みかん割材	752	87	18	部分欠。両端遺存か。	
		木材/カシ類					
2543	1071	木材 割材〔角材状〕	641	55	35		両端欠
		木材/カシ類	断面：四角形				
2546	1071	木材 割材/みかん割材	420	56	25		両端欠
		木材/カシ類					
4324	1071	木材 割材/みかん割材	807	81	22		両端欠
		木材/カシ類	断面：三角形、偏平				
4327	1071	木材 割材〔板材〕	587	81	27		両端欠
		木材/カシ類/板目材	みかん割り材の表皮部を板目方向に割り取り。				
9703	1071	木材 割材〔角材状〕	510	41	25		一端欠
		木材/カシ類					

遺構1071 (4) [図62]

2702	1071	木器制作残滓 削片	58	26	8		半ば欠(縦に割れる)
		木材/					
9704	1071	加工材 切断面のある棒	170	43	35	断面楕円形。先端部のみ取上げ	先端部
		木材/広葉樹/芯持ち材	单面の切断面で斜断				
9705	1071	木器 切断材〔棒状〕	315	29	25	断面楕円形。先端部取上げ	先端部。尖端の裏面欠
		木材/広葉樹/芯持ち材					
9706	1071	木器 横槌	75	76		柄端部は折れか	器表の一部を欠く
		木材/広葉樹/芯持ち材	頭部端は、削り面で整形。 柄は、削り出す。				

包含層 5層・6層 [図63]

307	G26-9642 5層下 位	木器 蓋	132	8		ほぼ完存/全体に木目が浮く
		木材/スギ/柾目材	薄い板材の周縁を荒い削り面で不正な円形状に整形。 上下面是、割り面のままのこす。			
308	G26-9642 5層下 位	木器 柄尻	162	31		柄尻部/片側、両端部は腐蝕
		木材/広葉樹か/芯持ち材 (丸太)	長軸方向の細目の削り面により、全体を整形。 (端面) 粗い削り面か(腐蝕して詳細不明)。 (断面) 円形状。			

表11 遺構1071、包含層5・6層出土木製品観察表

計測値は m/m

遺物番号	遺構番号	出土位置	遺物種別	長さ	幅/径	器高/厚	計測値備考	遺存【量・状態】
	遺物特記	材質	整形・調整					
423	G26-9442	5層下底	木器 糸巻部材	107	25	9	穿孔：径7	ほぼ完存/遺存良
			木材/ヒノキか/柱目材	板材の片面を割り面のまま残し、側面を削り両端に突起を作出。両端部) 上下面を広く面取りし断面不整な円形状と成す。			中央部) 切り込みの両側を削り込んで切り欠く。回転穿孔1箇所。	
2144	G26-0613	5b層	木器 [切欠きのある組合せ部材]	200	48	23		ほぼ完存/遺存良
		切欠き部と対応する位置に、かすかに帯状の圧痕が残り、この位置で挟み込むようにして交差するように組み合わせたものか。	木材/スギ/板目材	長方形厚板材の中央部を横断方向に切り欠き、その部分に穿孔。切欠き)鋸により両側を切り込み、その間を欠き取り。			穿孔)回転錐により、横断方向に2箇所(径3mm)	
7568	G26-8644	5層下	木器 飾り板か	49	15	8		半ばを欠く/遺存良
			木材/樹種不明(広葉樹)/板目材か	細長い板材の端部を丸く整形、中央部に穿孔(2孔が残る)。やや曲面状となる上面側は稜部を面取りし、下面是平坦なまま残すことから、下面を下に目釘で留めつけるような形状となる。				
7572	G26-9444	5層下部	木器製作残滓 削片〔板状〕	68	18	4		遺存良
			木材/ヒノキか					
305	G26-9635	6層か	木器 横槌	142	80	55		柄部を欠く。／腐蝕が進行し、極軟、亀裂大。
			木材/広葉樹/芯持ち材	頭部端面は平滑。体部は荒れて観察不能				
306	G26-9635	6層か	木器 鍔〔三叉鍔〕	347	24	17		片側1/3、頭部を欠く。
			木材/カシ類	側縁)直立する広い削り面で、部分的に面取り。刃部)内側を両端から斜めに削り整形、五角形状の断面となる。刃部先端部)裏面側のみ磨滅して、平滑となり断面楕円形で尖端を成す。				

包含層 11層 [図64]

2081	G26-9642	11層	木器 鍔〔平鍔〕	317	69	11		刃部、半ばを欠く/腐蝕顕著で全体形状をかろうじて留める。
		下半部の両側刃が刃部のように薄いのは、腐蝕によるものか、本来の形状であるのか、判断が難しい。鍔とすると、刃部間隔が異様に狭いことも疑問。	木材/カシ類か	腐蝕のため形状のみ判別可。柄孔より外方の部位か。				
2267	G26-8752	11層	木器 扉〔把手〕	79	33	36		把手部のみの破片/器表は荒れ、木目が浮く
			木材/スギか/板目材	把手部のみが、本体から分離したものとみえる。木材から断面台形状に削り出し、握り部はくり抜いて、断面半円形状となる。				
2297	G26-9551	11層	木器 堅杵〔小形〕	288	61	42	径は槌部(断面楕円形)、握り部断面は、不整円形(径28)	完存/やや腐蝕
			木材/広葉樹(黒色緻密な組織)/芯去り材	長軸方向の幅広の削り面で整形。握り部)細かな鑿状の工具痕が残る。両端面)緩い球面状で平滑。				
2328	G20-9622	11層	木器 横槌	380	62		柄部径:29	ほぼ完存/遺存良
			木材/広葉樹(緻密な組織)/芯去り材	器表は、全体に平滑。柄部)かすかに長軸方向の幅広の削り面が残される。研磨あるいは使用によるものか、稜部は鈍い。柄尻を明瞭に作り出す。頭部)平滑な平坦面。				

計測値は m/m

表12 包含層5層・6層・11層出土木製品観察表

遺物 番号	遺構番号	出土位置	遺物種別	長さ	幅/径	器高/厚	計測値備考	遺存【量・状態】
2356	G26-8742	11層	木器	〔籠状の木製品〕	326	42	26	断面：楕円形（基部） 基部側を欠く
			木材/広葉樹(黒色緻密)/芯去り材		体部：断面楕円形に整形。器表は全体に平滑。 先端部：長軸方向の幅広の削り面により、稜線をもった籠状に整形。端部の先端付近には磨滅面。			
3422	G26-80	11層	木器 木鎌	80	10	7	両端部を僅かに欠く/乾燥収縮し著しく変形	
			木材/不明おそらくイスノキ/木取り不明	著しく変形して、細部不明、全面研磨を行う。 先端部 円錐状に削りだす。 基部 一段細く茎を削りだす。				
7569	G26-9632	11層	木器製作残滓 削片	157	135	35		
			木材/樹種不明	対抗する方向に割れ面。 島状のたかまりを割りとったものか。				
7580	G26-9545	11層	木器製作残滓 切断材	127	45	39	1側面を欠く/腐蝕進行	
			木材/カシ類か/芯去り材	両端は削り面、側面は割れ面で、片面は炭化。				

包含層 12層(1) [図65]

2282	G26-8555	12層	木器 容器〔高台皿〕	117	28	19	底部細片	
			木材/樹種不明/柾目材横木取り	高台との関係から、平面形は楕円形か長方形と復原できる。 底部は高台（ベタ底） 外外面赤色顔料を塗布。				
2372	G26-0613	12層	木器 四角形穿孔のある、板状部材	259	91	11	両端部を欠く/全体に腐蝕顕著	
				薄い板の長側辺に沿う位置に穿孔（長方形孔）。穿孔は纖維方向で浅い角度でノミを入れ、削り取ったものとみえる。整形痕は判別できない。長側辺の縁部はやや丸み。				
2661	G26-9541	12層	木器 鋏	164	60	8	刃部/2の破片/腐蝕が進行し器表剥落	
			木材/カシ類/柾目材	周縁部の2辺が現状を保っているが、その全幅にわたり、薄く整形されて全体に薄い。				
3203	G26-9935	12層	木器 槽	197	174	82	半ばを欠く。破断面は炭化/腐蝕が進行し、亀裂	
			木材の芯部が、底部に位置する。	木材/樹種不明/芯持ち材 半裁した木材の木膚側からえぐり込み、断面逆台形状の凹部作出。 内面の木口面に平刃の工具痕。				
7560	G26-94(44)	12層	木器 切欠きがある板状品	163	26	8	一端を欠く/遺存良	
			木材/針葉樹(スギか)/柾目材	板材の両側から切り込み、三角形の切欠きを設ける。片側の半ばは両側から斜めにそいだようになり、刃縁状を呈す。 表裏面に素材の割り面をそのまま残す。				
7570	G26-0613	12層	木器 包丁形の木器	165	39	9	刃部破片、先端を欠く/腐蝕著しく進行し、かろうじて原形を判断できる	
			木材/カシ類か/柾目材	又鋏破片と考えていたが、上半部の左右辺とも面取りが行われ、刃部は下半部の片側のみ。				

包含層 12層(2) [図66]

397	G26-9535	12層	木器 遊具か〔膝柄〕	223	11	頭部：長さ145×幅25×厚さ13	頭部と柄の一部、細片化	
			木材/広葉樹/枝を残した樹幹	石斧柄と同様な整形を行うが、取り付け角が鈍角で、小形。 台部相当部）表裏とも中央付近に段を残し、断面形は菱形状。台部先端部側は被熱炭化。				
2281	G26-8555	12層	木器製作残滓 切断材	80	60	38	完存	
			木材/広葉樹	端面：切断面、削り面から成る／上面・側面：割れ面、削り面／下面：削り面				

計測値は m/m

表13 包含層11層・12層出土木製品観察表

遺物番号	遺構番号	出土位置	遺物種別	長さ	幅/径	器高/厚	計測値備考	遺存【量・状態】
	遺物特記	材質	整形・調整					
2648	G26-9631	12層	木器 [未分類]	445	77	71	板状部では24	ほぼ完存/遺存良
	2部分の形状の組合せは鳥形木製品によく似る。	木材/樹種不明/木目材か	長軸に沿う細い削り面で棒状に整形する部分と、中央の瘤状の膨らみを境に両面から削り、凹面をもつ板状に整形する部分からなる。 目的とする形状が判然としない。					
3286	G26-9721	12層	木材 板(炭化)	130	116	24		腐蝕進行、軟質
		木材/広葉樹)	上面平滑、下面粗面、一端に切断痕。周縁部炭化。					
7561	G26-7621	12層	木器 板状の木器	115	35	10		半ばを欠く/腐蝕、軟化
		木材/針葉樹(マツか)/柾目材 板	板材の上下面是割り面のまま残し、両端・側辺を削って多角形状に整形する。 中央の位置に方形の孔を刻む。裏面の凹部は穿孔時の割れか。					
7571	G26-0613	12層	木材 穿孔のある板状木	282	37	7		片側を欠く/遺存良、軟質
		木材/針葉樹(スギか)/柾目	板材の片側から突き回し(突き錐)、対応する裏側から切り込みを入れて穿孔する。片側の側辺に沿って2カ所。 側辺はやや丸みをもつ部分がある。 端部の一方は炭化して丸みをもち、他端は一部に削り面が残る。					
7581	G26-9615	12層	木器 尖端をもつ木器	192	23	16	長さは断片の合計	断片化/腐蝕し、器表剥落顕著
	角材状か。断片化。	木材/広葉樹(カシ類か)	3片に分離して接合しないが、各断面四辺形に整形する。細長い形状を想定できる。 先端部と考えるのは、側縁の片側を削り、角のみ状の刃づけをしたように見えるもの。 器表は黒化し、古色を帯びている。					
7582	G26-9615	12層	木器製作残滓 削片	154	101	46		
		木材/広葉樹	一端に削り面、他は荒い割れ面。					
9714	G26-9721	12層	木器製作残滓 削片	79	83	11		端部欠/遺存良
		木材/広葉樹	上面: 平滑な複数削り面。炭化部も削っているように観察される。					

包含層 13層 [図67]

1835	G26-0121	13層	木器 簪	298	17	14		先端欠/腐蝕し器表剥落
			木材/広葉樹(黒色緻密な組織)	先端部) 断面円形に近く整形。面で構成されないことから研磨等の可能性あり。 中央部) 平坦面で構成されて、断面隅円の矩形。 基部) 片面を削ぎ落としたようになり、箆状を呈す。断面低い三角形状。				
3350	G-54	13層	木器 簪〔刃部部材〕	225	13	10		ほぼ完形/乾燥収縮し著しく変形。「S」字状に屈曲
			木材/広葉樹(緻密な組織)/芯去り材	変形が顕著で観察に難がある。 明瞭な調整は確認できないが、先端部・基部とも複数の剥離面で構成され、箆状を挺しているように見える。 中央部は、やや太くなり両側面には平坦面がみえ、断面は隅円の矩形。				
3378	G25-9114	13層	木器 鋏〔平鋏〕	270	175	15		下半部を欠く/腐蝕著しく進行
			木材/カシ類/柾目材	周縁の整形は遺存状態不良のため観察できない。 頭部も含め、周縁部を薄く整形しているものか。 柄孔) 鋏前面と思われる方向へやや開く方形の孔。体部に直交する着柄が推測される。				
3405	G26-9222	13層	木器 板状の加工品	25	17	6		両端を欠く/片面は乾燥により器表荒れ
			木材/針葉樹(おそらくヒノキ)/柾目材	長軸方向の広い削り面により、中央に稜をもつ、偏平。				
7578	G26-0312	13層	木器 板状の部材	107	30	5		細片(縁部のごく一部)
	蓋のような使用法が想定できる。	木材/針葉樹(おそらくヒノキ)/柾目材板	側縁は削り面で整形 片面に炭化部が環状となる部分がある。					

計測値は m/m

表14 包含層12層・13層出土木製品観察表

遺物番号	遺構番号	出土位置	遺物種別	長さ	幅/径	器高/厚	計測値備考	遺存【量・状態】
		遺物特記	材質	整形・調整				

遺構1012・1089・1113・1122

[図68]

284	1012	木器 板状の木製品〔段状の切欠きがある棧状の部材〕	76 27 12				両端を欠く細片／腐蝕進行し、極軟。やや収縮変形。
		木材/広葉樹か/木取り不明	棧状に細長い厚板材の片面を一段欠いて薄く整形。				
4167	1089	木器 穿孔のある板状部材	519 291 24				1/3を欠く／腐蝕がやや進行、軟化
	転用材	木材/広葉樹か(不明)/柾目材	板状木材の長側辺側の両側に各2ヵ所穿孔。工具は平刃の刃物で不整な楕円形状の孔、両面から抉り取るように加工。 短側辺)一方では、両側から広い面取り、他面は直立する削り面。 現状では、横断面の形状は弧状となるが、変形によるものか整形作出したものか、判然としない。裏面に対応する変化がみられないことからすると前者。				
3484	1113	木器 槽	186 91 63	内法	長さ147幅71高さ50		一端を欠く/斜めに潰れたように変形(土圧によるものか)
		木材/不明。針葉樹/芯持ち材	半割した木材を箱状に割り抜く。 器表は削り面のまま残す。 木材芯は箱底面の位置にある。				
3552	1122	木器 建築材	210 40				端部のみの資料/遺存良
		木材/広葉樹/芯持ち材	端部は削り面、端面付近に逆台形状の切欠き(大きく削り取る、平刃の刃痕)。 裏面、端部を除き、裂け面。目的的なものか否かは判らない。				

矢板列 1093・1095

[図69]

3357	1093	矢板	165 33 15				先端部/全体に乾燥収縮
		木材/カシ類/割材	板材の一端を斜断し、尖端を作出。				
3361	1093	矢板	218 70 19				先端部
		木材/カシ類/割材(板状)	板材の両側縁を削り、尖端を作出。				
3362	1093	矢板	164 54 13				先端部
		木材/カシ類/割材(板材)	板材の両側縁を削り、尖端を作出。				
3363	1093	矢板	167 24 9				頭部欠/乾燥、各部に亀裂
		木材/カシ類/割材(割片状)	割材の先端部を利用する。				
3364	1093	矢板	192 52 12				先端部/全体に乾燥、亀裂
		木材/カシ類/割材(板材)	板材の両縁を削り尖端を作出。				
3365	1093	矢板	181 27 8				頭部欠/器表剥落
		木材/カシ類/割材(割片)	割材断片の尖頭状となった部分を利用したものか。				
3366	1093	矢板	349 63 18				頭部欠
		木材/カシ類/割材(割片)	板材の両側縁を斜めに削ぎ落し、上面も削って尖端を作出。				
3367	1093	矢板	332 73 15				頭部欠
		木材/カシ類/割材	板材の両側縁を斜めに削ぎ落し、尖端を作出。				
3368	1093	矢板	153 43 12				先端部。頭部は乾燥による収縮。
		木材/カシ類/割材(板材)	板材の両側縁を削り、尖端を作出。				
3369	1093	矢板	114 37 13				先端部
		木材/カシ類/割材(板材)	割材の尖端部を利用するものか。				

表15 遺構出土木製品観察表(遺構1012・1089・1113・1122、矢板列1093・1095)

計測値は m/m

遺物 番号	遺構番号	出土位置	遺物種別	長さ	幅/径	器高/厚	計測値備考		遺存〔量・状態〕
							整形・調整		
4051	1095		矢板	142	38	7			先端部/腐蝕進行(剥離)
			木材/カシ類か/割材(板材)				板材の片側縁を削り、尖端を作出。		
4052	1095		矢板	132	32	6			先端部/腐蝕進行(剥離)
			木材/カシ類か/割材(板材)				板材の片側縁を削り、尖端を作出。		
4053	1095		矢板	194	68	12			先端部/腐蝕進行(剥離)
			木材/カシ類か/割材(板材)				板材の両側縁を削り、尖端を作出。		
4054	1095		矢板	160	42	8			先端部/腐蝕進行(剥離)
			木材/カシ類か/割材(板材)				板材の両側縁を削り、尖端を作出。		

計測値は m/m

表16 矢板列1082出土木製品観察表

遺物番号	遺物種別	遺構番号	層	図	表	遺物番号	遺物種別	遺構番号	層	図	表	遺物番号	遺物種別	遺構番号	層	図	表
284	切欠部材	1012	68	15		2409	矢板	1061	53	8		3273	矢板	1070	57	10	
305	横槌	包含層 6層	63	12		2410	簪	427	18層	39	3	3274	矢板	1070	57	10	
306	鋸〔三叉鋸〕	包含層 6層	63	12		2439	鋸〔又鋸〕	427	22層	42	4	3275	板材	1070	57	10	
307	蓋	包含層 5層	63	11		2460	鋤	427	18層	39	3	3278	えぶり	427	18層	36	1
308	柄尻	包含層 5層	63	11		2471	簪	427	18層	39	3	3286	板(炭化)	包含層 12層	66	14	
397	遊具	包含層 12層	66	13		2474	有孔板状木器	427	22層	50	8	3350	簪	包含層 13層	67	14	
423	糸巻部材	包含層 5層	63	12		2505	鋸〔平鋸〕	427	22層	42	4	3357	矢板	1093	69	15	
937	器具部材	427	18層	39	3	2507		1062	55	9		3361	矢板	1093	69	15	
1342	足付盤	427	19層	41	4	2508	板状〔割材〕	1062	55	9		3362	矢板	1093	69	15	
1345	横槌	427	18層	38	2	2509	板状〔割材〕	1062	55	9		3363	矢板	1093	69	15	
1346	柄(膝柄未成品)	427	22層	48	7	2510	割材	1071	61	11		3364	矢板	1093	69	15	
1347	鋸	427	18層	34	1	2511	割材	1071	60	10		3365	矢板	1093	69	15	
1349	鋸	427	18層	35	1	2512	割材	1071	60	10		3366	矢板	1093	69	15	
1353	堅杵	427	18層	38	2	2513	割材	1071	60	10		3367	矢板	1093	69	15	
1378	堅杵	427	19層	41	4	2514	割材	1071	61	11		3368	矢板	1093	69	15	
1383	堅杵	427	18層	38	2	2515	割材	1071	60	10		3369	矢板	1093	69	15	
1384	簪	427	18層	39	3	2516	割材	1071	59	10		3378	鋸〔平鋸〕	包含層 13層	67	14	
1385	蓋状木器	427	18層	40	4	2517	割材	1071	60	11		3405	板状木器	包含層 13層	67	14	
1393	鋸柄〔直柄〕	427	18層	37	1	2518	割材	1071	59	10		3408	堅杵	1044	55	9	
1395	簪	427	22層	47	6	2519	割材	1071	61	11		3422	木鑓	包含層 11層	64	13	
1417	えぶり	427	18層	36	1	2520	割材	1071	60	11		3484	槽	1113	68	15	
1457	簪	427	22層	47	6	2540	割材	1071	61	11		3552	建築材	1122	68	15	
1470	杓子	427	22層	50	7	2541	割材	1071	60	11		4051	矢板	1095	69	16	
1478	柄か	427	22層	46	5	2542	割材	1071	59	10		4052	矢板	1095	69	16	
1503	横槌	427	18層	38	2	2543	割材	1071	61	11		4053	矢板	1095	69	16	
1505	木鑓	427	22層	50	7	2544	割材	1071	59	10		4054	矢板	1095	69	16	
1507	横槌	427	18層	38	2	2545	割材	1071	59	10		4167	穿孔板状部材	1089	68	15	
1508	横槌か	427	18層	38	2	2546	割材	1071	61	11		4324	割材	1071	61	11	
1571	鋤〔偏刃〕	427	18層	37	1	2580	鋸〔又鋸〕	427	18層	34	1	4325	割材	1071	60	11	
1572	簪	427	18層	39	3	2596	鋸〔平鋸〕	427	22層	44	5	4326	割材	1071	59	10	
1579	柄〔膝柄〕	427	18層	37	1	2599	鋸〔平鋸〕	427	22層	44	5	4327	割材	1071	61	11	
1587	鋸〔平鋸〕	427	18層	35	1	2602	斧柄〔膝柄〕	427	22層	45	5	7560	切欠き板状部材	包含層 12層	65	13	
1604	斧柄〔膝柄〕	427	22層	46	5	2637	扉	427	18層	40	4	7561	板状木器	包含層 12層	66	14	
1609	斧柄〔膝柄〕	427	22層	47	6	2638	把手部材	427	18層	39	3	7567	尖頭器〔フグシ〕	427	18層	39	3
1617	周縁穿孔部材	427	22層	50	8	2640	鋸〔狭鋸〕	427	22層	41	4	7568	飾り部材	包含層 5層	63	12	
1618	柄か	427	22層	47	6	2647	割材	1071	59	10		7569	削片	包含層 11層	64	13	
1649	柄〔膝柄〕	427	22層	45	5	2648	〔未分類〕	包含層 12層	66	14		7570	包丁形木器	包含層 12層	65	13	
1684	容器〔椀〕	427	22層	49	7	2661	鋸	包含層 12層	65	13		7571	穿孔板状部材	包含層 12層	66	14	
1699	弓	427	22層	47	6	2700	杵〔堅杵〕	427	24層	47	6	7572	削片	包含層 5層	63	12	
1740	容器〔蓋〕	427	22層	49	7	2702	削片	1071	62	11		7578	板状部材	包含層 13層	67	14	
1744	平鋸	427	22層	43	5	2955	横槌	427	18層	38	2	7580	切断材	包含層 11層	64	13	
1755	鋸〔三叉鋸〕	427	22層	42	4	2966	横槌	427	22層	47	7	7581	尖頭器	包含層 12層	66	14	
1778	平鋸	427	22層	43	5	3046	柄か〔膝柄〕	427	22層	46	6	7582	削片	包含層 12層	66	14	
1835	簪	包含層 13層	67	14		3133	柄〔斧柄〕	427	22層	47	7	7586	削片	427	22層	50	8
1871	横槌	1054	51	8		3203	槽	包含層 12層	65	13		7588	建築部材	427	22層	50	8
1873	槽	1054	51	8		3216	杓子	427	22層	49	7	7590	柄	427	22層	46	6
1874	櫛形木器	1054	51	8		3241	矢板	1070	57	9		7591	鑿状	427	22層	47	7
1875	横杵〔横杵〕	1054	51	8		3242	矢板	1070	57	9		7592	横槌	427	18層	38	2
1893	鋸〔又鋸〕	427	18層	34	1	3243	矢板	1070	57	9		7605	鋸〔平鋸〕	427	22層	42	4
2081	鋸〔平鋸〕	包含層 11層	64	12		3244	矢板	1070	57	9		7610	鋸〔又鋸〕	427	18層	35	1
2144	組合せ部材	包含層 5b層	63	12		3245	矢板	1070	57	9		7613	杭〔丸木杭〕	427	18層	40	4
2267	扉〔把手〕	包含層 11層	64	12		3246	矢板	1070	57	9		9441	簪	427	18層	39	3
2281	切断材	包含層 12層	66	13		3247	矢板	1070	57	9		9444	棒状の加工品	427	18層	40	4
2282	容器〔高台皿〕	包含層 12層	65	13		3253	矢板	1070	57	9		9702	割材	1071	59	10	
2297	堅杵〔小形〕	包含層 11層	64	12		3254	矢板	1070	57	9		9703	割材	1071	61	11	
2328	横槌	包含層 11層	64	12		3255	矢板	1070	57	9		9704	棒材	1071	62	11	
2329	堅杵	427	18層	38	2	3256	矢板	1070	57	9		9705	棒材	1071	62	11	
2330	堅杵	427	18層	38	2	3259	矢板	1070	57	9		9706	横槌	1071	62	11	
2356	箆状木製品	包含層 11層	64	13		3260	矢板	1070	57	9		9709	簪	427	22層	47	7
2372	穿孔板状部材	包含層 12層	65	13		3261	矢板	1070	57	10		9710	農具柄〔膝柄〕	1054	51	8	
2380	簪	427	18層	39	3	3262	角杭	1070	57	10		9714	削片	包含層 12層	66	14	
2408	割材	1061	53	8		3272	矢板	1070	57	10							

表17 報告木製品一覧(索引)

III まとめ

今回報告は、今宿五郎江遺跡第10調査のうち、溝427遺物出土状況及び、谷部出土資料を含む木製品についておこなった。

溝427は、西の第9次調査区から続くもので、今宿五郎江遺跡の立地する台地の周縁に沿って掘削されている。

溝427埋積層について

溝427を埋める堆積層は、大きく5分して調査を行った。上位2層は、溝427の埋没が進行し、浅い窪み状となった環境下に生成、堆積したものと思われる。25層とする層は、地山土の移動の結果と見え、間に灰層を挟んでいることから人為的に形成された可能性が高い。土器にも完形のものが含まれる。16層は、泥炭質の粘土層で、10次地点では浅くなつた溝427を埋めるように生成している。その上部は削剥され、最終的には5b層・5層が覆う。5b層の堆積は16層の生成からかなり後のこととなるので、13層、12層といった5b層の堆積以前の層の堆積に際して現況に近い状態となっていた可能性はある。西隣する第9次調査地点では、溝427の埋没後谷部を含め広く泥炭質粘土層が広がっており、その性状は第10次地点の16層と同様のものである。このことから、もともと16層は溝427の窪みを埋めるだけでなく、第9次地点と同様広く谷部にも広がっていたことも考えられる。

下位の18層以下について、18層は砂層が主体となる層であり、16層と同じように考えると、第9次地点の溝427を埋積する上位層である21層に代表される砂層につながるものである可能性が高い。同様に最下位の22層は、第9次地点の29層(東半区)から続くものと考えられる。

以上、今宿五郎江第10次地点では、第9次地点と同様、溝427掘削後、静水環境での堆積が進行していたが、ある時点から流水の影響を受けるようになりさらに埋積が進行し、最終段階では谷全体に生成した層下に没したものと想定できる。

遺物の出土状況について、各層を通じて南端部の35-10区、中央部の26-05区を中心とした位置での出土量が最も多い。35-10区は、第9次地点から一段下るような位置にあり、溝底の勾配が緩く変化する位置となり、26-05区は北側の溝底がやや高くなっていることも影響しているものか。また、26-05区と付近では西岸からの流れ込んだような土器の出土状況が見られる

出土木製品について

今回報告では、木製品のみを報告した。約1100点の資料中、溝427出土資料はその1/3程を占めるそれ以外の多くは、谷部に設けられた杭列、矢板列といった遺構を構成する部材としての杭、矢板である。

溝427中18層から22層にまたがって出土した。木製品は約370点を数える。そのうち木器とするものは82点、残りの大半は割材とするもので、他に少数の矢板が含まれる。利用する木材の大半はカシ材とするものである。その大半は割材とするものである。樹種もカシ材とみるものがほとんどである。器種の構成に顕著な偏りは認められない。敢えていえば農具の特に鍬とするものの数が多い。但し腐蝕の進行で形状について不明瞭なものも多い。次いで箒が顕著である。海岸部であるという立地によるものか。

報告書抄録

いまじゅくごろうえ

今宿五郎江 10

—今宿五郎江遺跡第10次調査報告(2)—

福岡市埋蔵文化財調査報告書第1110集

2011年3月18日

発行 福岡市教育委員会

福岡市中央区天神1丁目8番1号

印刷 株式会社ハザマ印刷

福岡市南区那の川1丁目20番23号